

Windows 用インテル(R) ISM 8.40 アド ミニストレータ ガイド

(このページは意図的に空白にされています)

目次

インテル(R) サーバ マネージャ について 8.40	1
インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 (管理者インストール).....	1
インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 の新機能	2
全導入管理費用 (TCO) の削減	3
システム要件.....	4
ISM のセキュリティ.....	7
ユーザの権限.....	9
ISM のドキュメント.....	10
コンピュータの管理	11
ツールバーの使用.....	11
新しいコンピュータを検索する	12
管理するコンピュータを追加する	13
管理するコンピュータを選択する	15
コンピュータのステータス アイコンについて	17
グループを使用する	18
カスタム属性を適用する	19
表示リストにフィルタを適用する	20
コンピュータをリストから削除する.....	20
選択したコンピュータへの接続.....	21
電源オプションの使用	22
パッケージのダウンロードとインストール.....	25
IPMI の設定	27
任意のブラウザからコンピュータを管理する	29
以前のバージョンのクライアント マネージャを使用しているコンピュータを管理する	30
システム インベントリを管理する.....	31
コンピュータ概要.....	31
システム データを表示する	32
資産管理	34
ブレード シャーシ Web インターフェイス	35
ブレード スロット.....	36
BIOS	36
シャーシ	37

CPU.....	37
デバイス ドライバ.....	38
ディスプレイ.....	38
ドライブ.....	39
環境変数.....	39
ファン.....	40
フィールド置換可能ユニット (FRU).....	40
インストールされているアプリケーション.....	41
キーボードとマウス.....	41
管理モジュール.....	42
メモリ.....	42
モデム.....	43
マザーボード.....	44
マルチメディア.....	45
ネットワーク.....	45
オペレーティング システム.....	47
OS イベント ログ.....	47
パフォーマンス.....	48
ポート.....	49
パワー ドメイン.....	50
電源モジュール.....	50
電源.....	51
プロセス.....	51
センサー.....	52
サービス.....	53
記憶装置.....	53
温度.....	54
重要製品データ.....	55
電圧.....	55
レポート.....	57
設定変更の監視.....	57
ハードウェア イベントを表示する.....	57
ハードウェア イベント ログのアーカイブを表示する.....	59
システム レポートの使用.....	59

システム データのエクスポート	61
管理者ログとシステム ログを表示する	62
アラートを設定および表示する	65
アラートを使用する	65
アラート標準フォーマット (ASF) の使用	67
SNMP を使用する	68
Alert Management System を使用する	68
ポーリング頻度の設定	69
IPMI 設定	70
コンピュータ ヘルスを監視する	75
ヘルスを監視する	75
タスクバー アイコンを使用する	76
パフォーマンス カウンタを選択する	77
基本設定	79
アラートの基本設定	79
コンピュータ リストの基本設定	82
検索の基本設定	83
ハードウェア イベントの基本設定	85
レガシー サポートの基本設定	86
参考文献	89
トラブルシューティング	89
SNMP	91
ISM サービス	91
IPMI	92
バージョン情報	94
摂氏から華氏に変換する	94
用語集	95
著作権と商標について	106
キーワード	109

(このページは意図的に空白にされています)

インテル(R) サーバ マネージャ について 8.40

インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 (管理者インストール)

コンピュータ業界の発展に伴いコンピュータ システムは複雑になり、管理も煩雑になっています。数年にわたって使用するコンピュータの管理および修理に費やす時間はその **TCO (Total Cost of Ownership、総所有コスト)** 増加の原因になり、この TCO がコンピュータの購入額を大きく上回ることにもなりかねません。

インテル(R) サーバ マネージャを使用すると、コンピュータの管理および一般的なコンピュータの問題に対するトラブルシューティングが簡単になり、全導入管理費用 (TCO) を削減することができます。ISM で次のことができます。

- **システム インベントリの表示** - ISM を使いコンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの設定に関する詳細情報を確認できます。
- **コンピュータのヘルスを監視** - ISM ではコンピュータの温度、電圧、メモリの空き容量、およびディスクの空き容量などのヘルス バロメータに基づいて、コンピュータのヘルスが警告または危険な状態になった場合に報告が行われます。
- **システム イベントのアラート受信** - ISM は最大 4 つのアラート レベルを使用して問題を通知できます。
- **パフォーマンス (リアルタイムと履歴) の監視** - ドライブ、プロセッサ、メモリ、サービスなど、さまざまなシステム オブジェクトのパフォーマンスを監視できます。指定したカウンタが上限や下限のしきい値を、あらかじめ定義した回数だけ超過または下回った場合に、通知を生成するアラート アクションを設定できます。
- **現在のプロセスの監視** - 現在進行中のプロセスと各プロセスに関する統計を表示し、プロセスの一部または全部を停止できます。
- **現在のサービスの監視** - 現在実行中のサービスや各サービスのステータスを表示できます。また、サービスのステータスが変わった場合に、アラートを発行するように設定することもできます。
- **コンピュータをリモートからオン、オフ、再起動** - ISM では、管理コンソールからそれをサポートするシステムのリモート電源管理が可能です。
- **設定変更の監視** - コンピュータのハードウェアやソフトウェアの設定が変更された際に、アラートを送信することができます。例えば、メモリがコンピュータから削除されたり、アプリケーションが追加または削除された際にアラートを発信できます。USB ポートを監視して、USB ドライブへのアクセスが検出されるアラートを生成することができます。

クライアント、サーバ、および管理者のインストール

ISM では、次のモジュールをインストールできます。

- **クライアント** - クライアント インストールでは、エンドユーザが情報を表示し、ローカルのデスクトップまたはモバイル コンピュータのアラートを管理できます。このインス

ツールでは、管理者がクライアント コンピュータを管理することができますが、エンドユーザが他のコンピュータを表示または管理することは許可しません。

- **サーバ** - サーバ インストールでは、エンドユーザがローカルのサーバ コンピュータの情報を表示し、アラートを管理できます。このインストールでは、管理者がサーバ コンピュータを管理することができますが、エンドユーザが他のコンピュータを表示または管理することは許可しません。
- **管理者** - 管理者インストールでは、管理者がネットワーク上にあるリモートのクライアントやサーバを管理できます。つまり、情報の表示、レポートの作成、アラートの受信、管理されている他のコンピュータの電源のオン/オフ切り換えをリモートから実行できます。リモートからコンピュータの再起動、電源オン、または電源オフを実行するには、ネットワーク上で少なくとも 1 台のコンピュータに管理者インストールがインストールされている必要があります。サポートされているブラウザを使用して、管理コンソールをホストするシステムにアクセスし、さまざまな場所からネットワーク上のコンピュータを管理できます。

注 - インストールした後コンソールを実行しようとしたが、代わりにこのヘルプ ファイルが開いた場合、IP アドレスが正しく設定されていない可能性があります。

複数のプラットフォームで ISM を実行する

ISM は、Windows と Linux の両方のバージョンが利用可能です。インストールするプラットフォームに関係なく、管理コンソールは Windows または Linux を実行するサーバ コンピュータを検出できます。Windows プラットフォームにインストールした管理者コンソールでは Windows と Linux コンピュータを共に管理できますが、Linux プラットフォームにインストールされた管理者コンソールでは Linux コンピュータしか管理できません。ISM は、下の表に示されているようなサポートされているオペレーティング システムとブラウザを持つリモート コンピュータから表示および実行することも可能です。

インストール	Windows Internet Explorer でのリモート実行	Linux Mozilla でのリモート実行
Windows の管理者	可	不可
Windows のサーバ	可	不可
Linux の管理者	可	可
Linux のサーバ	可	可

インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 の新機能

インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 には、次の新機能があります。

- インテル (R) サーバ コンピュート ブレード SBXL52、SBX82 及び SBX44 (インテル ブレード サーバ シャーシ管理モジュール SBCECMM を使用する場合)のサポート
- インテル(R) キャリア グレード サーバ TIGPR2U と TIGPT1U へのアウトオブバンドサポート

- インテル(R) SE7230NH1-E と SE7525RP2 及び SE7320EP2 サーバボードへのインバンドサポート
- ISM コンポーネントのドイツ語、簡体中国語、ロシア語、日本語へのローカリゼーションの追加
- ブレードサーバを管理しやすくするためのマイ コンピュータ リスト内でのブレードシャーシ管理モジュール (MM) のグループ表示
- インテル(R) EM64T 対応の Red Hat Enterprise Linux 3 Update 4 及び SuSE Linux Enterprise 9 を使用してのインテル(R) EM64T プラットフォームのサポート (インテル EM64T エディション)

全導入管理費用 (TCO) の削減

ISM では、リアルタイムでコンピュータヘルス、警告の通知、リモートコンピュータ管理、サーバ管理の 4 つの主要なエリアにおける基本的な管理テクノロジーを提供することによってコンピュータの維持費を節減できます。

コンピュータヘルス

コンピュータの維持管理が適切に行われていない場合、修理を必要とする緊急事態が発生する可能性があります。その場合、次のような要因により TCO が増大します。

- コンピュータユーザのダウンタイムが発生する
- 早急な対処が必要な緊急事態が発生する

ISM のヘルス機能を使用すると、特定の保守作業を予測してスケジュールすることができ、コンピュータのダウンタイムを減らし、その他のタイミングが重要な作業への影響を避けることができます。

ISM はコンピュータのヘルスステータスを示すグラフィカルアイコンを使用します。たとえば、デスクトップコンピュータのヘルスステータスアイコンには、次のものがあります。

-  正常
-  警告
-  危険
-  使用不能
-  ウェイクアップ可能
-  不明

ISM は、使用可能なハードディスクドライブの容量、使用可能メモリ、温度、および電圧などの重要な機能の活動をモニタすることによって、コンピュータのヘルスを判断します。ディスク容量の不足などのヘルスイベントが発生した場合、ヘルスのステータスはイベントの重要度を反映して変更されます。アラートは、イベントを警告します。通知ログには、ISM からの通知も記録されます。この早期警告システムによって、緊急事態が発生する前に必要な維持管理タスクが通知されます。

アラートを通知する

アラートの通知は TCO の削減に大きく貢献します。ISM による早期の警告は、問題が発生次第または発生する前に解決できます。

コンピュータで問題やほかのイベント (たとえば、ディスク容量が残り少ない、またはコンピュータのケースが開いているなど) が発生した場合、ISM では 1 つまたは複数のアラート アクションを実行してイベントを通知します。

コンピュータのハードウェアまたはソフトウェアの設定が変更した場合にも、ISM はアラートを発します。例えば、メモリがコンピュータから削除されり、特定のアプリケーションがインストールされた際に情報が必要な場合があります。または USB ポートを監視して USB ドライブにアクセスした際にアラートを受け取ることができます。

リモート コンピュータの管理

ISM を使用すると、リモート コンピュータへの移動に必要な時間も大幅に短縮されるので、TCO の削減につながります。ネットワークおよび組織のレイアウトによっては、問題の性質、またはコンピュータのハードウェアやソフトウェアの設定を確認する以前に、コンピュータの配置場所に移動するだけで時間がかかる場合があります。

ISM を使用することで、詳細なシステム情報やレポートの作成、新しいデバイス ドライバ等のファイルの転送、リモートからのコンピュータの再起動、シャットダウン、起動等の処理が可能で、移動に費やす時間を大幅に削減できます。また、ISM ではシステムのパフォーマンスを監視することもできます。

サーバ管理

ISM のサーバ モジュールでは、サーバに特有の標準やタスクがサポートされています。たとえば、IPMI のサポート、パフォーマンス (履歴とリアルタイム) の監視、リモート サービスやプロセスの監視やアラートなどです。IPMI をサポートすることで、自動アラート機能、システムのシャットダウンと再起動、電源コントロールと資産追跡機能などにより、保守管理にかかる費用が削減されます。メモリや CPU などの重要なサーバ コンポーネントのパフォーマンスの履歴データを表示したり、データが指定したしきい値を超過した場合にアラートで通知する方法を自由自在に設定できます。管理者は、個々のサーバで実行中のサービスを表示し、サービスのステータスを判断することができます。

システム要件

注：下に挙げるオペレーティング システムのバージョンがインテル サーバ マネージャをインストールする先のコンピュータでサポートされているかをそのコンピュータのマニュアルでご確認ください。一部のインテル サーバ ボードではこれらのバージョンはサポートされていません。

管理者コンピュータ

- Windows* 2000 Professional SP4, Windows 2000 Server SP4, Windows XP Professional SP2, Windows 2003 Server SP1
- OS に必要な最低限の RAM。

- 管理者コンピュータにインストールするには **350 MB** の空き容量が必要です (セットアップを起動しているコンピュータには **500 MB** が必要です)。
- 実行するには **40-100 MB** のハードディスクの容量が必要です。
- **SNMP** と **SNMP** トラップサービス
- **Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.8** (Windows システム)
- 適切な設定の **TCP/IP** を持つネットワーク アダプタ
注: インストールした後インテル サーバ マネージャを実行しようとしたが、起動しないで、代わりにこのヘルプ ファイルが開いた場合、**IP アドレス**が正しく設定されていない可能性があります。
- **Internet Explorer 6.x SP1** かそれ以降 (Windows 版)
- **Macromedia* Flash player** は一部のグラフィック要素の表示に必要です。 **Adobe Acrobat* Reader** は文書の表示に必要です。 これらのソフトウェアがまだインストールされていない場合は、必要になったときにインターネットからダウンロードしてインストールしてください。

注: パッケージや `lm-sensors` のインストールや、`mysql` や `ftp` ユーザ設定はインテル(R) サーバ マネージャ 8.40 スタート ガイドの情報を参照して下さい。

Red Hat Enterprise Linux 3 (32 ビット アーキテクチャ)

- `bash-2.05b-29`
- `mozilla-1.4` (1.7 推奨)
- `mysql-3.23.58-2.3` (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- `mysql-server-3.23.58` (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- `net-snmp-5.0.8-11`
- `openssl-0.9.7a-22.1`
- `perl-5.8.0-88.4`
- `perl-CGI-2.81-88.4`
- `perl-DBD-MySQL-2.1021-3` (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- `perl-DBI-1.32-5`
- `perl-Filter-1.29-3`
- `pygtk2-1.99.16-8`
- `python-2.2.3-5`
- `sudo-1.6.7p5-1`
- `sysstat-4.0.7-4`
- `xinetd-2.3.12-2.3E`
- `w3c-libwww-5.4.0-5` (One-boot Flash Update ユーティリティが必要)
- `lm_sensors-2.9.1`
- `xorg-x11-deprecated-libs-6.8.2-1.FC3.13.i386.rpm`

RHEL 3 ES Update 4 (インテル EM64T エディション)

- bash-2.05b-29
- mozilla-1.4 (1.7 推奨)
- mysql-3.23.58-2.3 (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- mysql-server-3.23.58 (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- net-snmp-5.0.8-11
- openssl-0.9.7a-22.1
- perl-5.8.0-88.4
- perl-CGI-2.81-88.4
- perl-DBD-MySQL-2.1021-3 (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- perl-DBI-1.32-5
- perl-Filter-1.29-3
- pygtk2-1.99.16-8
- python-2.2.3-5
- sudo-1.6.7p5-1
- sysstat-4.0.7-4
- xinetd-2.3.12-2.3E
- lm_sensors-2.9.1
- w3c-libwww-5.4.0-5 (One-boot Flash Update ユーティリティが必要)
- xorg-x11-deprecated-libs-6.8.2-1.FC3.13.i386.rpm

SuSE Enterprise Linux 9 SP1 (インテル EMT64)

- bash-2.05b-29
- mozilla-1.5 (1.7 推奨)
- mysql-client-4.0.18 (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- mysql-4.0.18-32.1 (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- net-snmp-5.1-80.3
- openssl-0.9.7a-22.1
- perl-5.8.0-88.4
- perl-DBD-mysql-2.9003-22.1 (インテル サーバ マネージャ管理者コンソールのみ)
- perl-DBI-1.41-28.1
- python-2.3.3
- python-gtk-2.0.0
- python-gnome-2.0.3-2
- sudo-1.6.7p5-1

- sysstat-5.0.1-35.1
- xinetd-2.3.13-39.3
- compat-gcc-32-3.2.3-47.3 & -c++-
- compat-glibc-2.3.2-95.30
- compat-libgcc-296-2.96-132.7.2
- compat-libstdc++-上記に一致
- mysql-shared-4.0.18-32.1 (インテル サーバ マネージャ 管理者コンソールのみ)
- w3c-libwww-5.4.0-5 (One-boot Flash Update ユーティリティで必要)
- xorg-x11-deprecated-libs-6.8.2-1.FC3.13.i386.rpm (インテル コンピュート ブレードで必要)
- libstdc++-3.2.3-47.i386.rpm (Disc 2 Update 4) (インテル コンピュート ブレードで必要)
- kernel source code (OFU ドライバの再構築に必要)

ISM のセキュリティ

本トピックでは、ISM のプライバシーと認証にたいするセキュリティの実装方法について説明します。管理コンソールがサーバおよびクライアントと通信する際に、3種類のセキュリティが実行されます。

- Windows ユーザ グループで割り当てられているユーザ権限
- データの SSL 暗号化
- デジタル証明

以下のセクションでは、管理者コンソールのアクセスとコンソールからコンピュータを管理するためのセキュリティ方式について説明します。

管理コンソールにアクセスする

ISM 管理コンソールは、同一コンピュータ上からコンソールとして、または他のコンピュータから、ウェブブラウザ経由でアクセスできます。コンソールにアクセスするには、ユーザは管理者またはパワー ユーザ権限を使用してOSにログインする必要があります。(ユーザは Windows 管理者またはパワー ユーザ グループのメンバでなければなりません。) パワー ユーザ権限を持つユーザは、ISM内に限られた管理者権限を持ちます。(ISM のユーザ グループと権限の詳細についてはユーザ権限を参照してください。)

コンソールへのアクセスは、SSL 暗号化によって保護されています。一時的なウェブブラウザの証明書と鍵のペアが、各コンソールセッションの最初に作成されます。セッションが終了すると、この証明書と秘密鍵は消去されます。この証明書と鍵のペアは、プライバシー (データの暗号化) 目的で使用されますが、認証用途では使用されません。

リモート アクセス

別のコンピュータ上のブラウザから管理者コンソールにアクセスするには、リモート コンピュータ上で、ユーザが信頼されたルート認証局として、**CBA8** ルート認証局をブラウザの証明書保存先にインストールできる必要があります。これにより、コンソールへのアクセス用に **SSL** 接続の使用が有効になります。

信頼された認証局がインストールされていない場合、セッション開始時にコンソールの証明書チェーンが確認できないという内容の警告ダイアログが表示されます。この段階で、ユーザは警告を無視するか、ルート認証局をインストールするか選択できます。ルート認証局は、ブラウザが **ISM** 管理の目的で定期的に使用される場合にのみインストールしてください。1 回しか管理をしない場合、警告を無視するほうが簡単です。**CBA8** ルート認証局は、**ISM Management Agent** の一時的な認証として確認するためだけに使用されます。高レベルのセキュリティを維持するには、**ISM** 管理のために定期的に使用するブラウザにだけインストールしてください。

管理コンソールと管理するコンピュータ間の通信

管理コンソールと管理するコンピュータ間の通信のセキュリティは、次の方法でサポートされています。

- **ISMManagement Agent** (管理者コンピュータとサーバ コンピュータ、クライアント コンピュータにインストールされたもの) は、コンソール **UI** (ウェブ ページとして) と管理するデータを使用することによって、データに対する **SSL** 暗号化を提供します。
- 管理コンソールへのアクセスに使用するブラウザはすべて、信頼されたルート認証局として、**CBA8** ルート認証局をブラウザの証明書保存先にインストールできます。ルート認証局は、**ISMManagement Agent** の一時的な **HTTPS** サーバ認証として確認するためだけに使用されます。
- クライアントの認証証明書と秘密鍵は、管理コンソール上で作成およびインストールされます。秘密鍵は、管理コンピュータ上にのみ保存されます。秘密鍵は、すべての管理対象コンピュータへのアクセスを許可できるので、保護して安全な場所に保存する必要があります。最低限でも、ユーザはこの鍵へ管理者権限でのアクセスを要求されるようにしてください (実際にこのようにインストールされます)。秘密鍵は送信またはバックアップ メディアに保存する前に、安全に暗号化してください。証明書は、検出され [マイ コンピュータ] リストに追加された際に、個々の管理対象コンピュータに配布されます。管理者証明書を管理対象コンピュータにインストールするには、そのコンピュータ上で管理者のアクセス権 (管理者アカウントに対する **OS** 認証) が必要です。この管理者証明書は、個人情報を含まないで、安全に送信することが可能です。管理者証明書が管理対象コンピュータにインストールされると、秘密鍵のない管理コンソールがアクセスに使用できるようになります。

検索

検出プロセスには、コンソールと管理するコンピュータ間での認証が必要ではありません。**ISM** が管理するべきコンピュータを検索する際、管理者によってまだ管理されていないコンピュータすべてが [その他のコンピュータ] リストに一覧表示されます。その後で、管理者はこのページから管理するコンピュータを選択します。(コンピュータを管理するには、そのコンピュータの **OS** で管理者レベルの権限が必要です。**IPMI** サーバ、シャーシ管理モジュール、および **System Manager** または **Client Manager** の古いバージョンを実行しているレガシ システムへの適切なユーザ名/パスワードのクリデンシャルが必要です。)

管理するコンピュータを追加する

管理するコンピュータのリストにコンピュータが追加されると、ISM は公開鍵と証明書を管理するコンピュータに配信します。これにより、管理コンソールと管理対象コンピュータ間の安全な通信が可能になります。

ユーザの権限

ISM はオペレーティング システムのグループを使用してユーザの権限を定義しています。**Windows** ユーザ グループとユーザ権限の概要を以下に示します。グループにメンバーを追加したり、グループのメンバーを管理するには、オペレーティング システムのツールを使用してください。

管理者

管理者 - ISM 内で完全かつ無制限の管理者権限を含む、コンピュータ/ドメインに対する完全かつ無制限の権限をもちます。

パワー ユーザ:

パワー ユーザ - ISM 内で制限された管理者権限をもった、大部分の管理者権限をもちます。

- 管理者コンソールには、[マイ コンピュータ] と [その他のコンピュータ] のリスト、およびレポート機能が表示されます。管理機能と基本設定機能は使用できません。
- ログ ファイルは表示できますが、クリアしたり、サイズを変更することはできません。
- [マイ コンピュータ] リストでは、ユーザはリストのフィルタ、更新、レポート、データのエクスポートを行ったり、**Windows** エクスプローラを起動してコンピュータに接続することができます。
- [その他のコンピュータ] リストでは、ユーザはリストのフィルタと更新しか行うことはできません。

ユーザ

ISM では読取り権限がありますが、管理者権限は一切ありません。これによって、ユーザがシステム全体に対して事故や故意の変更を行うことが防止されています。

注:

- コンピュータ上で **ActiveX** 制御を有効にしたり、**Flash** をインストールするには（これらは共に ISM ユーザ インターフェースの一部を表示するために必要）、オペレーティング システム レベルの管理者権限が必要です。ユーザ インターフェース表示に関する問題は、ユーザが ISM を実行するコンピュータの管理者グループのメンバーであることを確認することで防止できます。ISM グループのメンバーシップは、そのコンピュータで表示できるコンピュータへのアクセス権を制限するために使用します。
- ドメインレベル管理者グループのメンバーシップを、そのドメイン内のコンピュータに対する管理者権限を自動的に与えるように設定した場合、ドメインレベル管理者グループ

プのメンバーはそのドメイン上のすべての ISM コンピュータを管理する権限を持つこと
になります。

ISM のドキュメント

インテル サーバ・マネージャ をインストールすると、ドキュメントが 2 つの形式で提供されま
す。最適な形式をお選びください。いずれの形式にも同じ情報が含まれています。

- **HTML オンライン ヘルプ** - オンライン ヘルプ (および ISM 製品) には、TCP/IP および
Internet Explorer 6,0 以降のバージョンが必要です。オンライン ヘルプでは、トピック
を表示し、[ファイル]、[印刷] の順にクリックして印刷することができます。
- **Adobe Acrobat .PDF 形式** - これは Adobe Acrobat Reader を必要とする印刷可能な電
子形式です。(Adobe Acrobat Reader の最新の無料バージョンは、
<http://www.adobe.com> からダウンロードできます。)Adobe Acrobat Reader がインスト
ールされている場合は、Windows の [スタート] メニューから [プログラム]、[Intel |
ISM]、ユーザ ガイド (または 管理者ガイド) にアクセスできます。

コンピュータの管理

ツールバーの使用

管理者コンソールの [マイ コンピュータ] と [その他のコンピュータ] ページのツールバーアイコンを使用して素早く ISM の各機能にアクセスできます。

[マイ コンピュータ] ページ

アイコン 説明

-  システムを整理しやすいように管理するコンピュータのグループを作成します。
-  管理するコンピュータにカスタム属性を割り当てます。
-  名前、ステータス、種類、またはカスタム属性に従ってコンピュータのリストをフィルタします。
-  管理されるコンピュータのリストをコンピュータのステータスの新規スナップショットを使用して更新します。
-  管理されているコンピュータのリストから選択したコンピュータまたはグループを削除します。
-  インベントリ データから事前設定されたレポートを作成します。
-  選択したコンピュータのインベントリ情報を .XML 形式にエクスポートします。
-  選択されたコンピュータで電源オプションを開始 (電源のオンとオフ、再起動) します。
-  IPMI 対応サーバでウォッチドッグ タイマーとハードウェア イベント ログに対する IPMI の設定を行います。
-  ブレード サーバ シャーシ管理モジュールに製造元の Web インターフェイスを開きます。
-  Windows エクスプローラを使用して、選択したコンピュータに接続し、ファイルを転送できるようにします。
-  コンピュータにインストールするパッケージをダウンロードします。



コンピュータにパッケージをインストールします。



アドバンスドリモートサーバコントロールを起動します。



[ほかのコンピュータ] ページ

アイコン 説明



特定のネットワーク上のコンピュータを検索します。



コンピュータを [マイ コンピュータ] リストに追加して、管理できるようにします。



名前、ステータス、コンピュータの種類、またはカスタム属性に従ってコンピュータのリストをフィルタします。



[その他のコンピュータ] のリストをクリアします。



管理されないコンピュータのリストをネットワーク上のコンピュータのステータスの新規スナップショットを使用して更新します。

新しいコンピュータを検索する

ISM 管理者バージョンを最初に開いたとき、ISMを実行しているローカルサブネット上のコンピュータの検出を行って、[その他のコンピュータ]リストに取り込みます。[自動検出]は、[その他のコンピュータ]リストを定期的に更新しますが、コンピュータがネットワークに追加されたり削除されるにつれて、リストの更新が間に合わないことがあります。このような場合、いつでも新しい検出を手動で行って、[その他のコンピュータ]リストを更新することができます。新しく検出したコンピュータは、管理する前に [マイ コンピュータ] リストに追加する必要があります。

注：

- 検出プロセスでは情報を収集するために複数回コンピュータにパスするため、[その他のコンピュータ]リスト上のコンピュータの数は最初の検出結果が表示された後数分間増えつづけます。
- 実用的に検出および表示できるコンピュータの台数は、ネットワークの帯域幅と管理コンピュータの OS および利用可能なメモリ量に依存します。管理者コンソール 1 台あたり最高 1000 台までのコンピュータを割り当てることが推奨されます。

新しいコンピュータを検索するには

1. ISM のメイン ページで **[ほかのコンピュータ]** をクリックします。
2. ツールバーの  をクリックします。
3. **[保存されたアドレス]** または **[IP アドレスの範囲]** を選択して、必要な情報を指定します。
4. **[検出]** をクリックします。

ネットワークの規模により、検出は数分かかることがあり、バックグラウンドで続行されます。検出が完了するまですべてのコンピュータは表示されません。検出を実行中にツールバーで



をクリックすると、検出されたコンピュータのみが表示されます。

アドレス範囲を **[保存されたアドレス]** リストに保存するには

1. ISM のメイン ページで **[ほかのコンピュータ]** をクリックします。
2. ツールバーの  をクリックします。
3. **[IP アドレスの範囲]** を選択して、たとえば、開始アドレス：192.125.125.1、終了アドレス：192.125.125.254.
4. **[保存]** をクリックして、アドレス、またはアドレスの範囲を **[保存されたアドレス]** リストボックスに保存します。

[保存されたアドレス] リストからアドレス範囲を削除するには

1. ISM のメイン ページで **[ほかのコンピュータ]** をクリックします。
2. ツールバーの  をクリックします。
3. **[保存されたアドレス]** リストボックスで、削除するネットワーク アドレスを選択します。(複数のアドレスを削除するには、**Ctrl** キーを押しながら選択します)。
4. **[削除]** をクリックして、アドレスを削除します。

注 - この操作では、アドレスは **[保存されたアドレス]** リストのみから削除されます。**[マイ コンピュータ]** リストからは削除されません。**[マイ コンピュータ]** リストから削除するには、**[マイ コンピュータ]** リストで削除したいコンピュータを選択して、 をクリックします。

管理するコンピュータを追加する

コンピュータを管理する前に、そのコンピュータを **[マイ コンピュータ]** リストに追加して、コンピュータの「所有権」を取得しなければなりません。インバンドコンピュータを追加して適切なログイン資格を提供する際、ISM は、それが管理されていることを認識するために、管理するコンピュータ上に証明を作成します。そのコンピュータが **[マイ コンピュータ]** リストに表示されます。

[マイ コンピュータ] リストからコンピュータを削除すると、そのコンピュータはあなたの管理から外され、別の管理者が管理できるようになります。

IPMI 対応コンピュータの追加

IPMI 対応コンピュータを追加する場合、OS 証明書と IPMI パスワードを共に入力する必要があります。選択した IPMI 対応サーバがサードパーティ アプリケーションによって既に設定されている場合のみ、選択して IPMI ユーザ名を入力します。その他の場合は、空白のままにしておきます。ISM は BMC のデフォルト ユーザ アカウントを使用します。

レガシー クライアントの追加

レガシー クライアント（古いバージョンの ISM）を実行しているコンピュータがある場合は、レガシー サポート オプションを（インストール中に、またはレガシー サポートの基本設定ページから）有効にすることで管理できます。レガシー コンピュータを管理に追加するとき、レガシー管理の管理者パスワードを入力する必要があります。レガシーと現行バージョンの ISM を持つコンピュータを選択した場合は、まず現行バージョンを持つコンピュータのみを追加して、その後、レガシー コンピュータを別途選択してから管理に追加することができます。

ブレード サーバとシャーシ管理モジュールの追加

シャーシ管理モジュール (MM) でブレードサーバを追加すると、プロセスの詳細の一部が異なります。個別のブレードサーバではなく、シャーシ管理モジュールのみを追加できます。[マイ コンピュータ] リストにシャーシ管理モジュールを追加すると、シャーシ管理モジュールに証明書は作成されません。シャーシ管理モジュールを追加すると [マイ コンピュータ] リストにグループとして表示され、個別のブレードはグループ内およびシャーシ管理モジュールに一覧表示されます。(シャーシ管理モジュールの追加のプロセスは、単一のコンピュータを追加するよりも時間がかかる場合があります。) これは動的グループの特殊なタイプで、標準のグループのように編集できません。グループで個別のブレードは、シャーシのベイ番号およびブレードサーバの名前により一覧表示されます。

[その他のコンピュータ] リストからコンピュータを選択して追加するには

1. [ほかのコンピュータ] をクリックして、管理されていない検出済みコンピュータのリストを表示します。（管理したいコンピュータが見つからない場合は、ネットワーク上でコンピュータの検索を行って、現在使用可能なコンピュータのリストを表示します。）
2. 管理したいコンピュータを選択します。同じ OS ユーザ名とパスワード（および IPMI 対応システムを選択する場合は IPMI 証明）を使用するコンピュータであれば、複数台を選択できます。
3. ツールバーの [] をクリックします。
4. リスト内の選択したコンピュータをクリックし、[追加] をクリックします。
5. 管理したいコンピュータに必要な証明書を入力します。
6. [追加] をクリックします。

名前またはアドレスを指定して特定のコンピュータを追加するには

1. [ほかのコンピュータ] をクリックします。

2. ツールバーの [] をクリックします。
3. [コンピュータ名または IP アドレス] をクリックして、コンピュータ名または IP アドレスを入力します。
4. [追加] をクリックします。
5. 管理したいコンピュータに必要な証明書を入力します。
6. [追加] をクリックします。

注：ブレード シャーシ管理モジュールの追加には、この方法は使用できません。[その他のコンピュータ] リストでブレード シャーシ管理モジュールを見つけ、上述の手順を使用して追加する必要があります。

シリアル管理されている IPMI コンピュータを帯域外管理に追加するには

シリアル管理されているコンピュータを追加するオプションは、[検索の基本設定] ページで”帯域外 IPMI サーバのシリアル管理を有効”オプションを選択した場合にのみ表示されます。

1. [ほかのコンピュータ] をクリックします。
2. ツールバーの [] をクリックします。
3. シリアル管理コンピュータを追加するオプションをクリックします。
4. ポート、ボーレート、フロー、および電話番号（必要な場合）を指定します。
5. [追加] をクリックします。
6. 管理したいコンピュータに必要な証明書を入力します。
7. [追加] をクリックします。

[マイ コンピュータ] リストからコンピュータまたはグループを削除するには

1. 削除するコンピュータまたはグループを選択します。
2. ツールバーの [] をクリックします。

管理するコンピュータを選択する

[マイ コンピュータ] ページでは、管理する ISM コンピュータおよびグループのリストと、それらを管理するためのツールバーが利用できます。コンピュータを管理する前に、リストにコンピュータを追加する必要があります。リストにコンピュータを追加すると、[マイ コンピュータ] ページを開くたびに ISM が管理するコンピュータに関する情報を取得します。特定のコンピュータを管理するには、リストから選択することができます。デフォルトで [マイ コンピュータ] リストには各コンピュータに関する次の情報が含まれています。

- アイコンは、コンピュータがサーバ、デスクトップ、モバイル コンピュータ、ブレード、またはブレード シャーシのいずれであるかを示します。
- コンピュータ名 - ネットワーク上のコンピュータ名 (または、インバンドで検出されたことのないアウトオブバンド IPMI コンピュータである場合、「IPMI」)。

- **ステータス** - コンピュータのヘルスおよび使用可能かどうかを示すステータス。正常、警告、危険、不明、使用不能、または起動待機中があります。
- **製品バージョン** - コンピュータが実行している ISM のバージョン。あるいは、コンピュータが IPMI 対応でアウトオブバンドである場合「アウトオブバンド」。
- **タイプ** - コンピュータのインスールのタイプ（サーバ、デスクトップ、モバイル、IPMI 対応システムなど）。
- **アドレス** - コンピュータのアドレスと IP アドレス。
- **オペレーティング システムとバージョン** - オペレーティング システムの名前とバージョン。

ソートしたいカテゴリの列ヘッダーをクリックして [マイ コンピュータ] リストをソートすることができます。また、**カスタム列ヘッダーとソート可能な属性を定義**することもできます。

管理するコンピュータを選択するには

1. **[マイ コンピュータ]** リストで、管理するコンピュータをダブルクリックします。
2. このコンピュータにアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力します。

[マイ コンピュータ] を初めて使用する

[マイ コンピュータ] の **ActiveX*** コントロールをロードできなかったという内容のメッセージが表示された場合は、ブラウザのセキュリティ設定を変更する必要があります。ISM では、**Microsoft* Internet Explorer** が **JavaScript*** を実行し、署名付きの **ActiveX** コントロールをダウンロードすることが必要です (署名付きのコントロールは安全性が保証されています)。インターネットとイントラネットの両方のセキュリティゾーンで、**JavaScript** と **ActiveX** コントロールを有効にしてください。

ブラウザのセキュリティ設定を変更するには：

1. ブラウザで、**[ツール]-[インターネット オプション]** をクリックし、**[セキュリティ]** タブをクリックします。
2. **[インターネット]** をクリックし、**[既定のレベル]** をクリックして、セキュリティ設定を**[中]**に変更し、**[適用]** をクリックします。
3. **[イントラネット]** をクリックし、**[既定のレベル]** をクリックして、セキュリティ設定を**[中]**に変更し、**[適用]** をクリックします。
4. **[OK]** をクリックします。

Internet Explorer のセキュリティゾーンとセキュリティレベルの変更に関する詳細は、Microsoft の Web サイトを参照してください。

注 - 一部の機能 (ドライブや電圧の監視のためのしきい値を設定するために使用する機能など) では、**Macromedia* Flash*** コンポーネントが使用されます。コンソールを 1 回実行して、**Macromedia** プレーヤーをダウンロードすると、インターネットに対するブラウザのセキュリティレベルを、既定のレベルに戻すことができます。

コンピュータのステータス アイコンについて

[マイ コンピュータ] ページで、リストの各コンピュータに対して現在のステータスを示すアイコンが表示されています。次の表では、これらの各アイコンと、コンピュータの 6 つの状態について説明します。

デスク トップ	サー バ	ラップ トップ	ブレ ード	ブレ ード シャ ーシ	説明
					使用不能 - ISM がコンピュータと通信できません。これはネットワークに問題がある場合、コンピュータの電源がオフの場合、ネットワークから切断されている場合、または ISM ソフトウェアが削除されている場合に起こる可能性があります。使用不能のコンピュータは、手動で削除するまで [マイ コンピュータ] リストに引き続き表示されます。
					ウェイクアップ可能 - コンピュータは現在電源がオフですが、 <i>Wake on LAN</i> などのリモート ウェイクアップ テクノロジーをサポートします。
					正常 - コンピュータは正常に動作しています。
					警告 - コンピュータのコンポーネントが警告しきい値を超過しました。たとえば、ハードディスクの空き容量が少なくなると、ISM は [警告] アイコンを表示します。ディスク容量やメモリなどのヘルス コントリビュータには、設定可能なしきい値があります。
					危険 - コンピュータのコンポーネントが危険しきい値を超過しました。たとえば、ハードディスクの空き容量が極めて少なくなると、ISM は [危険] アイコンを表示します。ディスク容量やメモリなどのヘルス コントリビュータには、設定可能なしきい値があります。
					不明 - ISM はコンピュータと通信できますがヘルス ステータス (正常、警、または危険など) が不明か、取得中です。

注：

- [マイ コンピュータ] リストの各グループにもステータスを示すアイコンが表示されます。
- [ウェイクアップ可能] ステータスは、リモート ウェイクアップ テクノロジーをサポートしているコンピュータで、電源オフのときに [ウェイクアップ可能] ステータスを表示するように手動で設定されている場合にのみ表示されます。[ウェイクアップ可能] ステータスを表示するで特に指定していない限り、電源がオフになっているすべてのコンピュー

タは [使用不能] のステータス、IPMI 対応コンピュータの場合は、帯域外のステータス情報で表示されます。

グループを使用する

ISM は、管理を容易にするためにコンピュータをグループにまとめることができます。

グループには次の 2 種類があります。

- **静的グループ**は、グループに手動で追加されているコンピュータから構成されます。これらのコンピュータは、削除されるか管理しなくなるまでグループ内に残ります。
- **動的グループ**は、1 つ以上の条件を満たすコンピュータで構成されます。たとえば、現在 [警告] 状態にあるすべてのコンピュータを含むグループなどです。これらのコンピュータは、そのグループに定義した条件に適合するかぎり、グループ内に残ります。

デフォルトで、ISM には次のグループがあります。

- **シリアル IPMI デバイス**には、シリアル接続経由で管理される IPMI コンピュータが含まれます。[検索の基本設定] のページで [帯域外 IPMI サーバのシリアル管理を有効にします] がオンになっている場合、このグループが [マイ コンピュータ] のリストに表示されます。

[マイ コンピュータ] のリストにブレード シャーシ管理モジュールが表示されると、グループとして表示されますが編集できません。グループはブレード シャーシ管理モジュールとシャーシのブレード ベイを、ベイ内の個別のブレード サーバの名前とともに表示します。ブレードサーバは個別に [マイ コンピュータ] のリストおよびブレード シャーシ管理モジュール グループに表示されます。

静的グループを作成または編集するには

1. ツールバーの [

動的グループを作成または編集するには

1. ツールバーの [18

4. グループ (作成したばかりのものを含む) を編集するには、**[編集]** ドロップダウン リストからグループを選択します。
5. **[条件]** ドロップダウン リストから使用する条件 (名前、ステータス、種類、ハードウェア、定義した任意のカスタム属性) を選択して、**[新規条件の追加]** をクリックします。追加する各条件にこの手順を繰り返して、複数の条件を指定できます。
6. テキスト ボックスに入力するかチェック ボックスを選択して、指定した条件に必要なパラメータを設定します。
7. **[保存]** をクリックします。

例

- コンピュータを名前で選択するには、**[名前]** を選択してから **[追加]** をクリックして、それから 名前の一部とワイルドカードを入力します。たとえば、「**serv***」のようになります。
- 名前とヘルス ステータスでコンピュータを選択するには、**[名前]** を選択して、**[追加]** をクリックし、それから **[ステータス]** を選択してから **[追加]** をクリックします。「**serv***」など名前の一部とワイルドカードを入力して、1 つ以上の **[ステータス]** オプションを選択します。指定したのと同じヘルス ステータスを報告していて、名前のパターンが一致するサーバが、このグループ内に含まれます。

カスタム属性を適用する

列とカスタム属性の定義をして、管理するコンピュータに適用することが可能です。これで、コンピュータの設置場所、所有者、その他の有用な定義属性でソートすることができるようになります。使用する列とカスタム属性を最初に定義する必要があります。その後で適用するコンピュータに割り当てることができます。

カスタム属性を割り当てるには

1. マイ コンピュータのリストから、定義したカスタム属性を割り当てるコンピュータを選択します。たとえば、設置場所の列とビルの各フロアにあたるカスタム属性を作成した場合、4 階にあるコンピュータすべてを選択することが可能になります。
2. ツールバーの  をクリックします。
3. 適当な列ヘッダーの隣にあるドロップ ダウン リストから、選択したコンピュータに適用する属性を選択します。選択すべき列名とカスタム属性がない場合、**[コンピュータ リストの基本設定]** ページで定義する必要があります。
4. **[適用]** をクリックします。

リスト内のコンピュータにカスタム属性を適用したあと、適当な列ヘッダーをクリックすることによってそれらの属性でソートすることができます。

表示リストにフィルタを適用する

[マイ コンピュータ] のページと [その他のコンピュータ] のページには、リストに表示するコンピュータを指定する際に使用するフィルタ アイコンがあります。1つの条件 (名前、ステータス、サーバ、コンピュータのタイプ、またはカスタム属性) や、複数の条件の組み合わせでフィルタをかけ、一部のコンピュータに焦点を絞ることができます。

表示リストにフィルタを適用するには

1. ツールバーの [] をクリックします。
2. [新しい条件を追加] をクリックしてフィルタに使用する条件を選択します。
3. テキスト ボックスに入力し、チェックボックスを選択して、指定した条件のパラメータを設定します。[コンピュータ名] でフィルタする場合は、ネットワーク コンピュータ名、またはコンピュータ名の範囲を入力します。特定のコンピュータ名を検索するために、ワイルドカード文字を入力することもできます。たとえば、「serv*」のようにします。
4. [フィルタ] をクリックします。
5. [] をクリックしてフィルタの結果を表示します。

例

- コンピュータを名前で探すには、[名前] を選択し、[追加] をクリックして、名前または名前の一部とワイルドカードを入力します。たとえば、「server-16」や「serv*」などです。
- [マイ コンピュータ] のページで名前の一部と健康状態でコンピュータを検索するには、[名前] を選択して、[追加] をクリックし、それから [ステータス] を選択してから [追加] を選択します。名前が「serv*」など名前の一部を入力して、一つ以上の [ステータス] オプションを選択します。コンピュータの完全な名前を入力した場合、そのコンピュータのヘルス ステータスが指定したステータスと一致する場合のみ、コンピュータが表示されます。たとえば、「server-16」と入力して、[危険] をクリックした場合、コンソールにヘルス ステータスが正常 (OK) であることがレポートされると、「server-16」はリストに表示されません。

フィルタを削除して、すべてのコンピュータを表示するには

1. ツールバーで [] をクリックしてフィルタするコンピュータのビューを開きます。
2. [すべて表示] をクリックします。

コンピュータをリストから削除する

ツールバーの [削除] ボタンをクリックすると、[マイ コンピュータ] ページに表示されている管理されているコンピュータのリストからコンピュータを削除できます。別の管理者があるコンピュータを管理するようになる場合は、そのコンピュータを削除することができます。コンピュー

タをネットワークから削除するとき、そのコンピュータ名は [マイ コンピュータ] リストから自動的に削除されません。手動で削除する必要があります。

[マイ コンピュータ] リストからコンピュータを削除した後、そのコンピュータが別の管理者によって管理されることなくネットワーク上に留まる場合、次回にネットワーク上のコンピュータを検出するときそのコンピュータは [その他のコンピュータ] リストに表示されることがあります。

コンピュータをリストから削除するには

1. ISM のメイン ページで [マイ コンピュータ] をクリックします。
2. リストから削除するコンピュータを選択します。(Ctrl + shift キーを使い、複数のコンピュータを選択します。)
3. ツールバーの [] をクリックします。

選択したコンピュータへの接続

ネットワーク上でコンピュータを管理する作業では、更新されたデバイス ドライバなどのファイルをリモート コンピュータに転送 (コピー) する必要があります。ISM では Windows エクスプローラを起動して、指定したリモート コンピュータに接続することにより、このタスクを簡略化します。Windows エクスプローラを介して接続する前に、そのコンピュータのドライブまたはディレクトリが共有設定されていることを確認します。共有が設定されていないコンピュータにアクセスすると、ISM がコンピュータに存在しない共有ドライブまたはディレクトリを検索するため、数秒の遅延が生じる場合があります。

注：接続してファイルをコピーするには、次の条件を満たすことが必要です。

- リモート コンピュータの共有に対し、有効なユーザ名とパスワードがあること。
- すべてのリモートの Linux システムに既存の Samba 共有があること。
- すべてのリモートの Windows システムに既存のファイル共有があること。
- リモート システムで Windows XP の簡易ファイル共有をオフにすること。Windows XP システムでのアクセスはユーザ レベル認証のみサポートされています。

Windows Explorer によりファイルを転送するには

1. ISM のメイン ページで [マイ コンピュータ] をクリックします。
2. 接続するコンピュータを選択します。
3. ツールバーの [] をクリックします。
4. 各コンピュータへのユーザ名とパスワードを入力します。

電源オプションの使用

電源オプションを使用すると、管理コンソールから選択したコンピュータの電源の状態を操作することができます。これには、電源のオン/オフと、コンピュータの再起動が含まれます。IPMI 対応コンピュータの電源をオンにするか再起動するとき、コンピュータの起動状態がコンソールウィンドウに表示されます。

- コンピュータを再起動する/電源を切る
- コンピュータの電源を入れる
- Wake on LAN テクノロジー用にルータを設定する
- コンソールの出力先変更ウィンドウを表示する

電源オプションを使用するには

1. [マイ コンピュータ] をクリックします。
2. コンピュータを選択します。
3. ツールバーの [] をクリックします。
4. 次のオプションから選択します。
 -  選択したコンピュータを再起動します
 -  選択したコンピュータの電源を切ります
 -  選択したコンピュータの電源をオンにします。
5. [OK] をクリックします。

コンピュータを再起動する/電源を切る

ネットワーク上のコンピュータの電源をリモートでオフにしたい場合があります。たとえば、通常の停電が発生して、コンピュータを UPS で実行しているような場合、UPS のバッテリーがなくなる前に ISM 管理者を使って正常にすべてのコンピュータの電源をオフにすることができます。そして停電から復帰したら、電源をすべてオンにすることができます。

ネットワーク上のコンピュータに変更を加えた場合、コンピュータを再起動しないとその変更内容が反映されないことがあります。ISM 管理者バージョンを使い、コンピュータをリモートで再起動することができます。コンピュータの電源を切る場合、または再起動を行う場合は、次のものが予期されます。

イベントの説明	ログ ファイルまたは通知モニタの例
ISM から再起動、または電源のシャットダウンが要請されたすべての管理ステーションに対して通知が送信されます。	A system reboot or system shutdown command was issued by the ISM user "administrator." (ISM ユーザ「管理者」によって、システムの再起動またはシャットダウンのコマンドが発

	行されました。)
再起動またはシャットダウンを行う各コンピュータには、30秒後に再起動を行う、または電源を切ることを示すメッセージボックスが表示されます。この際にユーザがコンピュータを使用している場合は、ユーザが再起動やシャットダウンのコマンドをキャンセルすることができます。ユーザがキャンセルすると、管理者は通知を受けます。	A system reboot or system shutdown command issued by the ISM user "administrator" was cancelled by the user Joe. (ISM ユーザ「管理者」により発行された、システムの再起動またはシャットダウンのコマンドが、ユーザ「Joe」によりキャンセルされました。)
再起動またはシャットダウンするコンピュータが Windows *XP を実行しており、ユーザの簡易切り替えが有効になっている場合、現在ログオン中のすべてのユーザに、管理者がコンピュータの再起動かシャットダウンを要求しているという通知が送信されます。カウントダウン中にいずれかのユーザが再起動やシャットダウンをキャンセルすると、ログオン時にすべてのユーザが通知を受けます。	The ISM user "administrator" attempted to reboot or shut down this computer. (ISM のユーザ「管理者」がコンピュータの再起動またはシャットダウンを試行しました。) Because Joe cancelled that action, this computer will need to be rebooted before any changes take effect. (Joe がアクションをキャンセルしたため、このコンピュータで変更が適用される前に再起動する必要があります。) Contact your system administrator immediately. (速やかにシステム管理者に連絡してください。)

注：

- ISM は、管理者コンピュータの電源を切ったり、再起動することはできません。これを試すと、エラーメッセージが表示されます。
- アウトオブバンドである IPMI サーバーの電源を切るか再起動すると、OS は正常にシャットダウンしません。アウトオブバンドの BMC では、電源を切るか、電源を切ってから入れることしかできません。
- IPMI 対応システムでは、ウォッチドッグ タイマーはデフォルトで無効になっています。ウォッチドッグ タイマーは、リモートで電源を切ったり、再起動するときにサーバがハングした場合に電源を切ってから入れる動作を行うので、リモートで電源を切ったり再起動する必要があると思われる IPMI 対応システムに対してウォッチドッグ タイマーを有効にしておくことを強く推奨します。

コンピュータの電源を入れる

ISM では、リモートでコンピュータの電源をオンにすることができます。この機能を利用するには、リモートコンピュータに IPMI 対応の BMC またはシャード管理モジュールのようなリモート ウェイクアップ テクノロジーをサポートするネットワーク アダプタが必要です。IPMI 非対応のコンピュータでは、**Wake on LAN** がサポートされる必要があります。

非 IPMI コンピュータの中には、BIOS でリモート ウェイクアップが使用不可にデフォルト設定されているものがあります。また、ISM からリモートコンピュータの電源をオンにする前に、

各リモート コンピュータのシステムのセットアップでこのオプションを有効にする必要が生じる場合があります。

ウェイクアップをサポートするコンピュータは、電源がオフのときに [ウェイクアップ可能]  アイコンを [マイ コンピュータ] ページに標準の [使用不能]  の代わりに表示するように設定できます。これによって、ISM でどのコンピュータをウェイクアップできるかがわかります。

Wake on LAN テクノロジー用にルータを設定する

ネットワーク サブネットがルータに接続されている場合は、ルータが Wake on LAN が使う指示された IP ブロードキャストを処理するように設定されていることを確認します。そうでない場合は、ISM' の電源オンの機能は実行できません。詳細は、ルータのマニュアルか、システムの必要条件を参照してください。

コンソールの出力先変更ウィンドウを表示する

管理されている IPMI サーバを管理者コンソールから電源を切ったり、再起動するとき、そのサーバの起動情報を表示するコンソールの出力先変更ウィンドウを開くことができます。これは、サーバが再起動していることを確認するために使用します。このコンソール ウィンドウは、また、起動プロセスを一時停止して、管理されているサーバ上の BIOS 設定を変更するために使用することもできます。

コンソールの出力先変更ウィンドウを表示するには、サーバの BIOS 設定で [シリアルポート経由のコンソール リダイレクト] が有効にされていることが必要です。コンソール データはシリアルポートに送信されます。サーバと管理者コンソールがシリアル ケーブルで接続されている場合、コンソールの出力先変更はそのケーブルを通して行われます。それ以外の場合、ISM はシリアルポート経由のコンソール リダイレクト接続を開始して、データをシリアルポートから LAN 接続に出力先を変更します。コンソール ウィンドウが開いている限り、SOL 接続は開いたままです。コンソール データの表示が終了したら、ウィンドウを閉じてください。

コンソールの出力先変更ウィンドウを開くには

1. [マイ コンピュータ] リストからサーバを選択します。
2. ツールバーの  をクリックします。
3. [コンソールの出力先変更のウィンドウを表示します] を選択します。
4. [選択したコンピュータを再起動します] または [選択したコンピュータの電源をオンにします] をクリックします。

注：

- コンソール ウィンドウが開いて、次のメッセージ ウィンドウが開きます。メッセージ ウィンドウは閉じることができます。
- コンソールの出力先変更ウィンドウが開いた後、コンソールが起動シーケンスを表示する前に、ウィンドウに無意味な文字が表示されることがあります。これは、サーバの BMC がハートビート メッセージを送信しているためで、接続先から管理者コンソールに伝送されたものです。これらの文字は、起動情報が表示されている間はコンソールに表示されませんが、起動プロセスが完了した後に再度表示されることがあります。

パッケージのダウンロードとインストール

[パッケージのダウンロード] ページを使って **http** または **https** サーバからパッケージを管理者コンピュータにダウンロードします。その後これらのパッケージを **LANDesk Bootstrap Agent (BSA)** がインストールされているコンピュータにインストールすることができます。パッケージには、通常、**BIOS** またはドライバのアップデートが含まれており、製造元から直接ダウンロードできます。

BSA は **ISM** のクライアント ソフトウェアまたはサーバ ソフトウェアと共にインストールされます。**ISM** の最新バージョンでは **BSA** バージョン **2** が使用されています（レガシー バージョンでは **BSA** バージョン **1** が使用されていました）。

パッケージ ファイルはセキュリティ上電子署名が使用されますが、電子署名の実装方法は **BSA** のバージョン **1** と **2** で異なります。このため、**BSA 2** 用に書かれたパッケージは **BSA 1** がインストールされているレガシー コンピュータにはインストールできず、**BSA 1** 用に書かれたパッケージは **BSA 2** がインストールされているレガシー コンピュータにはインストールできません。

[パッケージのインストール] ページを使って、ターゲット コンピュータにパッケージをインストールします。このページには、以前にダウンロードして、ほかのコンピュータにインストールするために管理者コンピュータに保存されているパッケージが表示されます。[パッケージのインストール] ページの [バージョン] 列には、パッケージが **BSA** のどのバージョン用にかかっているかが示されています。

パッケージのダウンロードとインストールのプロセス

ターゲット コンピュータにパッケージをダウンロードおよびインストールする際、これらの作業を **1** 度に行う方法、およびパッケージを管理者コンピュータにダウンロードしてから被管理コンピュータに後日インストールする **2** つの方法があります。

被管理コンピュータにパッケージをダウンロードまたはインストールするには

1. **ISM** のメイン ページで [マイ コンピュータ] をクリックします。
2. ダウンロードしたパッケージをインストールする個々のコンピュータを選択します。（**Ctrl** および **Shift** キーを使い、複数のコンピュータを選択します。）
3. ツールバーの  をクリックします。
4. **URL** をダウンロードするパッケージの **.MFS** ファイルに入力します。（パッケージは製造元の **HTTP** または **HTTPS** ウェブサイトに保存されています。**URL** は製造元からを取得してください。）
5. ネットワークでプロキシ サーバが使われている場合は、[プロキシの有効化] を選択します。プロキシ サーバの情報およびプロキシ サーバ経由でアクセスする必要のないアドレスを入力します。
6. パッケージをダウンロードするために [適用] をクリックして、[パッケージのインストール] ページを開きます。
7. [パッケージのインストール] ページでパッケージを選び、[適用] をクリックしてターゲット コンピュータへのインストールを開始します。

パッケージを後でインストールするためにダウンロードするには

1. ツールバーの  をクリックします。
2. URL をダウンロードするパッケージの .MFS ファイルに入力します。(パッケージは製造元の HTTP または HTTPS ウェブサイトに保存されています。URL は製造元から取得してください。)
3. ネットワークでプロキシサーバが使われている場合は、**[プロキシの有効化]** を選択します。プロキシサーバ情報およびプロキシサーバ経由でアクセスする必要のないアドレスを入力します。
4. **[適用]** をクリックします。
5. **[パッケージのインストール]** ページで **[閉じる]** をクリックします。パッケージは、後でターゲット コンピュータにインストールするために管理者コンピュータにダウンロードされます。

パッケージを後でインストールするには

1. ISM のメイン ページで **[マイ コンピュータ]** をクリックします。
2. ダウンロードしたパッケージをインストールする個々のコンピュータを選択します。(Ctrl および Shift キーを使い、複数のコンピュータを選択します。)
3. ツールバーの  をクリックします。
4. パッケージを選び、**[適用]** をクリックしてターゲット コンピュータへのインストールを開始します。

例：被管理コンピュータの BIOS を更新する

ISM' のインストール パッケージ機能を使い、被管理コンピュータの BIOS を更新することができます。コンピュータが BIOS アップデート パッケージのインストールを開始すると、パッケージのインストールが開始します。ターゲットのコンピュータは BIOS アップデート パッケージの一部である特殊な DOS モードで再起動して BIOS をフラッシュし、その後コンピュータは通常のオペレーティングシステムを開始するために再起動します。

この機能を使用するためには BIOS アップデート パッケージが、デジタル署名されている必要があります。希望するマザーボード/BIOS の改訂版用のデジタル署名済み BIOS フラッシュ パッケージを取得するには、ISM の製造元にご連絡ください。

コンピュータの BIOS をフラッシュする際にはご注意ください。

- BIOS はマザーボードのモデルにより異なり、あるモデルにおける特有の改訂版であることもあります。正しい BIOS を正しいマザーボードおよびマザーボードの改訂版でフラッシュするようにご注意ください。
- 一部のメーカーの BIOS のアップグレードには、特定の古いバージョンの BIOS が必要です。異なるバージョンの BIOS 間における直接的な移行により、問題が生じることがあります。

- BIOS のアップグレード中にコンピュータを使わないように注意します。BIOS のアップグレードにより、コンピュータが再起動します。
- 警告 :ユーザまたは停電等の他の理由により BIOS のフラッシュが中断すると、フラッシュ中のコンピュータは使用不可能となることがあります。

BIOS をフラッシュする前に対象のコンピュータで CMOS/BIOS 設定を入力し、設定を記録する必要があります。BIOS のフラッシュによりこれらの設定が解除されることがあります。

マザーボードの製造元が BIOS のフラッシュ後に CMOS/BIOS 設定の再入力および CMOS/BIOS デフォルトのロードを推奨する場合は、これらの作業を行います。CMOS/BIOS デフォルトのロード後、以前に記録した CMOS/BIOS 設定を適用します。

BIOS アップデートをダウンロードするには

1. BIOS を更新するコンピュータを選択して、ツールバーで  をクリックします。
2. デジタル署名された BIOS パッケージの manifest ファイルの URL を入力します。必要に応じてプロキシ設定を入力します。[適用] をクリックします。
3. [パッケージのインストール] ページで選択したコンピュータがリストに表示され、フラッシュするものであることを確認します。[適用] をクリックします。
4. BIOS フラッシュ ステータスのグローバルまたはローカル ログを確認します。

注：BSA パッケージをコンピュータに配置する際には、一度に 100 台より少ない数のコンピュータに実行することを推奨します。100 台以上のコンピュータに配置する際には、管理コンソールにすべてのアラートが表示されない場合があります。

IPMI の設定

[IPMI の設定] ページを使って、ウォッチドッグ タイマとハードウェア イベントの設定を IPMI 対応サーバに適用することができます。各サーバ上で個別に IPMI の設定を行うこともできますが、このページを使うと 1 台または複数台のサーバの設定を行うことができます。

ウォッチドッグ タイマ設定

サーバの BMC (ベースボード管理コントローラ) には、サーバがハングまたは無応答になったことを示すウォッチ タイマ機能が含まれています。このタイマーは、定期的に期限切れになるように設定可能で、また期限が切れた際にあるアクション (電源サイクリングなど) を実行することも可能です。ISM は定期的にタイマーをリセットするように設定されているので、期限が切れません。コンピュータが利用できなくなった場合 (たとえば、電源オフ時やハングアップした際に)、タイマーはリセットされずに期限切れになり、アクションが実行されます。

タイマーの期限が切れる時間を指定して、期限切れの際に実行するアクションを選択することができます。

注：ウォッチドッグ タイマは、帯域内サーバまたは WinBridge エージェントを持つサーバでのみ設定できます。

ウォッチドッグ タイマ設定を変更するには

1. 設定を適用したいコンピュータを選択します。
2. [マイ コンピュータ] ツールバーの [] をクリックします。
3. [ウォッチドッグ タイマーをオンにする] にチェックを入れて、タイマーを有効にします。
4. タイマー確認の頻度を指定します（分または秒数）。
5. ウォッチドッグ タイマーが期限切れになった際に実行するアクションを選択します。
6. [適用] をクリックします。

ハードウェア イベント

サーバの BMC には、システム イベント情報が BMC 上の不揮発性メモリのログ エントリとして保存されます。ログからはイベント データは削除されないため、SEL が storage_limit に達すると、新しいシステム イベントが発生しても新しいエントリは作成されません。このため、ストレージがいっぱいになる前にログをクリアするか、他の場所にコピーすることをお勧めします。

ハードウェア イベントのオプションを使うと、BMC イベント ログをクリアするか、選択したコンピュータのデータを自動的にバックアップするように設定することができます。バックアップをオンにすると、ISM は定期的にログをチェックし、イベントによってメモリがどの程度満たされたかを調べます。イベント ログによってメモリが一定パーセント満たされると、管理者コンピュータのデータベースにバックアップされ、メモリがクリアされます。バックアップされたデータは、管理者データベースの AutoSELBackup テーブルに保存されます。

注：

- ハードウェア イベント ログは帯域内サーバに対してのみ設定できます。
- サーバをバックアップする必要が生じたときに管理者コンピュータがオンでない場合、サーバ コンピュータはその情報を保持し、管理者がオンになったときに送信します。
- バックアップでは、SEL に含まれている情報のみ保存されます。バックアップする前に SEL からクリアした情報は保存されません。

ハードウェア イベント ログをクリアするには

1. [マイ コンピュータ] リストで、1 台または複数台のコンピュータを選択します。
2. ツールバーの [] をクリックします。
3. [クリア] をクリックしてから [OK] をクリックします。

ハードウェア イベント ログをバックアップするには

1. [マイ コンピュータ] リストで、1 台または複数台のコンピュータを選択します。
2. ツールバーの [] をクリックします。
3. [ハードウェア イベントのバックアップをオンにする] を選択します。

4. チェックする間隔（時間）を選択します。
5. ログのバックアップに使用するメモリ容量のパーセントを選択します。
6. [適用] をクリックします。

任意のブラウザからコンピュータを管理する

コンピュータに ISM 管理者版がインストールされていない場合でも、ネットワーク上の任意のコンピュータからブラウザを使用して ISM のコンピュータについての情報を管理および表示できます。これを実行するには

- リモート コンピュータに ISM サーバ ソフトウェアがインストールされている。
- リモート コンピュータの電源がオンになっていて、ネットワークに接続している。
- リモート コンピュータ上で有効なユーザ アカウントを使用する必要があります。
- サポートされているブラウザを使用する必要があります。

この方法でリモート コンピュータに接続すると、システム情報を表示してしきい値を設定することができます。ファイルの転送、電源のオン/オフ、またはコンピュータの再起動はできません。このような機能を実行するには、管理者のコンピュータに接続し、これを使用してリモート コンピュータの管理および電源のオン/オフを実行します。（これには、リモート コンピュータとリモートにある管理者のコンピュータの両方に有効なアカウントが必要です。）

ネットワーク上のブラウザからコンピュータに接続するには

1. サポートされているブラウザを開きます。
2. アドレス ウィンドウに次を入力します。

https://[コンピュータ名]:9593/ism/index.tpc

たとえば、<https://server-cl:9593/ism/index.tpc> です。プロキシサーバを使ってインターネットにアクセスしている場合、フルドメイン名を入力する必要があります(<https://server-cl.mycompany.com:9593/ism/index.tpc> など)。この情報には、Internet Explorer のアイコンを右クリックして、[プロパティ]、そして [接続] タブをクリックすることでアクセスできます。

9593 は ISM にアクセスするためにブラウザが使用するポート番号です。

ブラウザがページを表示できないというエラー メッセージを受け取った場合、コンピュータ名かポート番号が間違っています。

「404 NOT FOUND -- 要求されたオブジェクトがサーバ上で見つかりません。」というエラーメッセージが表示された場合、アドレスの **index.tpc** の部分が間違っていて入力されているか、リモート コンピュータの ISM のインストールに問題がある可能性があります。

ネットワーク上でブラウザから管理者のコンピュータに接続するには

Windows を実行しているコンピュータ上の Internet Explorer を使用すれば、Windows または Linux を実行している管理コンピュータに接続することができます。（接続元のコンピュータが管理者のコンピュータのシステム要件を満たす必要があります。これらの要件には Windows 2000、XP、または 2003 Server のサポートされているバージョン、Internet Explorer 6.x SP1 以

降、Macromedia Flash、Microsoft Data Access Components (MDAC) 2.8 および 1024x768 以上の画面解像度が含まれます。詳細情報は、システム要件をご覧ください。)

Linux コンピュータ上の Mozilla を使用する場合、Linux を実行する管理コンピュータにのみ接続が可能です。

1. サポートされているブラウザを開きます。
2. アドレス ウィンドウに次を入力します。

`https://[コンピュータ名]:9593/ism/index.tpc?ADMIN=1`

たとえば、「`https://sysmanager-admin.mycompany.com:9593/ism/index.tpc?ADMIN=1`」などのようになります。

以前のバージョンのクライアント マネージャを使用しているコンピュータを管理する

ISM 8.40 管理者は、インテル^R クライアント マネージャ 6.3 以降および ISM 8.40 クライアント ソフトウェアを実行しているコンピュータを管理できます。[マイ コンピュータ] のページの [LSM バージョン] 列には、クライアント マネージャまたは ISM のバージョンが表示されます。以前のバージョンのクライアント マネージャが実行されているコンピュータを管理するには、[コンピュータを管理する] のページでコンピュータへのリンクをクリックします。これによって、コンピュータにインストールされている 6.x クライアント コンソールがブラウザに起動します。

システム インベントリを管理する

コンピュータ概要

ISM はコンピュータの全般的なヘルスをアイコンでただちに表示します。

-  正常
-  危険
-  警告

サマリ ページにもコンピュータの情報が表示されます。表示されるアイテムはコンピュータのタイプおよびコンピュータでサポートされるテクノロジーによって異なる場合があります。

- **コンピュータ名** - コンピュータに割り当てられている名前。
- **管理者** - コンピュータを管理する管理コンソールをホストするコンピュータの名前。
- **製造元** - コンピュータの製造元。
- **モデル** - コンピュータのモデル番号。
- **バージョン** - コンピュータのバージョン番号。
- **資産番号** - コンピュータに割り当てられた資産トラッキング番号。この番号は、コンピュータの製造元により割り当てられ、コンピュータの BIOS に保存されていることがあります。この情報は BIOS から取得され、変更はできません。このフィールドが空白になっている場合、**[資産番号]** をクリックして資産番号を入力します。
- **シリアル番号** - コンピュータのシリアル番号。
- **BIOS バージョン** - コンピュータのマザーボードに内蔵された BIOS チップのバージョン。
- **オペレーティング システム** - 現在実行中のオペレーティング システム。
- **OS バージョン** - オペレーティング システムのバージョン、ビルド番号、およびサービスパックのリリース番号。
- **CPU** - マザーボードに内蔵されているプロセッサのタイプ。
- **物理メモリの合計** - コンピュータのメモリ チップの全容量（仮想メモリを含まない）。
- **合計ハードディスク容量** - メガバイト単位でのインストールされているハードディスクの容量。
- **合計ハードディスク空き容量** - 使用可能なハードディスクの空き容量 (MB または GB)。
- **TCP/IP アドレス** - TCP/IP ネットワーク上の通信に使用される、コンピュータに割り当てられているアドレス。

IPMI 対応システムでは次の情報が表示されます。

- **ハードウェア プラットフォーム** - プラットフォームの説明 (IPMI など)。
- **IPMI バージョン** - IPMI のバージョン番号。

- **IPMI SDR バージョン** - SDR (センサー データ レコード) のバージョン番号。
- **BMC ファームウェア リビジョン** - BMC ファームウェアのリビジョン番号。
- **ACPI 電源** - サーバが帯域外の場合、ACPI 対応の電源装置の情報が表示されます。

ブレード シャーシとブレードに対しては、次の追加情報が表示されます。

- **パーツ番号** - コンポーネントのパーツ番号。
- **FRU 番号** - コンポーネントがフィールド置換可能ユニット (FRU) の場合の識別番号。
- **FRU シリアル番号** - コンポーネントがフィールド置換可能ユニット (FRU) の場合のシリアル番号。
- **製造日** - コンポーネントの製造日。
- **ハードウェア リビジョン** - コンポーネントのリビジョン番号。
- **タイプ** - ブレード シャーシの識別タイプ。
- **ファームウェア サマリ** - サマリ情報の下のボックスにファームウェアのさまざまなタイプについて、ファームウェアのビルド ID、リリース日、およびリビジョン番号が詳細が表示されます。

他の情報を表示したあとにサマリ ページを開くには

- 左側ウィンドウ上部にある **[コンピュータ名] サマリ** をクリックします。

システム データを表示する

ISM は、管理するコンピュータのハードウェアとソフトウェアのコンポーネントに関する情報を表示することができます。これらの情報へは、次のようにしてアクセスします。

- 単独のコンピュータのすべてのシステム データを表示する。
- 単独のコンピュータ、または選択したコンピュータのすべてのシステム データをエクスポートする。
- あらかじめ用意されているシステム レポートを使用して、選択したコンピュータの選択したシステム データを表示する。

サーバシステム データ

ISM サーバ システムで一般的に使用できる情報を以下に挙げます。

注：コンピュータのマザーボード、オペレーティング システム、および ISM に対する製造元の設定によっては、一部のコンピュータでは使用できないコンポーネントが含まれる場合があります。

- **コンピュータ概要** - コンピュータのハードウェアおよびソフトウェア情報の概要を表示します。
- **資産管理** - 名前、電話番号、部署、配置場所、および役職などのコンピュータのユーザに関して取得された情報が表示されます。コンピュータの管理者権限を持つユーザは、この情報を入力・変更できます。コンピュータ名と資産番号も取得することができます。

- **BIOS** - BIOS の製造元、バージョン、日付、シリアル番号、BIOS イベントログ データを表示し、POST エラーを検出した場合のアラート設定を可能にします。
- **CPU** - プロセッサ、速度、ソケット、およびキャッシュに関する情報を表示し、CPU が変更された場合のアラート設定を可能にします。
- **デバイス ドライバ** - 各デバイス ドライバの名前、タイプ、ステータスを表示します。
- **ディスプレイ** - コンピュータのモニタ (使用可能な場合)、ビデオ アダプタとドライバ、および対応するビデオの解像度に関する情報を表示します。
- **ドライブ** - コンピュータで使用可能なディスク容量と使用中のディスク容量、およびディスク容量が不足している場合にアラートを引き起こすしきい値の設定値を表示します。各ハードドライブのパーティション、ファイル システム、シリンダ、セクタ情報、あれば、シリアル番号と **S.M.A.R.T.** 情報も表示されます。ドライブ変更時、ドライブ容量、ドライブのエラー予測のアラート アクションを設定することもできます。
- **環境変数** - 変数名、変数のユーザ、変数の値を表示します。
- **ファン** - コンピュータに設置されている冷却ファンのステータスを表示し、ファンのアラート設定を可能にします。
- **現場置換可能ユニット** - IPMI 対応のシステムで、現場サービス修理の際にユニット全体を交換可能なモジュールまたはコンポーネントを表示します。
- **インストールされているアプリケーション** - コンピュータにインストールされているアプリケーションおよび、バージョン、日付、ファイル名、サイズ、およびパス情報が表示されます。アプリケーションのアラート設定の追加/削除を可能にします。
- **キーボードとマウス** - コンピュータに接続されているキーボードとマウスの種類を表示します。
- **メモリ** - コンピュータの使用可能なメモリと使用中のメモリ (物理メモリと仮想メモリ)、ソケット、およびメモリが不足している場合に警告を起こすためのしきい値を表示します。ECC エラーの検出、仮想メモリ、メモリ モジュールへの変更に対するアラート設定を可能にします。
- **モデム** - システムのモデムの名前とタイプ、およびモデムが使用するポートを表示します。
- **マザーボード** - マザーボードの製造元、モデル、シリアル番号、およびシステム スロット情報を表示します。
- **マルチメディア** - コンピュータのマルチメディア デバイスの情報を表示します。
- **ネットワーク** - コンピュータのネットワーク アダプタとドライバ、IP アドレス設定、データ統計、およびネットワーク接続に関する情報を表示します。NIC の追加/削除を可能にします。
- **オペレーティング システム** - オペレーティング システムとバージョン情報、起動時間、ロケール、登録ユーザ、組織、シリアル番号を表示します。
- **OS イベント ログ** - 選択したコンピュータから受信したイベントのオペレーティング システム ログを表示します。
- **パフォーマンス** - システムの特定部分の現在のしきい値を表示し、しきい値を変更したり、監視するパフォーマンスのカウンタを選択し、パフォーマンスのアラート設定を可能にします。

- **ポート** - ポート名、IRQ、I/O アドレス、およびパラレルポートとシリアルポート等のコンピュータの他の情報を表示します。
- **電源** - システムの各電源の名前や状態を表示します。
- **プロセス** - システムで実行中のプロセスのリストを表示し、ほとんどのプロセスを中止することができます。
- **センサ** - IPMI システム上の離散センサと数値センサのデータを表示します。
- **プロセス** - システムで実行中のサービスのリストを表示し、サービスの状態が変更した場合にイベントを生成するサービスを選択できるようにします。アラートの設定も可能にします。
- **記憶装置デバイス** - ディスクドライブ、テープドライブ、RAID アレイ、DAT ドライブ、などを含む記憶装置デバイスのリストを表示します。
- **温度** - システムの重要なコンポーネントの温度のリストを表示し、温度のアラート設定を可能にします。
- **電圧** - システムの電気コンポーネントの電圧のリストを表示し、電圧のアラート設定を可能にします。

ブレードとブレード シャーシのデータ

ISM ブレードとブレード シャーシ システムで一般的に使用できる情報を以下に挙げます。ここにリストされているコンポーネントの一部は、製造元の設定によっては、一部のコンピュータでは使用できない場合があります。

- **ブレードスロット** - シャーシ内のスロット、およびスロット内のブレードの名前を一覧表示します。
- **ブローア** - ブレード シャーシ システム内のブローアのステータスを表示します。
- **I/O モジュール** - ブレード シャーシ内の I/O モジュールに関する情報を一覧表示します。
- **管理モジュール** - ブレード シャーシ内の管理モジュールに関する情報を一覧表示します。
- **電源ドメイン** - ブレード シャーシ内の電源ドメインに関する情報を一覧表示します。
- **電源モジュール** - ブレード シャーシ内の電源モジュールに関する情報を一覧表示します。
- **温度** - ブレードまたはシャーシのコンポーネントの温度のリストを表示します。
- **電圧** - ブレードまたはシャーシの電気コンポーネントの電圧のリストを表示します。

システム データを表示するには

- 左側のウィンドウで [システム] をクリックし、任意の項目をクリックします。

資産管理

ISM では、コンピュータに関する次のユーザおよび資産情報を管理または表示することができます。

連絡先

連絡先情報は管理者権限を持つユーザによって変更できます。

- **名称** - プライマリ ユーザの名前
- **役職** - プライマリ ユーザの役職。
- **電話番号** - プライマリ ユーザの電話番号。
- **場所** - プライマリ ユーザの配置場所。
- **部署** - プライマリ ユーザの部署。

システム

- **コンピュータ名** - コンピュータまたはホストの名前。
- **製造元** - コンピュータを製造した会社の名前。
- **モデル** - コンピュータのモデル番号。
- **バージョン** - コンピュータのシステム バージョン。
- **シリアル番号** - 製造元によって割り当てられたマザーボードのシリアル番号。
- **資産番号** - コンピュータに割り当てられた資産トラッキング番号。この番号は、コンピュータの製造元によって割り当てられ、コンピュータの **BIOS** に保存されていることがあります。BIOS にない場合、この番号は管理者権限を持つユーザによって追加できません。

資産情報を表示および変更するには

1. [システム] をクリックして、[資産管理] をクリックします。
2. 編集ボックスに新しい情報を入力します。
3. [適用] をクリックします。

注 - 資産情報フィールドは **Windows** 管理者またはパワー ユーザ グループのメンバとしてログインした場合にのみ編集できます。

ブレード シャーシ Web インターフェイス

ISM では ISM モジュール SBCECMM により提供される HTML ユーザ インターフェイスにて Intel(R) Blade Server Chassis SBCE にアクセスできます。このインターフェイスはシャーシについての詳細情報を表示し、シャーシの設定を行えます。インターフェイスの使用の詳細については Intel(R) Blade Server Chassis SBCEMM のインストールとユーザガイドのドキュメントを参照してください。

ブレード シャーシの Web インターフェイスにアクセスするには

1. [ユーティリティ] をクリックし、[ブレード シャーシ Web インターフェイス] をクリックします。

ブレード スロット

ISM はブレード シャーシで使用可能なスロットについての情報を表示します。次の情報が含まれます。

- スロットの数
- スロット内のブレードに割り当てられた名前
- ブレードの電源がオンかオフかを示す電源状態の値

ブレード シャーシのブレード スロット情報を表示するには

1. [ブレード シャーシ] をクリックし、[ブレード スロット] をクリックします。

BIOS

ISM はコンピュータの次の *BIOS* 情報を表示します。

- **製造元** - マザーボードに内蔵された BIOS の製造元。
- **日付** - マザーボードに内蔵された BIOS の日付。
- **バージョン** - マザーボードに内蔵された BIOS のバージョン。
- **シリアル番号** - マザーボードにインストールされている BIOS のシリアル番号。

またこのページを使い、コンピュータ起動時に生じる可能性のある POST (power-on self test) エラー用のアラート アクションを設定することができます。また、BIOS イベント ログを表示することもできます。

BIOS イベント ログ

このログには、BIOS に関するイベントのリストが表示されます。イベントの発生した日付と、イベントの説明も含まれます。

BIOS 情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[BIOS] をクリックします。

POST エラーのアラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定 : POST エラー検出] をクリックします。
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または警告) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

シャーシ

[シャーシ]を使ってコンピュータのシャーシが開いているか、閉じているかを確認できます (IPMI 対応のシステムおよび他のシステムでサポート)。IPMI 対応のサーバで LED インジケータをオンまたはオフにできます。LED インジケータの点灯は、システムが列やラックに並べられている状態で、マシンを識別するのに便利です。また、管理コンソールから帯域幅外の IPMI コンピュータの LED インジケータを点灯することができます。

注：すべての IPMI インベントリ情報を表示するには、SMBIOS 2.3.1 以降が必要です。

シャーシ情報を表示するには

1. 左側のパネルで、[システム]をクリックして [シャーシ] をクリックします。

システム識別 LED を点灯するには

1. LED をオン、オフにするする時間 (分) を指定します。
2. [オン] をクリックします。

シャーシのアラート アクションを設定するには

1. [管理] をクリックし、[アラート] をクリックします。
2. IPMI 非対応のコンピュータの [シャーシ] をクリックします。

IPMI 対応のコンピュータでは、

[物理的セキュリティ/シャーシの侵入] をクリックします。

3. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または警告) のタブをクリックします。
4. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
5. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

CPU

ISM はコンピュータの次のプロセッサ情報を表示します。

CPU

- 名称 - マザーボードに内蔵されているプロセッサのタイプ。
- 説明 - CPU の詳細な説明。
- ベンダ ID - 製造元を識別するためにプロセッサに割り当てられている固有の ID。
- 現在の速度 - プロセッサの現在の実行速度 (メガヘルツおよびギガヘルツ)。
- 最高速度 - CPU を実行できる最高速度。

- **バス速度** - バスの速度 (単位はメガヘルツ)。
- **論理 CPU 数** - インストールされている論理マイクロプロセッサの数。
- **物理 CPU 数** - インストールされている物理マイクロプロセッサの数。

キャッシュ

- **タイプ** - キャッシュがマイクロプロセッサに対して内部 (プライマリ) であるか外部 (セカンダリ) であるかを示します。
- **サイズ** - プロセッサに対して使用可能なメモリ キャッシュのサイズ (KB)。
- **書き込みポリシー** - 使用されたメモリ キャッシュのタイプ。例えば、ライトスルー、またはライトバックなどがあります。

プロセッサ情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[CPU] をクリックします。

CPU のアラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定 : CPU の変更] をクリックします。
2. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
3. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

デバイス ドライバ

[デバイス ドライバ] を使用すると、システムの各デバイス ドライバの名前、タイプ、状態を表示できます。

デバイス ドライバ情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[デバイス ドライバ] をクリックします。

ディスプレイ

[ディスプレイ] を使用すると、モニタやビデオ アダプタに関する情報や、モニタでサポートされている解像度を表示できます。

ディスプレイ情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[ディスプレイ] をクリックします。

ドライブ

ISM は次のような場合に使用できます。

- ドライブ容量、ドライブのエラー予測、およびドライブ変更時のアラート アクションを設定します。
- ディスク容量アラートに対する警告および危険しきい値を設定します。
- コンピュータのドライブ情報を表示します。

さらに管理者として、ISM を実行しているすべてのコンピュータのドライブに該当するグローバルのしきい値を設定することもできます。詳細情報は、[アラートを使用する](#)をご覧ください。

ドライブ情報を表示するには

- [\[システム\]](#) をクリックして、[\[デバイス\]](#) をクリックします。

ディスク容量、ドライブのエラー予測、ディスク ドライブの変更のアラート アクションを設定するには

1. 設定するアラートをクリックします。
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (危険、警告、正常、および情報) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[\[適用\]](#) をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[\[基本設定の設定\]](#) をクリックします。このリンクは [\[アラートの基本設定のページ\]](#) を開きます。

ドライブ容量のしきい値を設定するには

1. しきい値を設定する対象のドライブをクリックします。
2. インジケータ バーの色付き矢印をドラッグするか、適当なボックスに [\[警告\]](#) および [\[危険\]](#) のパーセント値を入力します。
3. [\[適用\]](#) をクリックします。

注

- 使用中のディスク容量と使用可能なディスク容量は、この操作だけでは更新されません。[\[適用\]](#) または [\[更新\]](#) をクリックすると、表示内容を更新できます。
- しきい値バーを表示するには、Macromedia* Flash がインストールされていなければなりません。Flash player は、www.macromedia.com からダウンロードできます。

環境変数

[\[環境変数\]](#) ページを使用して、現在のシステムで使用されている環境変数のリストを表示できます。ユーザ環境変数に関する情報は、Windows* 2000 または Windows XP を実行しているコンピュータで使用できます。次の列が表示されます。

- ユーザ -変数を設定したユーザのログイン名。
- 変数 - 起動時に初期化され、OS によって使用されるユーザ特定の変数。
- 値 - 変数に割り当てられた値またはテキスト。

環境変数の情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[環境変数] をクリックします。

ファン

ISM は、コンピュータに設置されている冷却ファンの速度を監視します (マザーボードとファンでこの機能がサポートされている場合のみ)。モニタの対象になるファンは次のとおりです。

- マザーボード上にある各マイクロプロセッサのプロセッサ ファン
 - 後部のシャーシ ファン
 - 前部のシャーシ ファン
 - コンピュータの製造元によって設置されたその他のファン

ISM をインストールした後の、コンピュータの初回起動時に、ISM はコンピュータに設置されているすべてのファンを自動検出します。その後、ISM によりファンの速度が監視され、ファンが停止した場合にはアラートが生成されます。

ファン情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[ファン] をクリックします。

注：ファン情報は、動的に更新されるわけではありません。ブラウザ ウィンドウの表示を更新するか、[ファン] をクリックすれば更新されます。

ファンの問題に対するアラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定：ファン] をクリックします。
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または危険) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

フィールド置換可能ユニット (FRU)

ISM は、管理されている IPMI 対応コンピュータ上のフィールド置換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。

フィールド置換可能ユニット (FRU) とは、現場サービス修理の際にユニット全体を交換できるシステムのモジュールまたはコンポーネントを指します。多くの企業では、主なシステム ボー

ド (プロセッサ ボード、メモリ ボード、I/O ボードなど) の FRU に関する情報を提供しています。FRU のデータには、モデル、資産タグ、パーツ番号、シリアル番号などが含まれます。フィールド置換可能ユニットには、システム ボード、メモリ デバイス、ドライブ バックプレーンなどがあります。

フィールド交換可能ユニットの情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[フィールド置換可能ユニット] をクリックします。

インストールされているアプリケーション

ISM では、インストールされているアプリケーションと各アプリケーションのバージョンのリストが提供されます。

アプリケーション情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[インストールされているアプリケーション] をクリックします。

インストールされているアプリケーションのアラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定 : アプリケーションの追加または削除] をクリックします。
2. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
3. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

キーボードとマウス

ISM はコンピュータの次のキーボードとマウスの情報を表示します。

キーボード

- **説明** - コンピュータに接続されているキーボードの製造元とモデル。キーボードのコンピュータへの接続に使用されているコネクタのタイプ (PS/2、Micro-DIN、USB、または DB-9) も含みます。
- **レイアウト** - オペレーティングシステムで選択されているキーボードのレイアウト (英語 (U.S.)、フランス語 (標準)、ドイツ語 (標準) など)。

マウス

- **製造元** - コンピュータに接続されているポインティング デバイスの製造元および機種。
- **コネクタ タイプ** - コンピュータとキーボードの接続に使用しているコネクタの種類 (PS/2、Micro-DIN、USB、DB-9 など)。

- ボタンの数 - マウスのボタンの数。
- ボタンの設定 - マウスを右手と左手のどちらで使用するかをサポートする設定。

キーボード/マウス情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[キーボードとマウス] をクリックします。

管理モジュール

ISM はブレード シャーシの管理モジュールについて次の情報を表示します。

- モジュールの名前。
- シャーシのベイ番号
- モジュールに割り当てられた MAC アドレス
- モジュールに割り当てられた IP アドレス
- 電源状態 (オンまたはオフ)
- モジュールのシリアル番号
- モジュールのパーツ番号
- 製造元名

さらに、モジュールのファームウェアの詳細が表示されます。次の情報が含まれます。

- ファームウェアのタイプ
- ビルド ID
- ファームウェア ファイル名
- ファームウェアのリリース日
- リビジョン番号

ブレード シャーシの管理モジュールの情報を表示するには

1. [ブレード シャーシ] をクリックして、[管理モジュール] をクリックします。

メモリ

ISM は次のような場合に使用できます。

- 使用可能な物理メモリと仮想メモリの情報を表示
- メモリ モジュール情報 (ソケットタイプ、サイズ、速度など) を表示
- メモリのアラートを設定
- 仮想メモリのアラートにしきい値を設定

メモリやメモリ モジュールの情報を表示するには

1. [システム] をクリックして、[メモリ] をクリックします。
2. [メモリ情報] または [メモリ モジュール] を開きます。

メモリのアラート アクションを設定するには

1. 設定したいアラートの種類に対して、[アラート アクションの設定] をクリックします。
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (危険、警告、正常、および情報) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

仮想メモリのしきい値を設定するには

1. [システム] をクリックして、[メモリ] をクリックします。
2. [しきい値の設定 :仮想メモリ] を開きます。
3. 色の付いた矢印をドラッグして、警告と危険のしきい値を調整します。

または

[警告のしきい値] と [危険のしきい値] のボックスに、直接値をパーセントで入力します。

4. [適用] をクリックして、しきい値を変更します。

注

- 使用中のディスク容量と空きディスク容量は、この操作だけでは更新されません。[適用] または [更新] をクリックすると、表示内容を更新できます。
- しきい値バーを表示するには、Macromedia* Flash がインストールされていなければなりません。Flash player は、www.macromedia.comからダウンロードできます。

モデム

[モデム] を使用すると、システムのモデムの名前やタイプと、モデムが使用するポートを表示できます。コンピュータにモデムが追加/削除された場合にアラートを受信することができます。コンピュータ上でのモデムのアクティビティを監視し、モデムのアクティビティが検出されたときにアラートを受信したい場合は、[モデム ビュー] を有効にすることもできます。

モデム情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[モデム] をクリックします。

コンピュータ上のモデムのアクティビティを検出するには

1. [モデム ビュー] をクリックします。
2. [モデム ビューの有効化] を選択します。
3. [適用] をクリックします。

モデムのアラート アクションを設定するには

1. 設定したいアラートの種類に対して、[アラート アクションの設定] をクリックします。
2. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
3. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。
このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

マザーボード

ISM はコンピュータのマザーボードとシステム スロットに関する情報を表示します。

マザーボード情報

- 製造元 - コンピュータのマザーボードの製造元。
- モデル - コンピュータのマザーボードのモデル。
- シリアル番号 - マザーボードのシリアル番号。

システム スロット

- 説明 - コンピュータのマザーボードで使用可能な拡張スロットの種類。ISA、EISA、MCA、PCI、SCSI、PCMCIA など。
- 設置場所 - システム スロットの物理的な場所。
- ラベル - システム スロットのラベル。
- スロット幅 - 拡張スロットのバスの幅。16 ビット、32 ビットなど。
- ステータス - スロットが使用中かどうか。

注 - コンピュータには、コンピュータのケース内で同一のスロットを共有し、同時に使用できない 2 つの拡張スロットがある可能性があります (ISA スロットと PCI スロットなど)。

マザーボード情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[マザーボード] をクリックします。

マルチメディア

ISM は、インストールされているサウンド デバイス、オーディオ コーデック、およびビデオ コーデックに関するマルチメディア情報を表示します。このリストには、次のような情報が含まれます。

- **ファイル名** - マルチメディア デバイスのファイル名。
- **製造元** - マルチメディア デバイスの製造元。
- **説明** - デバイスの説明 (説明がある場合)。
- **サイズ** - マルチメディア デバイス ファイルのサイズ。
- **インストール日付** - 選択したコンピュータにマルチメディア デバイスがインストールされた日付。
- **バージョン** - マルチメディア デバイス ファイルのバージョン番号。

マルチメディア情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[マルチメディア] をクリックします。

ネットワーク

ISM はコンピュータの次のネットワーク情報を表示します。コンピュータとオペレーティング システムによって、表示される情報がわずかに異なることがあります。

ネットワーク情報

- **ネットワーク アダプタ数** - 選択したコンピュータのネットワーク アダプタの数。
- **製造元** - ネットワーク アダプタの製造元。
- **ノード (MAC) アドレス** - 16 進法による、コンピュータに固有な 6 バイトの MAC アドレス。
- **ステータス** - 接続のステータス。
- **TCP/IP アドレス** - TCP/IP ネットワーク上の通信に使用される、コンピュータに割り当てられた 4 バイトのアドレス。
- **サブネット マスク** - IP アドレスと対の 4 組の数値 (255.255.255.0 等)。この数値により、IP ルータは IP アドレスのネットワーク ID 部分とノード ID 部分を識別します。
- **プライマリ ゲートウェイ** - ネットワーク外に送信されるパケットに対してデフォルトのゲートウェイとして設定されたルータの IP アドレス。
- **DHCP サーバ** - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバの IP アドレス。
- **DHCP リース取得** - DHCP リースを取得した日時。
- **DHCP リース有効期限** - DHCP リースが期限切れになる日時。

- **DNS サーバ** - ネットワークにおける各 Domain Name Service (DNS) サーバの IP アドレス。複数存在することがあります。
- **プライマリ WINS サーバ** - Windows Internet Naming Service のプライマリ IP アドレス。
- **セカンダリ WINS サーバ** - Windows Internet Naming Service のセカンダリ IP アドレス。

起動後のデータ統計

- **速度** - 接続速度 (毎秒当たりのメガバイト数)。
- **受信バイト** - コンピュータで受信したバイト数。
- **送信バイト** - コンピュータで送信したバイト数。
- **受信パケット** - 起動後にコンピュータで受信されたネットワーク パケット数。この数には、ユニキャスト パケット数とブロードキャスト パケット数が共に含まれているので、オペレーティング システムによって [ローカル エリア接続状態] ダイアログ ボックスに表示される数値とは一致しません。
- **送信パケット** - 起動後にコンピュータから送信されたネットワーク パケット数。
- **受信エラー** - 起動後にコンピュータがパケットを受信できなかった回数。
- **送信エラー** - 起動後にコンピュータがパケットを送信できなかった回数。

ネットワーク接続

- **ユーザ** - これは、ユーザの管理切り替え機能をサポートする Windows* XP のみに適用されます。
- **管理者として ISM にログオンしている場合は、すべてのアクティブなログオン ユーザとのネットワーク接続が表示される。**
- **非管理者 (例えばパワー ユーザ) として ISM にログオンしている場合は、他のユーザのドライブ マップは表示されません。ユーザの ISM のログイン名が Windows のログイン名と一致する場合には、ユーザ自身のマップが表示される。**
- **ドライブ** - 特定のネットワーク ドライブに割り当てられた、F または G などのドライブ文字。
- **接続名** - ネットワーク リソースの UNC 名。「\\server\sharename」など。

ネットワーク情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[ネットワーク] をクリックします。

NIC の追加または削除に対してアラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定 : NIC の追加または削除] をクリックします。
2. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。

- アラート タイプの全般オプションを設定するには、**[基本設定の設定]** をクリックします。
このリンクは**[アラートの基本設定のページ]**を開きます。

オペレーティング システム

ISM はコンピュータのオペレーティングシステムに関する次の情報を表示します。

- **名称** - 現在実行中のオペレーティング システム。
- **起動時刻** - オペレーティング システムが起動した日時。
- **ロケール** - オペレーティング システムの言語。
- **バージョン** - オペレーティング システムのバージョン、ビルド番号、および サービス パックのリリース番号。
- **登録ユーザ** - オペレーティング システムの登録ユーザ。
- **登録組織** - 組織の登録組織。
- **シリアル番号** - オペレーティング システムのシリアル番号。

オペレーティング システム情報を表示するには

- **[システム]** をクリックして、**[オペレーティング システム]** をクリックします。

OS イベント ログ

[OS イベント ログ] のページを使用して、選択したコンピュータの最近のイベントのログを表示できます。次の **3** つのビューのうちのいずれかを選択できます。

- アプリケーション
- システム
- セキュリティ

各セクションには、情報の列が **4** つあります。

- **タイプ** - 発生したイベントのタイプ。情報、警告、エラー、危険の **4** つのタイプがあります。
- **日付** - イベントが発生した日時。
- **ソース** - イベントの発生元のアプリケーションまたはサービス。
- **説明** - イベントの詳細な説明。説明には、システムでとられた対応や、エラーの解決方法が含まれる場合があります。

OS イベント ログを開くには

- **[システム]** をクリックして、**[OS イベント ログ]** をクリックします。

パフォーマンス

ISM の [パフォーマンス] ページでは、各種システム オブジェクトのパフォーマンスを監視できます。ドライブ、プロセッサ、メモリなどの特定のハードウェア コンポーネントや、プロセスやシステムの Web サーバの転送速度 (1 秒あたりのバイト数) などの OS コンポーネントを監視できます。[パフォーマンス] ページにはカウンタに対するリアルタイム データと履歴データを表示するグラフが含まれます。また、カウンタに対して受け取ったアラートをチェックしたり、監視中のカウンタ リストから削除することによりパフォーマンス カウンタの監視を中断することもできます。

パフォーマンス カウンタを監視するためには、まずカウンタを選択する必要があります。これによって、そのカウンタが監視されるカウンタのリストに加えられます。カウンタを選択する際に、項目をポーリングする頻度を指定し、パフォーマンスのしきい値とアラートを発するまでに許容できる違反数も設定します。

パフォーマンス カウンタが上限や下限のしきい値を、あらかじめ定義した回数だけ超過または下回った場合に、通知を生成するアラート アクションを設定できます。

監視中のカウンタのパフォーマンス グラフを表示するには

1. [システム] をクリックして、[パフォーマンス] をクリックします。
2. [パフォーマンス グラフ] をクリックします。
3. [カウンタ] ドロップダウン リストから、パフォーマンス グラフを表示するカウンタを選択します。
4. リアルタイムのパフォーマンスのグラフを表示するには、[リアルタイム データの表示] をクリックします。

または

[履歴データの表示] を選択して、カウンタを選択する際に [履歴を保存] で指定した期間のパフォーマンスを示すグラフを表示します。

注

- 水平方向の軸は、経過時間を示します。
- 垂直方向の軸は計測の単位を示します。たとえば、1 秒あたりのバイト数 (ファイル転送を監視している場合など)、パーセント (使用中の CPU の割合を監視している場合)、または使用可能なバイト数 (ハード ドライブの容量を監視している場合) などです。
- 線の長さの単位は固定されていません。線の長さは、データの最高値に合わせて変わります。カウンタによっては、垂直方向の軸が 1 から 100 を表す場合や、1 から 500,000 を表す場合があります。データが大きな範囲で変化する場合、小さな変化は直線で表されます。
- 別のカウンタを選択すると、グラフが更新され、計測の単位がリセットされます。
- グラフをクリアして、最初からはじめるには、 をクリックします。
- [カウンタの再ロード] をクリックして、新しいオブジェクト、インスタンス、またはカウンタでリストを更新します。

パフォーマンス カウンタの監視を中止するには

1. [システム] をクリックして、[パフォーマンス] をクリックします。
2. [監視されているパフォーマンス カウンタ] をクリックします。
3. 監視を中止するカウンタを選択します。

または

- [すべて選択] をクリックして、すべての現在のカウンタを選択します。
4. [削除] をクリックします。

パフォーマンス カウンタのアラートを確認するには

1. [システム] をクリックして、[パフォーマンス] をクリックします。
2. [監視されているパフォーマンス カウンタ] をクリックします。
3. アラートを受け取ったカウンタを確認します。
4. [確認] をクリックします。

パフォーマンス アラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定：パフォーマンス] をクリックします。
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または警告) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

注 - アラートを行う前に、1 つ以上のカウンタを選択する必要があります。

ポート

ISM はコンピュータの次のポート情報を表示します。

シリアル ポート

- 名前 - COM1 や COM2 等のシリアル ポート名。
- IRQ - 3、4 など、シリアル ポートに割り当てられた割り込み要求番号。
- I/O アドレス - シリアル ポートからのデータの出入りに指定された最初のメモリのアドレス (16 進数で表されます)。
- ボー レート - シリアル ポートのデータ転送の既定のボー レート。
- バイト内のビット数 - バイト内のデータ ビット数 (通常 7 か 8)。

- **パリティ** - ある場合、使用中のパリティ ビットの種類 (偶数、奇数、なし、マーク、スペース)。
- **ストップ ビット** - シリアル ラインでの転送ユニットの最後を示すビット数。

パラレル ポート

- **名前** - LPT1 等のパラレル ポート名。
- **I/O アドレス** - パラレル ポートからのデータの出入力に指定されたメモリのアドレスは (16 進数から始まります)。

ポート情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[ポート] をクリックします。

パワー ドメイン

ISM はブレード シャーシでのパワー ドメインについての情報を表示します。各パワー ドメインについて次の全般情報が含まれます。

- パワー ドメインの名前
- パワー ドメインのステータス
- シャーシのベイとそれらの電源使用率
- ドメインのオーバーサブスクリプション ポリシー
- ドメインの電源の予算 (ワット)
- 予約済み電源 (ワット)
- 残りの電源 (ワット)
- 使用中の電源 (ワット)

さらに、各パワー ドメインの電源消費の詳細が表示されます。次の情報が含まれます。

- ドメイン内のコンポート名
- 各コンポーネントのステータス
- 各コンポーネントの現在の使用率
- 各コンポーネントの最小電源使用率と最大電源使用率 (ワット)

ブレード シャーシのパワー ドメインの情報を表示するには

1. [ブレード シャーシ] をクリックして、[パワー ドメイン] をクリックします。

電源モジュール

ISM はブレード シャーシの電源モジュールについて次の全般情報を表示します。

- パワー ドメインの名前
- モジュールを含むシャーシのベイ
- 電源モジュールの製造元名
- モジュールの製造日
- モジュールのパーツ番号

ブレード シャーシの電源モジュールの情報を表示するには

1. [ブレード シャーシ] をクリックして、[電源モジュール] をクリックします。

電源

[電源] を使用すると、システムの各電源の名前や状態を表示できます。また、電源コードが差し込まれた場合や抜かれた場合、電源が追加または削除された場合、停電した場合などに通知を送信する、アラート アクションを設定できます。

電源の情報を表示するには

- [システム] をクリックして、[電源] をクリックします。

電源のアラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定：電源]
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (情報、正常、警告、危険) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

プロセス

[プロセス] ページを使用して、選択したマシンで現在実行中のプロセスのリストや、各プロセスに関する情報を表示したり、1 つまたは複数のプロセスを中止することができます。

注：プロセスを中断すると、データの損失やシステムが不安定な状態になるなど、不都合が生じる場合があります。プロセスを中断した場合、プロセスのステータスやデータは保存されません。

プロセスに関する情報は、次の列にリスト表示されています。

- **名称** - プロセスの実行可能ファイルの名前。
- **CPU 時間** - プロセスで使用される時間の割合。
- **メモリ使用率** - プロセスが使用中のメモリの量。
- **仮想サイズ** - プロセスで使用されているハード ディスク上の仮想メモリのサイズ。

- ハンドル - プロセスのオブジェクト テーブル内のオブジェクト ハンドルの数。
- スレッド - プログラムのほかのスレッドとは独立して実行するプログラムのシングル使用。

現在のプロセスを表示するには

- [システム] をクリックして、[プロセス] をクリックします。

プロセスを中断するには

1. [システム] をクリックして、[プロセス] をクリックします。
2. 停止させたいプロセスを選択します。
3. [プロセスの終了] をクリックして、[OK] をクリックします。

センサー

[センサー] ページを使用して、IPMI システムの全センサーのデータを表示できます。各センサーの情報は、センサー データ リポジトリに保管される SDR (センサー データ レコード) から取得されます。SDR は、センサーを定義し、完全に記述します。これには、システムの初期化時にベースボード管理コントローラ (BMC) で使用されるセンサーのデフォルトの初期設定も含まれます。多くのコンポーネントのセンサー データは、コンポーネントの [システム] ページ ([ファン] や [温度] など) にも表示されます。

2 種類のセンサーが表示されます。離散センサー - 最高 15 までのステータスを含むことができます。数値センサー - 数値のデータを返します。センサー データは、次を含むことができます。

- タイプ - センサーのタイプ。
- 説明 - センサーに関するその他の情報。
- ステータス - センサーの現在の稼働状況。
- 値 - 量と、計測のタイプ。

注

- ISM 管理者データベースには、範囲外のノードから情報を取得するために正しい BMC パスワードが必要です。BMC パスワードが正しくないと、ノードのセンサーのステータスは「利用不可」として表示されます。
- 数値センサーのしきい値を変更したり、デフォルトのしきい値に戻すときは、BMC パスワードを入力するように求められることがあります。BMC によっては、この変更を行う前に、パスワードを入力する必要がある場合もあります。

センサー情報を表示するには

1. [システム] をクリックして、[センサー] をクリックします。
2. 詳細情報を取得したいセンサーをクリックします。

数値センサーのしきい値を変更するには

1. [システム] をクリックして、[センサー] をクリックします。
2. しきい値を変更する対象のセンサーをクリックします。
3. 上限と下限のしきい値を変更します。
4. [適用] をクリックします。

サービス

ISM を使用して、コンピュータのサービスや各サービスのステータスを表示できます。また、サービスのステータスが変わった場合に、アラートを発行するように設定することもできます。

ISM は、コンピュータの各サービスの名前、スタートアップのタイプ、現在のステータスを表示します。各サービスの横にあるチェックボックスに、そのサービスを監視中かどうかを示されます。監視されているサービスが中断または開始すると、アラート イベントが作成されます。

現在実行中のサービスを表示するには

- [システム] をクリックして、[サービス] をクリックします。

サービスを開始または停止するには

1. 開始/停止するサービスの一番右側にあるアイコンをクリックし、[OK] をクリックします。
サービスを停止するには、■ をクリックします。
サービスを開始するには、▶ をクリックします。

サービス アラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定：サービス] をクリックします。
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または警告) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

記憶装置

[記憶装置] を使用して、ハードドライブ、テープ ドライブ、メディア チェンジャー、DAT ドライブ、SCSI エンクロージャ、および RAID デバイスなど、サーバ上の記憶デバイスに関する情報を表示します。

デバイスは**SCSI** コントローラのタイプごとにリスト表示されます。**SCSI** タイプの下で個々のデバイスのステータスを表示できます。また一部のデバイス タイプでは、個々のコンポーネントを表示することができます (たとえば、複数のスロットを持つデバイスでは、個々のスロットの詳細ステータスが表示できる)。

デバイス情報には、ファン、温度、電源、アラーム、ドア (開いているか閉じているか) などの項目の、安全性関連の物理センサーによる検出値も含まれます。

RAID アレイは 1 つのデバイスとして扱われますが、ステータス ページには個々のドライブの情報があります。ドライブが 1 つエラーになるか削除されると、**RAID** アレイがエラー表示になります。その後で新しい **RAID** アレイとして再構築ができます。

ディスク エラーのようなイベントは、そのデバイスをすばやく確認するために、そのデバイス、コントローラ、およびチャンネルを特定した詳細があるポップアップのアラート ウィンドウを開きます。

注 : アドイン コントローラ カードを使用して実行される **IDE** と **SATA** ドライブは **SCSI** デバイスとして表示されます。

記憶装置デバイス情報を表示するには

- **[システム]** をクリックして、**[記憶装置デバイス]** をクリックします。

温度

[温度] を使用して、システム内の重要なコンポーネントの温度を監視できます。データは、コンピュータ内の温度センサーの場所から取得されます。このデータは数値と温度計のイメージで視覚的に表されます。データは次の各列に表示されます。

- **名称** - 監視するコンポーネントの名前。
- **最高** - パフォーマンスの低下が始まる前の、コンポーネントの最高温度 (製造元により決定)。
- **前回** - 前回のバックグラウンド スキャンから得たコンポーネントの温度値。この列の値が **[現在値]** 列の値と著しく異なる場合、コンピュータのヘルスに突然の変化があった可能性があります。
- **現在値** - コンポーネントの現在の温度。この列の値が **0** の場合は、コンピュータがアウトオブバンドです (**IPMI** サーバのみ)。

温度情報を表示するには

1. **[システム]** をクリックして、**[温度]** をクリックします。
2. 詳細情報を取得したいコンポーネントをクリックします。

注 : 温度情報は、動的に更新されるわけではありません。ブラウザ ウィンドウの表示を更新するか、**[温度]** をクリックすれば更新されます。

温度のしきい値を変更するには

1. **[システム]** をクリックして、**[温度]** をクリックします。

- しきい値を変更する対象のコンポーネントをクリックします。
- 上限と下限のしきい値を変更します。
- [適用] をクリックします。

温度のアラート アクションを設定するには

- [アラート アクションを設定：温度]。
- アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または危険) のタブをクリックします。
- 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
- アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

重要製品データ

ISM は IPMI 対応のブレード サーバの [重要製品データ] の下にファームウェアとハードウェアについての情報を表示します。ファームウェアのデータには次の内容が含まれます。

- ファームウェアのタイプ
- ビルド ID
- ファームウェアのファイル名
- ファームウェアのリリース日
- ファームウェアのリビジョン番号

さらに、ブレード サーバのハードウェアの詳細情報が表示されます。次の情報が含まれます。

- ハードウェアのタイプ
- マシンのタイプ
- コンポーネントのシリアル番号
- コンポーネントのパーツ番号
- 製造元の名前。

ブレード サーバの重要製品データを表示するには

- [システム] をクリックして、[重量製品データ] をクリックします。

電圧

電圧モニタをサポートするマザーボードでは、ISM は、コンピュータの電源ラインの電圧を監視します。与えられた電源ラインの電圧が製造元によって定められたしきい値を超えると、ISM はコンピュータの電源に発生する可能性のある問題を通知します。監視されている電圧はコンピュータのマザーボードにより異なります。また、アラートを引き起こす電圧しきい値は電圧ラインによって異なり、マザーボードの製造元によって調整されます。

電圧情報を表示するには

1. [システム] をクリックして、[電圧] をクリックします。
2. 詳細情報を取得したいコンポーネントをクリックします。

注

- 電圧情報は、動的に更新されるわけではありません。ブラウザ ウィンドウの表示を更新するか、[電圧] をクリックすれば更新されます。
- 電圧ステータス グラフィックを表示するには、Macromedia* Flash がインストールされていない必要があります。Flash player は、www.macromedia.com からダウンロードできます。

電圧のしきい値を変更するには

1. [システム] をクリックして、[電圧] をクリックします。
2. しきい値を変更する対象のコンポーネントをクリックします。
3. 上限と下限のしきい値を変更します (値の単位はミリボルト)。
4. [適用] をクリックします。

電圧のアラート アクションを設定するには

1. [アラート アクションを設定 : 電圧] をクリックします。
2. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または危険) のタブをクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして[適用] をクリックします。
4. アラート タイプの全般オプションを設定するには、[基本設定の設定] をクリックします。このリンクは [アラートの基本設定のページ] を開きます。

レポート

設定変更の監視

管理されているコンピュータ上の設定の変更によって、アラートが生成されると共に、ログもされます。管理コンソールを実行しているコンピュータは、設定変更をポップアップのアラートとして表示できます。

注：（フルサーバインストール以外）ISMブリッジエージェントがインストールされているコンピュータまたは帯域外のコンピュータでは、設定変更レポートは使用されません。

設定変更を表示するには

1. [レポート] をクリックしてから、[設定の変更] をクリックします。
2. [次へ] と [戻る] ボタンをクリックして、ログのページ間を移動します。
3. 日付の範囲で表示を変更するには、[日付の範囲でフィルタする] をクリックして、[すべての日付のイベントを表示] チェックボックスをクリアし、最初と最後の日付を入力して、[フィルタ] をクリックします。

ハードウェア イベントを表示する

[ハードウェア イベント] を使用して、IPMI システムのハードウェア コンポーネントで発生しているイベントのリストを表示できます。このログは、*BIOS イベント ログ* または *OS イベントビューワ* でキャプチャされた *BIOS* または *OS* データではなく、システムが生成したハードウェア イベントをキャプチャします。ログ エントリは、日付範囲、発生元、またはセンサーのタイプによってフィルタできます。

- **日付** - イベントが発生した日時。
- **生成プログラム** - イベントの発生元のコンポーネント。
- **センサー タイプ** - イベントが発生したセンサーのタイプ。
- **詳細** - センサーで何が起ってイベントが生成されたのかの説明。

ハードウェア イベント ログを表示するには

1. [レポート] をクリックして、[ハードウェア イベント] をクリックします。
2. [次へ]、[戻る] ボタンの順にクリックして、ログの通知ページ間を移動します。
3. 日付の範囲でフィルタをかけるには、[すべての日付のイベントを表示] チェックボックスをクリアして、最初と最後の日付を入力し、[フィルタ] をクリックします。
4. イベントの発生元のタイプ、またはセンサー タイプでフィルタをかけるには、[フィルタ] をクリックします。

ハードウェア イベントのログ バックアップ

ハードウェア イベント ログには、BMC 上で作成され、保存されたシステム イベント ログ (SEL) からの情報が表示されます。ログからはイベント データは削除されないため、SEL が storage_limit に達すると、新しいシステム イベントが発生しても新しいエントリは作成されません。帯域内サーバに対しては、SEL が全容量の一定パーセントに達するとバックアップするように ISM を設定できます。実行されるバックアップ操作は、コンピュータのステータスによって異なります。

コンピュータのステータス	バックアップ操作
非管理でインバンド	バックアップ ファイルは、ローカル システムの一時フォルダに作成されます。ファイル名は IPM#.tmp (# は各バックアップ ファイルごとに増分される番号)。作成された後、これらのファイルは ISM では管理されませんが、手動で表示したり削除することができます。
非管理でアウトオブバンド	SEL はバックアップできません。いっぱいになったら、新しいイベントは追加されません。
管理でインバンド	バックアップ情報は管理者コンピュータに送信され、そこでデータベース内の AutoSELBackup テーブルに保存されます。サーバをバックアップする必要が生じたときに管理者コンピュータがオンでない場合、サーバコンピュータは管理者コンピュータがオンになるまでその情報を保持します。
管理でアウトオブバンド、管理者電源オン	管理者コンピュータはバックアップ情報を取得して、データベース内の AutoSELBackup テーブルに保存します。
管理でアウトオブバンド、管理者電源オフ	SEL はバックアップできません。いっぱいになったら、新しいイベントは追加されません。

ハードウェア イベント ログ バックアップオプションを設定するには

1. [レポート] をクリックして、[ハードウェア イベント] をクリックします。
2. [ログ ファイルのバックアップを設定します] をクリックします。
3. [ハードウェア イベントのバックアップをオンにする] を選択します。
4. ログをチェックする頻度とバックアップするパーセントを指定します。
5. [適用] をクリックします。

ハードウェア イベント ログをその場でバックアップまたはクリアするには

1. [レポート] をクリックして、[ハードウェア イベント] をクリックします。
2. [ログ ファイルのバックアップを設定します] をクリックします。
3. ログの内容をバックアップしてログをクリアするには、[今すぐバックアップ] をクリックします。
4. ログをクリアしてその内容をバックアップするには、[今すぐバックアップ] をクリックします。

注：

- バックアップでは、SEL に含まれている情報のみ保存されます。バックアップする前に SEL からクリアした情報は保存されません。
- 管理者がコンピュータを [マイ コンピュータ] リストに追加することでコンピュータの管理を開始すると、そのコンピュータの一時フォルダに既に存在しているバックアップ ファイルは管理者に送られてデータベースにバックアップされることはありません。新しいバックアップはすべて管理者に送られます。
- サードパーティ SQL クエリ アナライザを使って、SEL バックアップから手動でデータを削除できます。
- 個々のバックアップ ファイルは大きくなくても、ハードウェア イベントの自動バックアップをオンにした場合、バックアップ ファイルを保存するために必要なディスク容量は時間がたつと膨大なものとなります。システムによっては、多数のハードウェア イベントをログし、バックアップ ファイルを頻繁に保存するものがあります。管理されていないサーバでは、一時ファイル ディレクトリのサイズを定期的に監視しないと、時が立つにつれて、このディレクトリはディスク容量を取りすぎるようになる可能性があります。管理されているサーバでは、管理者コンピュータのデータベースに保存されたバックアップ データも、同様に、ディスク容量を取りすぎるようになる可能性があります。

ハードウェア イベント ログのアーカイブを表示する

IPMI 対応システムは、ハードウェア イベントのログをサーバの BMC 上のサーバイベント ログ (SEL) に保存します。ログ ファイルがいっぱいになると、新しいイベントが引き続き SEL (記憶容量が限られている) に保存されるように、ログ ファイルをアーカイブすることができます。(ハードウェア イベントの表示とイベント ログのアーカイブについては、ハードウェア イベントを表示するを参照してください。)

サーバ用にアーカイブ去れているログ ファイルを表示することができます。アーカイブはコンピュータ名とバックアップ日時によって一覧表示されています。

ハードウェア イベント ログをアーカイブするには

1. [レポート] をクリックして、[ハードウェア イベントのアーカイブ] をクリックします。
2. アーカイブを表示するには、表示したいログのコンピュータ名を見つけて、[アーカイブの時間] 列でそのログのアーカイブされた日時をクリックします。
3. [次へ] と [戻る] ボタンをクリックして、ログのページ間を移動します。
4. 日付の範囲でフィルタをかけるには、[すべての日付のイベントを表示] チェックボックスをクリアして、最初と最後の日付を入力し、[フィルタ] をクリックします。
5. イベントの発生元のタイプ、またはセンサー タイプでフィルタをかけるには、[フィルタ] をクリックします。

システム レポートの使用

ISM を使い、管理するコンピュータのハードウェアとソフトウェアのコンポーネントに関する大量の情報をエクスポートすることができます。収集可能なデータの種類に関する説明は、システ

ム データの表示をご覧ください。この情報を使い、必要とされるコンピュータで BIOS アップグレードなどの特定の作業を行う際の決定をすることが可能です。

以下にリストする事前設定されたレポートは、選択したコンピュータのシステム データを集めます。これらのレポートは管理者としての一部の一般的な作業を行う上で役立ちます。

- **BIOS** - コンピュータ名、BIOS 製造元、BIOS バージョン、および BIOS 日付を表示します。
- **オペレーティング システム** - コンピュータ名、オペレーティング システム、オペレーティング システムのバージョン、サービス パックやアップデートを表示します。
- **インストールされているプログラム** - レポート用に選択したコンピュータにインストールされているアプリケーションのドロップダウン リストを提供します。リストからアプリケーションを選択すると、選択したアプリケーションがインストールされているコンピュータを表示するようにレポートが更新されます。

上記の事前設定されたレポートの作成に加え、次が可能です。

- 1 台のコンピュータまたは選択したコンピュータについては、すべてのシステム データをエクスポートするをご覧ください。
- 管理するコンピュータのハードウェアとソフトウェアのコンポーネントに関するシステム データを表示します。

システム レポートを実行するには

1. [マイ コンピュータ] リストで、管理するコンピュータをクリックします。
2. ツールバーの  をクリックします。
3. レポートのタイプを選択し、レポート名を入力して、[実行] をクリックします。

レポートは Intel\ServerManager\server\wwwroot\ISM\exports フォルダに保存されます。

システム レポートを表示するには

1. [レポート] をクリックして、[システム レポート] をクリックします。
2. 表示するレポートの名前を選択します。

レポートでエラー メッセージが表示されるのは何故ですか？

ISM がコンピュータに接続できない、またはインベントリ情報を表示する権利がない場合には、これらのエラー メッセージがレポートの本文に表示することがあります。

エラー メッセージ	説明
エラー：このクライアント コンピュータは操作を完了することができませんでした。	ISM がコンピュータに接続できませんでした。コンピュータの電源が切れているか、ネットワークの問題により接続が妨害されている可能性があります。ISM が正常に機能するために開く必要があるポートについては、シ

	システムの必要条件を参照してください。
エラー：この操作を実行する権利はありません。	管理者の権限なしにコンピュータでインベントリ情報を表示することはできません。

システム データのエキスポート

ISM を使い、管理するコンピュータのハードウェアとソフトウェアのコンポーネントに関する情報をエキスポートすることができます。取得可能なデータの種類に関する説明は、システム データの表示をご覧ください。

注：エキスポートが失敗する場合、必要なポートが開いていない可能性があります。ISM が正常、かつ完全に機能するには、ポート **623**、**9593**、**9594**、**9595**、**6780** がオープンであることが必要です。これらのポートのいずれかがオープンでない場合、ファイアウォールまたはルータの使用に競合が起きる可能性があります。ポートの競合を解決するにはファイアウォールまたはルータのドキュメントを参照してください。

管理者コンソールからエキスポートする

管理コンソールで、選択したコンピュータからデータを .XML 形式のファイルにエキスポートできます。エキスポートされるこのシステム インベントリのエキスポートには、コンピュータの製造元によって設定された ISM のシステム インベントリに保存されているすべての情報が含まれます。このため、インベントリ情報の内容はコンピュータによって異なります。

エキスポートを実行すると ISM によってコンピュータのすべてのインベントリ情報が収集されるため、1 回のエキスポート プロセスに数分かかる場合があります。このため、複数のコンピュータのシステム インベントリをエキスポートするにはかなり時間がかかります。しかし、このプロセスはバックグラウンドで実行されるため、データが収集およびエキスポートされる間 ISM で作業を続行することが可能です。

1 つまたは複数のコンピュータからデータをエキスポートするには

1. [マイ コンピュータ] でデータのエキスポート先のコンピュータを選択します。
2. ツールバーの [] をクリックします。
3. エクスポート名を入力して、[実行] をクリックします。

サーバ コンソールからのエキスポート

管理者は、個々のクライアント コンピュータにログオンし、サーバ コンソールから、ログオンしたコンピュータのみのエキスポートを行えます。ISM エンド ユーザも同様のオプションを使用することができます。

エキスポートを実行すると ISM によってコンピュータのすべてのインベントリ情報が収集されるため、エキスポート プロセスに数分かかる場合があります。

データをエクスポートするには

1. データのエクスポート先のコンピュータにログオンします。
2. [レポート] をクリックして、[エクスポートの実行] をクリックします。
3. エクスポートの名前を入力して、[実行] をクリックします。

XML 形式の出力ファイルが、Intel\ServerManager\server\wwwroot\ISM\exports フォルダに保存されます。

エクスポートされたデータを表示するには

1. [レポート] をクリックして、[システムのエクスポート] をクリックします。
2. 表示するエクスポートの名前を選択します。

管理者ログとシステム ログを表示する

ISM コンピュータでイベントが発生した場合、ISM はイベントの詳細をログに記録します。ISM の管理バージョンには管理ログがあり、ネットワーク上のほかの ISM コンピュータで発生したイベントの詳細が記録されます。このログには、イベントが発生した日付と時刻、コンピュータ名、イベントの簡単な説明、およびイベントの重要度を示すアイコンが表示されます。

ログ ファイルをフィルタして特定のカテゴリのイベントまたは指定した日付の範囲内に発生したイベントのみを表示することができます。これは、ログ ファイルのサイズが大きく、多くのエントリを含む場合に便利です。設定変更、不在プロセッサ、およびディスク容量を含む約 50 のログ エントリを使用することができます。

ログへのイベントの保存は、ログを空にするまで、または最大サイズに達するまで継続されます。ログがその最大サイズに達すると、古い順に項目が削除されて新しい項目が追加されます。管理ログのサイズは、1 MB から 10 MB の間に設定することができます。ローカル ログのサイズを 1 MB から 5 MB の間に設定することができます。サイズを変更するとログが消去されます。

管理ログを表示するには

1. 管理コンソールから、[レポート] をクリックして [管理ログ] をクリックします。
2. すべてのイベントを表示、または特定の種類のイベント表示を選択するには、ログ ファイルのツールバーにある [表示] ドロップ ダウンリストを表示します。
3. 日付の範囲でフィルタをかけるには、[日付の範囲でフィルタする] をクリックして、[すべての日付のイベントを表示] チェックボックスをクリアして、最初と最後の日付を入力し、[フィルタ] をクリックします。
4. [次へ] と [戻る] ボタンをクリックして、ログのページ間を移動します。

ログ ファイルの削除またはサイズ変更を行うには

1. 上記の手順にしたがって、管理ログ ファイルを表示します。

2. ログのサイズを変更するには  をクリックして新しいサイズを入力し、さらに **[サイズ変更]** をクリックします。これにより、以前のエントリが新しいサイズのログにコピーされます。(新しいログのサイズのほうが小さい場合は、以前のエントリは削除されることに留意してください。)
3. ログを削除するには、 をクリックします。

ログの内容をほかのアプリケーションにコピーするには

1. コピーするログのエントリを選択します。(複数のエントリを選択するには、**Ctrl** または **shift** キーを使います。)
2. **[編集]**、**[コピー]** の順にクリックし、**Windows** のクリップボードにある選択をコピーします。
3. ログのエントリを貼り付けるアプリケーションで、**[編集]**、**[貼り付け]** の順にクリックします。

(このページは意図的に空白にされています)

アラートを設定および表示する

アラートを使用する

コンピュータで問題や他のイベント (例えば、ディスク容量が残り少ない) が発生した場合、ISM はアラートを送信することができます。これらのアラートはその発生原因となる重要度またはしきい値を選ぶことにより、カスタマイズすることができます。アラートは管理コンソールに送信され、特定のアクションを実行するかローカル コンピュータに通知するように設定することができます。

- アラートをどのように表示しますか？
- どのようなコンピュータの問題によりアラートを発しますか？
- イベントの重要度レベルを設定する
- グローバル アラートと個々のアラートの違いは何ですか？
- 例：ディスク容量の問題に対して個々のアラートを設定する
- 例：すべてのコンピュータに対するグローバル アラートアクションを設定する

アラートをどのように表示しますか？

ISM は問題やその他のコンピュータのイベントを次により通知することができます。

- ログに情報を追加します。
- 電子メールで通知を送信します。
- プログラムを実行する。
- コンピュータをシャットダウンまたは再起動します。
- **SNMP** トラップをネットワークの **SNMP** 管理コンソールに送信します。
- サウンドを鳴らします。
- ポップアップアラート ウィンドウに情報を表示します。
- **LANDesk Management Suite** などの他の **LANDesk** 製品で使用可能な **Alert Management System (AMS)** に情報を転送します。

注：

- **SNMP** オプションは、ISM コンピュータに **SNMP** ソフトウェアがインストールされている場合にのみ使用できます。このソフトウェアは ISM には含まれていません。いません。 **SNMP** は、サポートされている **Windows*** プラットフォームの一部として利用可能です。ISM がロード時に **SNMP** コンポーネントを検出しない場合、これらのオプションはアラート アクションを設定するときに選択できません。
- 複数のポップアップアラートを一度に閉じるには、そのうちの 1 つを右クリックしてから **[すべてを確認する]** オプションを選択します。

どのようなコンピュータの問題によりアラートを発しますか？

ISM はインストールされているハードウェアとチップセットにより異なる方法でコンピュータを監視します。例えばシャーシ妨害検出はすべてのコンピュータで使用できるとは限りません。

ISM が監視できるイベントの一部は次の通りです。

- コンピュータでアプリケーションまたはパッケージが追加または削除された場合。
- コンピュータでハードウェア コンポーネント (NIC、モデム、ドライブ、メモリ) が追加または削除された場合。
- ECC メモリのエラーが検出された場合。
- システムの電源がオン、オフになった場合、またはリモートで再起動された場合。
- システム パフォーマンスのしきい値 (仮想メモリ、ドライブ容量、電圧、温度など) を超えた場合。
- モデムのアクティビティが検出された場合。
- コンピュータのケースが開いている場合。

イベントの重要度レベルを設定する

コンピュータの問題やイベントには、以下の一部または全ての重要度が適用されます。アラートを発する重要度またはしきい値を選ぶことができます。

- **情報** - 製造元のシステムにおける設定変更、**BSA** イベント、検索情報、またはコンピュータ イベントに対応するために使用することができます。
- **OK** - 問題が解決し、使用可能な状態になると通知します。
- **警告** - 問題が重大になる前に警告を発します。
- **重要** - 直ちに対応を必要とします。

イベントの質やコンピュータの問題によっては、適用されない、または含まれない重要度があります。その例として、シャーシ妨害イベントとしてコンピュータのシャーシが開いている、または閉じている、というものがあります。開いている際にはアラートの重要度によりアラートのアクションが発生することがあります。ディスク容量や仮想メモリなどのイベントには、**3**つの重要度レベル (正常、警告、および危険) があります。

グローバル アラートと個々のアラートの違いは何ですか？

ユーザは使用しているコンピュータ専用の一部のアラートおよびしきい値を設定することができます。たとえばクライアントまたはサーバ コンソールから、ディスク容量に対してカスタマイズされた警告と重要度のしきい値を設定することができます。これらのしきい値は管理者に送信されたイベントをトリガします。

管理者としてネットワークの任意のコンピュータで発生するイベントに対してグローバル アラート アクションを設定することができます。ISM 管理コンソールから設定されたグローバル アラート アクションと、管理されたコンピュータでローカルに設定されたアラート アクションは関連を持ちません。[マイ コンピュータ] のページからコンピュータにログオンすることにより、管理者コンソールからアラート アクションを個々のコンピュータに設定することもできます。

例：ローカル ドライブの容量に対して個々のアラートを設定する

1. 管理するコンピュータのコンソールから、**[管理]** をクリックして **[アラート]** をクリックします。
2. **[ドライブ容量]** をクリックします。
3. 送信するアラートのタイプをクリックして**[適用]** をクリックします。
4. そのアラートのオプションを設定するには (該当する場合)、**[適用]** をクリックして設定を保存し、**[基本設定の設定]** をクリックします。

例：すべてのコンピュータに対するグローバル アラートアクションを設定する

1. 管理コンソールから、**[管理]** をクリックして **[アラート]** をクリックします。
2. **[ドライブ容量]** をクリックします。
3. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (危険、警告または正常) のタブをクリックします。
4. 送信するアラートのタイプをクリックして**[適用]** をクリックします。
5. そのアラートのオプションを設定するには (該当する場合)、**[適用]** をクリックして設定を保存し、**[基本設定の設定]** をクリックします。

アラート標準フォーマット (ASF) の使用

アラート標準フォーマット (ASF) は、ハングしているコンピュータの再起動などの修正アクションの実行に使用できる ISM のオプション機能です。この機能を使用するには、次の条件を満たす必要があります。

- 管理されるコンピュータは ASF テクノロジーに対応しています。
- ISM のセットアップ中に ASF オプションをオンにしたこと。(またはコンピュータの製造元によって、配送時に ISM でこれらのオプションがオンになっていたこと。)
- ASF テクノロジー対応の各コンピュータに対し、ASF を設定したこと。

サポートされる修正処理は、インストールされている ASF チップのバージョンと、製造元によるコンピュータの設定によって異なります。最新バージョンの ASF でサポートされるデフォルト処理には次のようなものがあります。

- **電源を切る** - 選択したコンピュータのオペレーティングシステムが停止した場合に電源をオフにします。
- **電源を入れる** - 選択したコンピュータの電源をオンにします。
- **リセット** - 選択したコンピュータのオペレーティングシステムがハングした場合に再起動します。これはハード リセットで、電源をオフにして再度オンにする簡単な処理です。
- **電源サイクル** - システムをリセットします。これは、電源オフに続いて、電源オンを実行した場合と同じ結果になります。
- **確認 ping** - 管理されているクライアントに、確認 pong を要求するメッセージを送信します。pong を受信した場合は、ASF 対応であることが確認されます。

ASF アクションを実行するには

1. ISM のメイン ページで [マイ コンピュータ] をクリックします。
2. [管理] をクリックし、[ASF 機能] をクリックします。
3. リストから、アクションを実行する対象のコンピュータを選択しますその際、選択できるコンピュータは一度に 1 台のみです。
4. 実行するアクション (再起動、電源を切る、電源を入れる) をクリックします。

注 - [リセット] ボタンと [電源を切る] ボタンを使用できるのは、オペレーティング システムがハングしている場合のみです。 オペレーティングシステムがハングしていないコンピュータ、またはコンピュータのグループを再起動する場合は、[マイ コンピュータ] のページで [電源オプシ

ョン] アイコン  を使用します。

SNMP を使用する

管理されているコンピュータでイベントが発生すると、ISM は *SNMP* トラップを *SNMP* 管理コンソールに送信できます。管理されているコンピュータを *SNMP* トラップを送信するように設定するには、コンピュータのオペレーティング システムにもよりますが、いくつかの手順が必要です。一般的に、次のような操作が必要です。

- *SNMP* をインストールします。
- *SNMP* トラップの送信先を指定します。送信先には、*IP* アドレスまたはコンピュータ名を使用します。

ISM では、次の 2 つの方法で *SNMP* トラップを管理コンソールに送信できます。

- 管理されているコンピュータから管理コンソールに直接送信する。 *SNMP* トラップを送信する管理者コンピュータがネットワークから切断されると、1 つも *SNMP* トラップが送信されないため、この方法は管理者がイベントを転送するよりも安全です。
- 管理されているコンピュータから管理者コンピュータに送信する。そして管理者は *SNMP* トラップを管理コンソールへ送ります。この方法は上記の方法ほど安全ではありませんが、簡単に実行できます。ネットワークの各コンピュータで *SNMP* ソフトウェアのインストールと設定を行うかわりに、管理するコンピュータすべてに代わって、管理者コンピュータが *SNMP* トラップを受け取り、それから管理コンソールに送信します。

SNMP は、ISM 管理コンソールをインストールするコンピュータには必須です。 *ASF* が機能する、または *IPMI* 対応のシステムからアラートを受信するには、*SNMP* サービスが実行中であることが必要です。特定のインストールの情報については、使用している *Windows* のマニュアルか、*Microsoft* の *Web* サイトを参照してください。

Alert Management System を使用する

Alert Management System (AMS) が ISM のコンピュータにインストールされている場合、ISM から *AMS* にイベント情報を転送できます。 *AMS* によって、次のような追加のアラートアクションが作成されます。

- メッセージ ボックスを表示する

- ポケットベルへのメッセージを送信する
- インターネット メールへのメッセージを送信する
- プログラムを実行する
- ネットワーク ブロードキャストを送信する
- **SNMP** トラップを送信する
- **Windows** イベント ログでイベントを記録する
- **Netware NLM*** をロードする

注： AMS ソフトウェアは ISM インストール時にはインストールされません。また ISM CD-ROM にも含まれていません。AMS は LANDesk Management Suite などの他の LANDesk 製品で使用できます。ISM でロード時に AMS2 が検出されないと、AMS オプションはアラートの設定時に使用できません。AMS についての詳細は、LANDesk Management Suite のドキュメントを参照してください。

ポーリング頻度の設定

ISM では、Microsoft Windows のレジストリを使用して、アプリケーションのオプションやステータスに関する情報を保管しています。レジストリ キーの一部では、ISM でアラートに関する情報をポーリングする、または確認する頻度が指定されます。

重要 - レジストリを編集する際は十分ご注意ください。次の手順は、レジストリの設定の編集処理とその影響について精通している場合のみ実行を推奨します。変更を行う前にレジストリ ファイルのバックアップ コピーを作成してください。

ポーリングの頻度を設定するには

1. Windows のレジストリ エディタにアクセスします。

ポーリングのタイマーは、「HKLM\Software\Intel\Server Manager\CurrentVersion\CCS and HKLM\Software\Intel\Server Manager\CurrentVersion\conf\Thresholds」にあります。

2. 次の表にあげるポーリング タイマーで PollingFrequency を参照します。

ポーリング タイマー	デフォルトの頻度
サービス	3 分 (180 秒)
ディスクの変更	1 分 (60 秒)
SMART チェック	10 分 (600 秒)
ディスク容量	1 分 (60 秒)
メモリ使用率	1 分 (60 秒)

ECC メモリのエラー チェック	10 分 (600 秒)
アプリケーションの変更	10 分 (600 秒)
NIC の変更	3 分 (180 秒)
モデムの変更	3 分 (180 秒)
電源の変更	1 分 (60 秒)

3. 新しい頻度を、秒数で入力します。
4. コンピュータを再起動して変更内容を有効にします。

注 - ポーリングの頻度が高すぎるように設定されていると、CPU の使用が増加し、パフォーマンスに影響が出る場合があります。

IPMI 設定

[IPMI 設定] ページでは、*IPMI*対応システムとの通信設定をカスタマイズします。以下で説明する機能はインバンドサーバで使用できるものです。サーバがアウトオブバンドである場合、電源設定と **BMC** ユーザ設定のみ使用できます。

注： *IPMI* の仕様を熟知していて、このような設定に関連のある技術を理解していない場合、*IPMI* 設定を変更しないことを推奨いたします。これら設定オプションを不適切に使用すると、*ISM* が *IPMI* 対応コンピュータと正常に通信できなくなる可能性があります。

次の設定オプションが利用可能です。

- デフォルト **BMC** 設定のリストア
- LAN シリアル設定
- ウォッチドッグ タイマ設定
- 電源構成の設定
- **BMC** ユーザ名/パスワード設定

デフォルト BMC 設定のリストア

あるコンピュータに対して **BMC** の設定をカスタマイズした場合、インストール時に *ISM* で使用される以下を含む設定に戻すことができます。

- IP 同期が再有効化
- LAN とシリアル チャネル設定は自動設定にリセットされます。
- すべての LAN とシリアル チャネルは、管理用特権の制限があり、セッション制限なしで有効になっている

- MD5、MD2、およびストレートパスワードおよび RMCP+ (IPMI 2.0 のみ) 認証メソッドで、メッセージごとの認証が有効になっている
- 電源設定は推奨設定に戻される（電源が切れた前の状態に戻る）
- PEF (プラットフォーム イベント フィルタリング) テーブルが、LAN 設定でのイベントの保存先を含む ISM デフォルトにリストアされる

注：

- BMC 設定が元に戻されたとき BMC ユーザー名設定はリセットされません。
- サーバがアウトオブバンドのとき、[推奨設定のリストア] オプションは使用できません。

デフォルト BMC 設定をリストアするには

1. [マイ コンピュータ] リストで、管理するコンピュータをダブルクリックします。
2. そのコンピュータにログオンします。
3. [管理] をクリックし、[IPMI 設定] をダブルクリックします。
4. [IPMI 設定] をクリックしてから、[推奨設定のリストア] をクリックします。

LAN およびシリアル設定の変更

IPMI メッセージは、コンピュータのシステム インタフェースのほかに LAN およびシリアル インタフェース経由の BMC から直接伝えられます。LAN またはシリアル通信を有効にすると、コンピュータに電源が入っていても、ISM 管理コンソールが IPMI 固有アラートを受信することが可能です。管理コンソールは、有効なネットワーク アドレスでそのコンピュータが物理的にネットワークに接続されていて、コンピュータの主電源がつながっているだけで、この通信を維持できます。

LAN およびシリアル設定の変更

1. [マイ コンピュータ] リストで、管理するコンピュータをダブルクリックします。
2. そのコンピュータにログオンします。
3. [管理] をクリックし、[IPMI 設定] をダブルクリックします。
4. [LAN およびシリアル設定] をクリックします。
5. LAN 用およびシリアル アクセス用のアクセス メソッドを選択します。
6. [適用] をクリックします。

注：

- カスタム設定を選択した場合、[カスタマイズ] オプションをクリックして設定の詳細を指定します。
- シリアル モデムの操作にはサーバ ボードの BIOS とジャンプ設定を設定する必要があることがあります。詳細については同一のサーバのドキュメントを参照してください。

ウォッチドッグ タイマー設定の変更

IPMI では、BMC ウォッチドッグ タイマーのインタフェースを提供しています。このタイマーは、定期的に期限切れになるように設定可能で、また期限が切れた際にあるアクション（電源サイクリングなど）を実行するように設定することも可能です。ISM は定期的にタイマーをリセットするように設定されているので、期限が切れません。コンピュータが利用できなくなった場合（たとえば、電源オフ時やハングアップした際に）、タイマーはリセットされずに期限切れになり、アクションが実行されます。

タイマーの期限が切れる時間を指定して、期限切れの際に実行するアクションを選択することができます。

ウォッチドッグ タイマ設定を変更するには

1. [マイ コンピュータ] リストで、管理するコンピュータをダブルクリックします。
2. そのコンピュータにログオンします。
3. [管理] をクリックし、[IPMI 設定] をダブルクリックします。
4. [ウォッチドッグ タイマー設定] をクリックします。
5. [ウォッチドッグ タイマーをオンにする] にチェックを入れて、タイマーを有効にします。
6. タイマー確認の頻度を指定します（分または秒数）。
7. ウォッチドッグ タイマーが期限切れになった際に実行するアクションを選択します。
8. [適用] をクリックします。

電源構成の設定を変更する

IPMI 対応コンピュータ上で電源が落ちた場合、電源が復帰した際にどんなアクションを実行するか指定することができます。電源が落ちた際の状態にコンピュータを復帰することを推奨しますが、電源オフのままにしておくことも、常にコンピュータに電源を入れることも選択できます。

電源構成の設定を変更するには

1. [マイ コンピュータ] リストで、管理するコンピュータをダブルクリックします。
2. そのコンピュータにログオンします。
3. [管理] をクリックし、[IPMI 設定] をダブルクリックします。
4. [電源構成] をクリックします。
5. 電源が復帰した際のオプションを選択します。
6. [適用] をクリックします。

BMC ユーザ設定を変更する

ISM は、BMC に固有のユーザ名/パスワードの組み合わせを持つ BMC に対して認証します（他の ISM ユーザ名とは異なります）。ISM は最初のユーザ名を予約し、常に BMC と通信できるよ

うにしています。BMC で他のユーザ名の定義ができる場合には、BMC 認証用のパスワードを持ったユーザ名を定義することができます。

BMC ユーザ設定を変更するには

1. **[マイ コンピュータ]** リストで、管理するコンピュータをダブルクリックします。
2. そのコンピュータにログオンします。
3. **[管理]** をクリックし、**[IPMI 設定]** をダブルクリックします。
4. **[BMC ユーザ設定]** をクリックします。
5. ユーザ名を追加または変更するには、**[編集]** をクリックします。
6. ユーザ名のデータをクリアするには、**[クリア]** をクリックします。

(このページは意図的に空白にされています)

コンピュータヘルスを監視する

ヘルスを監視する

ISM ではコンピュータの重要な機能の一部およびリソースの一部が監視され、問題が検出されると直ちにアラートが通知されます。コンピュータのハードウェアによって、ISM で監視できるリソースや機能には、次のようなものがあります。

- **シャシー侵入** - システムのシャシーが開いた時間を監視します。
- **ドライブ障害予測 - S.M.A.R.T.** ドライブでディスク障害が発生する可能性を監視します。
- **ドライブスペース** - 各論理ドライブの空き容量を監視します。各論理ドライブのしきい値は変更可能です。
- **ECC エラー検出 - ECC (エラー修正コード)** メモリーの検出を監視します。
- **ファンの回転速度** - コンピュータに装備されている冷却ファンの回転速度を監視します。
- **パフォーマンス** - 指定したカウンタのパフォーマンス データを監視します (ドライブ、メモリー、ネットワークや負荷などのコンポーネント)。
- **電源** - システムの各電源の状態を監視します。
- **サービス** - 指定したシステム サービスを監視します。
- **温度** - システムの重要なコンポーネントの温度を監視します。
- **仮想メモリ** - コンピュータで使用可能な仮想メモリの容量を監視します。しきい値は変更可能です。
- **電圧** - コンピュータの電源コードの電圧を監視します。

上記のいずれかのエリアで問題が発生した場合、コンピュータのヘルス ステータスはイベントと重要度に応じて正常から警告または危険に変わります。(コンピュータのステータスアイコンは警告  または危険  を含みます。)ISM の次のいずれかのツールを使用してコンピュータのヘルスの変化を確認できます。

- **[マイ コンピュータ] リスト - [マイ コンピュータ] リスト**には、リスト内の各コンピュータのヘルスを示すアイコンと列が表示されます。
- **サマリ** - コンピュータ サマリのページに問題の説明が表示されます。
- **システム** - 左パネルの [システム] のリンクの下でヘルス ステータスの変更を生成するアイテム (ドライバやメモリなど) をクリックします。アイテムのページには問題の説明と問題を解決する手順が含まれます。
- **アラート** - ISM にはヘルスの変化を通知する 5 段階の異なるアラート アクションが含まれています。

コンピュータのヘルス ステータスを判定するために使用するヘルス バロメータを選択できます。デフォルトで、すべてのヘルス バロメータが選択されています。ヘルス バロメータ項目のどれかの選択を解除すると、その項目はヘルス全体の監視には使用されませんが、その項目に関するアラートは引き続き受信されます。たとえば、サーバの全体的なヘルスの警告にパフォーマンス

カウンタが必要ないと判断した場合、[パフォーマンス]の選択を解除します。この場合、パフォーマンス カウンタに対して選択されているアラートは引き続き受信します。

アウトオブバンド IPMI サーバーでは、限られた数のヘルス バロメータをサーバの BMC を通して監視することができます。これらのヘルス バロメータは、ヘルス バロメータのリストに「(IPMI)」とマークされています。これらは設定できないので、サーバがアウトオブバンドのときには、ヘルス バロメータのリストで選択を解除したかどうかに関わらず、監視されます。

ブレード サーバまたはシャーシ管理モジュールのヘルス ステータスの通知を受け取ると、製造元により提供される管理モジュールの Web インターフェイスで詳細を表示できます。サーバまたはシャーシ管理モジュールのサマリ ページでヘルス ステータスの通知をクリックして、製造元が提供するユーザインターフェイスを開きます。

ヘルスのコントリビュータを選択するには

1. [管理] をクリックし、[ヘルス] をクリックします。
2. [ヘルス] ページで、システムの全体的なヘルスへのコントリビュータとする項目を選択し、[適用] をクリックします。

タスクバー アイコンを使用する

Windows タスク バーには ISM の起動に使用できるアイコンが表示されます。またタスクバー アイコンは、自分のコンピュータやネットワーク上のほかのコンピュータのヘルスの状態を示します。アイコンにマウスのポインタを置くと、ヘルス ステータス、および受け取った未確認のアラート数が表示されます。

タスクバー アイコンはコンピュータの現在のヘルス ステータスを次の 3 つのいずれかの状態で示します。

-  正常
-  警告
-  危険

システムが新しいアラートを受け取ると、タスクバーのアイコンが点滅します。点滅は、アラートを確認するまで続きます。詳細については、[ポップアップアラートの設定と使用](#)を参照してください。

タスクバーから ISM を実行するには

1. タスクバー アイコンを右クリックまたはダブルクリックします。
2. [コンピュータの管理] または [このコンピュータの管理] をクリックします。

注 - コンピュータに管理者インストールと、クライアント インストールまたはサーバイnstallの両方がインストールされている場合、メニューには両方の項目が表示されません。

パフォーマンス カウンタを選択する

ISM の [パフォーマンス カウンタ] ページでは、監視するパフォーマンス項目を選択することができます。ドライブ、プロセッサ、メモリなどの特定のハードウェア コンポーネントや、プロセスやシステムの Web サーバの転送速度 (1 秒あたりのバイト数) などの OS コンポーネントを監視できます。カウンタを選択する際に、項目をポーリングする頻度を指定し、パフォーマンスのしきい値とアラートを発するまでに許容できる違反数も設定します。

パフォーマンス カウンタが選択されると、[パフォーマンス] ページでリアルタイム データおよび履歴データのグラフを見てパフォーマンスを監視することができます。

また、パフォーマンス カウンタが上限や下限のしきい値を、あらかじめ定義した回数だけ超過または下回った場合に、通知を生成するアラート アクションを設定できます。

監視するパフォーマンス カウンタを選択するには

1. [管理] をクリックして、[パフォーマンス カウンタ] をクリックします。
2. [監視するパフォーマンス カウンタの選択] をクリックします。
3. [オブジェクト] 列から、監視するオブジェクトを選択します。
4. [インスタンス] 列から、監視するオブジェクトのインスタンスを選択します (該当する場合)。
5. [カウンタ] 列から、監視する特定のカウンタを選択します。
6. ポーリングの間隔と、履歴を保存する日数を指定します。
7. [カウンタが許容値を超えた場合にアラートする] ドロップダウン リストから、アラートを発信する前に、しきい値を超過または下回ることのできる回数を指定します。
8. 上限と下限のしきい値を指定します。
9. [適用] をクリックします。

注

- パフォーマンス ログ ファイルは、すぐにサイズが大きくなります。1 つのカウンタを 2 秒間隔でポーリングすると、毎日 2.5MB の情報がパフォーマンス ログに追加されます。
- [カウンタが許容値を超えた場合にアラートする] の数を変更することで、永続的な問題に対処するか、個々のイベントに対応するかの焦点を絞ることができます。たとえば、Web サーバから送信されたバイト数を監視する場合は、1 秒あたりの送信バイト数が継続して大きい場合にアラートを発信できます。または、1 や 2 などの小さな数字を指定し、FTP に匿名で接続しているユーザの数が一定数を超えた場合にアラートを発信することもできます。

パフォーマンス アラート アクションを設定するには

1. [管理] をクリックし、[アラート] をクリックします。
2. [パフォーマンス] をクリックします。
3. アラートを設定する対象のステータスのタイプ (正常または警告) のタブをクリックします。

4. 送信するアラートのタイプをクリックして**[適用]** をクリックします。
5. そのアラートのオプションを設定するには (該当する場合)、**[適用]** をクリックして設定を保存し、**[基本設定の設定]** をクリックします。

注 - アラートを行う前に、1 つ以上のカウンタを選択する必要があります。

基本設定

アラートの基本設定

アラートの基本設定は次の目的で使用します。

- オーディオアラートの設定
- 電子メールとポケットベルのアラートを設定する
- ポップアップアラートの設定と使用
- 電源サイクルアラートの設定

オーディオアラートの設定

[オーディオアラート]のページでは、特定のイベントが発生した場合に、サウンドを再生して通知を行うように設定できます。サウンドによる通知は、このページで指定した .WAV ファイルを再生して行われます。

オーディオアラートを設定すると、コンソールがインストールされているコンピュータで通知の .WAV ファイルが再生されます。たとえば、管理コンソールからサーバコンソールを開き、オーディオアラートの基本設定を行うと、サウンドは管理コンソールのコンピュータではなくサーバで再生されます。

サウンドによる通知は、情報、OK (正常)、警告、危険の各イベントに使用できます。

特定のイベントで再生するサウンドの通知を設定するには

1. [基本設定] をクリックし、[アラート] をクリックします。
2. [基本設定：オーディオアラート] をクリックして、[アラート サウンドを鳴らす (.wav ファイル)] を選択します。
3. サウンドによる通知を行うイベントのテキストボックスに、.WAV ファイルのパスとファイル名を入力します。たとえば、「C:\WINDOWS\Media\notify.wav」のようにします。他の通知に対しても同様の操作を繰り返します。
4. 設定が完了したら、[適用] をクリックします。

電子メールとポケットベルのアラートを設定する

[電子メールアラート] ページを使用して、ISM でアラートアクションの電子メールメッセージの形式を指定し送信する方法を設定します。SMTP インターネットメールサーバへアクセスできない場合は、このアラートアクションは機能しません。

電子メールで通知するイベントと重大レベルを設定するための情報は、アラートを使用するを参照してください。

注：

- SMTP インターネット メール サーバへ接続できない場合、ISM は指定された配信オプションに従って接続を試行します。ISM が SMTP サーバに電子メールの配信を完了すると、そのメッセージへの配信の制御は失われます。
- ISM は認証を必要とする SMTP サーバには電子メールのアラートを設定しません。

ISM では次の電子メール設定を変更できます。

- **送信メール サーバ (SMTP)** - アラート アクションがメッセージを送信するのに使用する SMTP インターネット メール サーバ。
- **宛先** - アラートを受信する電子メールアドレス。複数の電子メールアドレスに送信する場合は、電子メール アドレスをカンマで区切ったリストを使用します。メッセージはポケットベルにも送信できます (5551234567@ mobile.att.net など)。
- **差出人** - メッセージの [から] フィールドに指定する差出人の電子メール アドレス。有効な電子メール アドレスを指定する必要があります。
- **件名** - メッセージの件名。
- **本文** - メッセージの本文。
- **パラメータ言語** - パラメータの言語。
- **配信試行回数** - 指定した SMTP メール サーバに ISM が配信を試行する回数。
- **試行間隔 (分)** - 指定した SMTP メール サーバに ISM が配信を試行する間隔 (分)。

件名と本文には、電子メール メッセージが送信されるときに置き換えられる動的パラメータを含めることができます。メッセージ内には、これらのパラメータを最高 10 個まで使用できます。

- %% = %
- %D = 説明
- %N = コンピュータ名
- %S = 重要度
- %T = 時間 (UTC/グリニッジ標準時)

電子メールとポケットベルのアラートを設定するには

1. [基本設定] をクリックし、[アラート] をクリックします。
2. [基本設定 : 1]、[電子メール アラート] をクリックし、[電子メールでアラートを送信] をクリックします。
3. 電子メール オプションを設定します。
4. [適用] をクリックします。

ポップアップ アラートの設定と使用

ポップアップ アラート ウィンドウは、コンピュータの画面右下にボックスで表示されます。このウィンドウには、ご使用のコンピュータまたは管理している他の ISM コンピュータで発生したイベントに関する情報が表示されます。どのイベントおよび重要度によってポップアップ アラート ウィンドウが開くようにするかを指定できます。詳細情報は、アラートを使用するをご覧ください。

ポップアップアラート ウィンドウの通知は、ユーザがログアウトしたり、コンピュータがシャットダウンされるたびに消去されます。ただし、コンピュータの起動時に通知ログから通知が削除されるわけではありません。

注意 - Windows* XP でユーザの簡易切り替えが有効の場合。

- コンピュータにログオンしている既存のユーザの画面に、ポップアップアラート ウィンドウが表示されます。他のユーザの画面では、タスクバー アイコンを使用するに説明されているように、タスクバーで ISM のアイコンが点滅します。これらのユーザは、ISM アイコンをクリックして、ポップアップアラート ウィンドウを開くことができます。
- 複数のユーザがログオンしている場合、現在のユーザがポップアップアラート ウィンドウを閉じて、他のユーザに対しては切り替え後にウィンドウが表示されます。

ポップアップアラートの基本設定を設定する

ポップアップアラートの表示の設定を変更できます。

1. [基本設定] をクリックし、[アラート] をクリックします。
2. [基本設定:]、[ポップアップアラート]、[ポップアップアラートを表示] をクリックします。
3. 制限とホットキーのオプションを設定します。
4. [適用] をクリックします。

ポップアップアラート ウィンドウのオプションを使用する

コンピュータ名およびイベントの詳細のほかに、ポップアップアラート ウィンドウには次のオプションがあります。

- **詳細情報** - 通知を生成したコンピュータに接続し、問題の詳細内容を表示し、対策を提示します。
- **確認** - ポップアップアラート ウィンドウから現在の通知を削除し、次の通知を表示します。最後の通知が削除されると、ポップアップアラート ウィンドウは閉じます。
- **新しい通知を表示しない** - 新しい通知を受信してもポップアップアラート ウィンドウは表示されません。ただし、新しいアラートを受信すると、システムトレイアイコンが点滅して通知します。
- **詳細オプション** - ポップアップアラート ウィンドウのメッセージボックスを右クリックし、これらの詳細オプションにアクセスします。
- **すべてを確認** - すべての通知を消去し、ポップアップアラート ウィンドウを閉じます。
- **ある場所ですべてを確認** - 特定のコンピュータからすべての通知を削除します。
- **コピー** - 現在の通知をクリップボードにコピーします。

[ページアップ]  および [ページダウン]  矢印を使い、未確認の通知のリストを循環して確認できます。

注 - ログインしていない場合、コンピュータからの通知はログファイルに保存されます。管理者コンピュータがネットワークに接続されていない場合は、リモートコンピュータからのアラートは保存され、管理者コンピュータがネットワークに接続されてからこれらのアラートは管理者

コンピュータに送信されます。ネットワークに接続されていないリモート コンピュータからのアラートは保存され、管理者コンピュータがネットワークに接続されてからこれらのアラートは管理者コンピュータに送信されます。

ポップアップ アラート ウィンドウを表示する

キーボードの通知ホットキーの組み合わせ (デフォルトで **Ctrl+Alt+N**) を押せば、いつでもポップアップ アラート ウィンドウを表示することができます。

電源サイクル アラートの設定

[電源サイクル アラート] ページを使って、ある設定済みイベントが発生した際にサーバまたはクライアント コンピュータをシャットダウンさせたり再起動させたりできます。

電源サイクル アラートをトリガーするイベントの種類と重大度レベルの設定方法については、アラート を使用するを参照してください。

注 - 無人で稼働しているコンピュータでは、電源サイクルによりデータの損失が起こるおそれがあります。

電源サイクル アラートを設定するには

1. [基本設定] をクリックし、[アラート] をクリックします。
2. [基本設定 :]、[電源サイクル アラート] をクリックして、[電源サイクル アラートの使用] を選択します。
3. 電源サイクル アラートを設定します。
4. 設定が完了したら、[適用] をクリックします。

下記のオプションを使って、電源サイクル アラートを設定します。

- **イベントを受け取った際に: シャットダウン/再起動** - 設定したイベントを受け取った際の電源サイクルの種類 (シャットダウンまたは再起動)。
- **電源サイクル開始までの秒数** - イベント受信時から電源サイクル開始までの時間 (秒)。シャットダウンまたは再起動を行うまで秒数が管理対象コンピュータの画面に表示されます。これによって、データを保存してアプリケーションを終了することができます。このオプションが 0 に設定されると、警告は通知されません。
- **正常な電源サイクルが失敗した場合にハード電源サイクルを許可する** - このオプションを選択すると、ISM が管理するコンピュータの正常なシャットダウンまたは再起動に失敗した場合に、ハード電源サイクルを行うことができます。このオプションは、管理するシャーシ管理モジュールで IPMI システムとブレードサーバにのみ使用できます。

コンピュータ リストの基本設定

次の目的で [コンピュータ リストの基本設定] を使用できます。

- [マイ コンピュータ] のリストの列の表示順を変更します。
- [マイ コンピュータ] のリストにカスタム属性を持った列を追加します。

[マイ コンピュータ] リストの列にどの属性を表示させるか選択できます。最初の（左側の）列は常にコンピュータ名を表示しますが、他の列はお好みを配列できます。また、管理するコンピュータのカスタム属性を定義することも可能です。たとえば、[場所] 列を追加して、個々のコンピュータの物理的な場所（1 階、2 階など）を手動で割当てることができます。

列の順序を変更するには

1. [基本設定] をクリックし、[コンピュータ リスト] をクリックします。
2. [基本設定：コンピュータのリスト] をクリックします。
3. 変更したい列のドロップダウン リストをクリックして（列 1 は [マイ コンピュータ] リストの最も左にある列）、その列で表示したいフィールド名を選択します。たとえば、[コンピュータ名] に続いて [IP アドレス] を列 2 に表示するには、列 2 のドロップダウン リストをクリックして、[IP アドレス] を選択します。
4. [適用] をクリックして、変更を保存します。または、[デフォルトに戻す] をクリックすると、列を元の順序に戻すことができます。

カスタム属性を持つ列を追加するには

1. [基本設定] をクリックし、[コンピュータ リスト] をクリックします。
2. [基本設定：]、[コンピュータのリスト] をクリックします。
3. 「（未定義）」とラベルされたタブをクリックします。
4. [列名] ボックスにその属性のヘッダーを入力します。
5. 割り当て可能な各属性に対し、その属性名を入力して、[リストに追加] をクリックします。
6. 必要な属性すべてがリストに表示されたら、[適用] をクリックします。
7. 列のリストで、列 (2-8) のドロップダウン リストをクリックして、作成した属性ヘッダを選択します。
8. [適用] をクリックして、[マイ コンピュータ] リストに新しい列を追加します。

これで、カスタムの列が [マイ コンピュータ] リストで利用可能になります。管理されているコンピュータに属性値を割り当てするには、コンピュータを選択し、ツールバーで  をクリックします。詳細は [カスタム属性を適用する](#) を参照してください。

検索の基本設定

[検索の基本設定] を使用して検出と更新の基本設定を変更できます。管理するコンピュータに関するデータは、自動検出または管理するコンピュータのステータス情報を更新することによって、定期的に更新されます。[検出] の基本設定で、自動的にこれらのアクションを実行する頻度を設定できます。

ISM は 2 つの方法で管理するコンピュータに関する情報を更新します。

- [マイ コンピュータ] のリストが更新される
- すべての管理するコンピュータが、ステータスを更新するようにクエリされる

[マイ コンピュータ] リストが更新されると、前回のクエリによるコンピュータ ステータスが表示され、管理するコンピュータから送られたアラートもすべて表示されます。リストのステータスが更新される前にアラート通知を受け取る場合もあります。

コンピュータのクエリーを実行するより高い頻度でリストを更新することができます。多くのコンピュータを管理している場合、クエリ処理にはかなりの時間がかかります。ですから、クエリはあまり頻繁にしないように選択できます。しかし、ステータスの更新をより頻繁に表示するように、リストは高い頻度で更新することができます。これで、ISM が最近すべてのコンピュータに対してクエリーを実行していなくても、すぐにアラート情報を表示することができます。

また、ISM が検出作業を自動的に実行する頻度も設定することもできます。この検出処理は、バックグラウンドで実行し、指定した方法とアドレスに基づいて行われます。

また、バックグラウンドでの検出処理が実行されるたびに [その他のコンピュータ] リストをクリアするかどうかを選択できます。このオプションを選択しないと、バックグラウンドでの検出処理が行われたときにリストは更新されますが完全には再構築されません。このオプションを選択すると、検出処理が実行されるたびにリストがクリアされて再構築されます。

コンピュータのステータスの更新頻度を変更するには

1. [基本設定] をクリックし、[検索] をクリックします。
2. コンピュータのリストおよび管理されているコンピュータの情報を更新する間隔を指定します。
3. [適用] をクリックして、設定を変更します。

すぐに管理するコンピュータすべてをクエリするには

1. [基本設定] をクリックし、[検索] をクリックします。
2. [今すぐ更新] をクリックします。

自動検出の頻度を変更するには

1. [基本設定] をクリックし、[検索] をクリックします。
2. 自動検出の間隔 (時間) を指定します。
3. [適用] をクリックして、設定を変更します。

管理されていないコンピュータの検出を実行するには

1. [基本設定] をクリックし、[検索] をクリックします。
2. [今すぐ検出] をクリックします。

これで、バックグラウンドでの検出処理が始まります。実行中も、コンソールからコンピュータの管理を続けることができます。

[その他のコンピュータ]リストをクリアします

- すぐにリストをクリアするには、[今すぐクリア]をクリックするか、ツールバーで  をクリックします。
- 自動検出が行われるたびにリストをクリアするには、[その他のコンピュータのリストをクリアします]を選択して [適用] をクリックします。

コンピュータ管理変更オプション

[マイ コンピュータの基本設定]には、コンピュータの管理に関する設定を変更するためのオプションが含まれています。

- **LAN の帯域外 IPMI サーバの管理を有効にします** LAN で接続をリスニングしているベースボード管理コントローラの検索を有効にし、それらを管理できるようにします。
- **帯域外 IPMI サーバのシリアル管理を有効にします** このオプションにより、シリアルポート接続によって帯域外 IPMI サーバを管理できます。このオプションがオンの場合、ツールバーで  をクリックして [マイ コンピュータ] のリストにコンピュータを接続すると、シリアル接続オプションが表示されます。これらのシリアル接続オプションを使用すると、ポート、ボーレート、フロータイプ、および電話番号の情報によってコンピュータへの特有のシリアル接続を定義できます。その接続上のコンピュータは、その後管理コンピュータリストに追加されます。また、このオプションをオンにすると、グループ (シリアル IPMI デバイス) が [マイ コンピュータ] リストに自動的に追加される、すべてのシリアルデバイスが1つのリストに表示されます。
- **完全修飾ドメイン名を使用してコンピュータを管理します** コンピュータは、完全修飾ドメイン名 (mycomputer.mydomain.com) または単にコンピュータ名 (mycomputer) を使って識別することができます。たとえば、単一ドメイン ネットワークを管理している場合、単にコンピュータ名を使用することができます。複数ドメイン ネットワークで適切な DNS 解決を行うためには、完全修飾ドメイン名オプションをオンにします。
- **ブレード シャーシとブレード サーバ管理を有効にします** このオプションは [検索] を有効にしてシャーシとブレード サーバを検索します。選択されていない場合は、それらは検索されません。  をクリックし、個別のブレード サーバまたはシャーシのコンピュータ名または IP アドレスを入力すると、ブレードサーバとシャーシを管理できます。

ハードウェア イベントの基本設定

ハードウェア イベントの基本設定を使用して帯域外 IPMI サーバ用のハードウェア イベント ログバックアップオプションの設定を行います。

IPMI 対応システムでは、BMC のシステム イベント ログ (SEL) にハードウェア イベントのログが保存されます。イベントデータはログから削除されないため、SEL の記憶領域の上限に達したら、新しいハードウェア イベントのロギングが停止されます。このような状態を避けるために、SEL のハードウェア イベント ログをバックアップするように ISM を設定し、その記憶容量の一定パーセントに達するとログをクリアするように設定します。(SEL バックアップ オプションの設定方法は、ハードウェア イベントを表示するを参照してください。)

帯域外の IPMI サーバでは、SEL バックアップ オプションは一部利用できないものがありますが、ISM で帯域外サーバのバックアップ データを取得することができます。SEL をチェックする頻度とバックアップのためにリポジトリを使用できるパーセントを設定できます。

帯域外 IPMI サーバ用のハードウェア イベント ログ バックアップ オプションの設定

1. [基本設定] をクリックして、[ハードウェア イベント] をクリックします。
2. 帯域外サーバのバックアップを行うには、[ハードウェア イベントのバックアップをオンにする] を選択します。
3. ログをチェックする頻度とバックアップするパーセントを指定します。
4. [適用] をクリックします。

レガシー サポートの基本設定

ISM の以前のバージョンまたは LANDesk Client Manager バージョン 6.3 ~ 8.0 のいずれかがインストールされたコンピュータを管理できます。ISM 管理者バージョンでこのオプションを有効にしないと、「レガシー」コンピュータを管理することはできません。（これは、証明書の受け渡し製品バージョンによって異なるため、レガシー コンピュータを管理するために特別に定義されているユーザ名/パスワードの組み合わせが必要です。）

ISM 管理者バージョンをインストールすると、レガシー サポートを有効にするオプションをインストール ウィザードに含めることができます。これを行うときは、管理者ユーザ名用のパスワードを設定する必要があります。

インストール時にレガシー サポートを有効にしていない場合、[レガシー サポートの基本設定] ページで有効にすることができます。この場合も、管理者ユーザ名用のパスワードを設定する必要があります。

レガシー サポートを有効にした後、レガシー バージョンのコンピュータが検出され、[その他のコンピュータ] リストに表示されるようになります。これらのコンピュータを [マイ コンピュータ] リストに追加するには、レガシー サポートを有効にしたときに使用した管理者ユーザ名のパスワード証明書を使用する必要があります。

管理者ユーザ名とパスワードを設定した後、[レガシー サポートの基本設定] ページでいつでもパスワードを変更できます。（レガシー サポートは、いったん有効にすると、無効にすることはできません。）

注： Client Manager 6.3 がインストールされているコンピュータでは、管理されているコンピュータ上に管理者証明書が保存されているので、そのようなコンピュータを管理するには、入力する証明書がコンピュータに保存されているものと一致する必要があります。

レガシー サポートを有効にするには

1. [基本設定] をクリックし、[レガシー サポート] をクリックします。
2. [レガシー サポートの有効化] を選択します。
3. レガシー コンピュータを管理するために使用するパスワードを入力し、もう一度入力します。

4. **[適用]** をクリックします。

レガシー コンピュータの管理に使用するパスワードを変更するには

1. **[基本設定]** をクリックし、**[レガシー サポート]** をクリックします。
2. レガシー コンピュータを管理するために使用するパスワードを入力し、もう一度入力します。
3. **[適用]** をクリックします。

(このページは意図的に空白にされています)

参考文書

トラブルシューティング

ブリッジエージェントのあるコンピュータに ISM をインストールする

ISM ブリッジエージェントがインストールされているクライアントまたはサーバ上に ISM をインストールすると、インストール中に ISM エージェントが既存のブリッジエージェントを削除してしまいます。コンピュータ上で定義されていたカスタム BMC 設定はすべて失われます。

OpenIPMI を持つ Linux サーバで IPMI が検出されない

ISM を OpenIPMI デバイス ドライバがインストールされている Linux サーバにインストールする場合、ISM IPMI ドライバ (LDIPMI) がロードされずに、そのサーバの IPMI 機能が検出されません。ISM は今のところ OpenIPMI をサポートしていません。

Windows Server 2003 サーバ上でシステム情報が利用できない

ISM 管理コンソールを使用して Windows Server 2003 を実行しているサーバを管理する場合、一部のシステム インベントリ項目 (ファン、電圧、記憶装置デバイスなど) で情報が利用できないという内容のメッセージが表示されます。これは、そのコンピュータの WMI レポジトリ (別名 CIM レポジトリ) の問題で引き起こされます。この場合、コンピュータの管理能力がそのレポジトリ内にある既存の CIMV2 シェーマの存在に依存しているため、問題は ISM では解決できません。これは、WMI レポジトリをリストアすることでのみ解決できます (詳細については、Windows Server 2003 サポート ドキュメントを参照)。

Windows XP のユーザの簡易切り替えと ISM 管理コンソール

ユーザの簡易切り替えが有効にされている Windows XP に ISM 管理者コンソールをインストールする場合、イベントの応答でプログラムを実行するアラート アクションを使用すると問題が発生する可能性があります。そのコンピュータに最初にログインしたユーザセッションは ISM 管理コンソールとみなされ、プログラムがアラート アクションとして実行されると、そのユーザが ISM 管理者でなくてもプログラム プロセスが最初にログインしたユーザセッションの下で実行されます。何らかの理由で、管理者が最初にログインしたユーザでない場合、アラート アクションとして実行されるプログラムは管理者には表示されません。そのようなコンピュータでプログラムを実行するのにアラート アクションを追加する場合は、ユーザの介入なく実行されるプログラムのみを使用してください。

「接続に失敗しました」エラー メッセージ

問題：[その他のコンピュータ]リスト上の IPMI サーバは管理できません

稀に [その他のコンピュータ]リストにの IPMI サーバが表示されることがありますが、[マイ コンピュータ]リストには追加できません。これは、サーバが最後に検出されたときにインバンドであったが、その後アウトオブバンドに変化して、[マイ コンピュータ]に追加しようとしたときにはアウトオブバンドであった場合に発生します。

この状態が発生すると、そのコンピュータを管理しようとしたときに「接続に失敗しました」というエラー メッセージを受け取ります。

この問題が発生した場合は、そのコンピュータをもう一度検出する必要があります。この場合、そのコンピュータは [その他のコンピュータ]リストに「アウトオブバンド」ステータスで表示されるので、[マイ コンピュータ]リストに追加して、その他のアウトオブバンドコンピュータと同様に管理することができます。

1.  をクリックして [その他のコンピュータ]リストをクリアします。
2.  をクリックしてコンピュータを検索します。
3. 必要なら、[その他のコンピュータ]リストを更新します。
4. そのコンピュータを選択し、 をクリックして [マイ コンピュータ]に追加します。

"コンピュータを管理できませんでした (一般エラー)" というエラー メッセージ

一般エラーはコンピュータの管理/追加システムにより生成され、"コンピュータを管理できませんでした (一般エラー %s)"という形式で表示されます。%sはそのエラーを識別する番号で置き換えられます。

番号	意味
0	一般の破滅的なエラーが発生しました (Windows ソケット処理のエラーの可能性が あります)。
1	無効なネットワークが検出されました。 コンピュータが DNS なしのネットワーク に接続されている可能性があります。
2	今後の使用に予約済み。
3	無効なコマンドライン。
4	管理するコンピュータが選択されていません。
5	メモリの割り当てエラー。

ルータまたはファイアウォールとのポートの競合

管理するコンピュータが管理者コンソールとは別のサブネット上にある場合、すべてのデータを
表示できないことがあります。ISM が正常、かつ完全に機能するには、ポート 623、9593、

9594、9595、6780 がオープンであることが必要です。これらのポートのいずれかがオープンでない場合、ファイアウォールまたはルータの使用に競合が起きる可能性があります。ポートの競合を解決するにはファイアウォールまたはルータのドキュメントを参照してください。

SNMP

ISM は、Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用して、以下をサポートしています。

- *SNMP* を使用してアラートを通知する。ISM は直接 *SNMP* トラップを転送できます。
- *SNMP* を実行している管理者が、管理されているコンピュータと通信する。

トラップは、*SNMP* サービスを通して管理者コンピュータ上で設定されている *SNMP* 管理アプリケーションに送信されます。*.MIB* 定義ファイルでは、*SNMP* トラップの取得とペイロードを実行できるデータセットを定義します。

既存のシステム管理ツールとフレームワークを使用して *SNMP* データにアクセスするには、Intel\Server Manager\bin に保存されている *systemmanager.mib* をロードするかコンパイルします。

注：

- *SNMP* トラップに返されたマルチメディア デバイスに関するデータは常に同じシーケンスで返されるとは限りません。
- OS イベント ログと BIOS イベント ログ データは取得に時間がかかることがあります。

SNMP をインストールする

SNMP は、ISM 管理コンソールをインストールするコンピュータには必須です。*ASF* が機能する、または *IPMI* 対応のシステムおよびシャーシ管理モジュールからアラートを受信するには、*SNMP* サービスが実行中であることが必要です。特定のインストールの情報については、使用している *Windows* のマニュアルか、*Microsoft* の *Web* サイトを参照してください。

ISM サービス

*Windows** 2000、*Windows* 2003、および *Windows* XP では、インストールされているコンポーネントにより、ISM で複数のサービスを実行することができます。

- **SSM** - Intel System Space Manager。 *HTTP* サーバ、ノード検索エンジン、ノードログ ファイル、ヘルス マネージャ、保存と転送、および *SNMP* などの ISM コンポーネントを、ISM の必要に応じてロードおよびアンロードします。
- **BSA** - Intel Bootstrap Agent。 ISM コンピュータの検出を有効とし、BIOS とドライバの更新を中心にパッケージ転送用の安全なメカニズムを提供します。
- **LSM_WBA** - ISM Win Bridge エージェント。

- **LANDesk Message Handler Service** - モデムの呼び出しの送受信を監視し、アラートイベントをトリガします。
- **インテル サーバ・マネージャ SNMP Service** - SNMP プラットフォーム イベント トラップを BMC から直接受信し、ISM イベント システムへリレーします。
- **USM - User Space Manager**. サービスではありませんが、ログオン時に各ユーザに対して USM が起動します。USM では、トレイ アイコンとポップアップ アラートがホストされます。
- **Resident Agent** - ISM のセキュリティ機能を有効にします。このサービスは **Windows XP SP2** の **[Windows ファイアウォール]** の **[例外]** リストに表示されます。
- **Intel ISM WDT** - ウォッチドッグ タイマ リセット サービス (IPMI 対応コンピュータのみ)。

IPMI

ISM では IPMI (Intelligent Platform Management Interface) がサポートされています。IPMI とは、インテル*、H-P*、NEC*、および Dell*によって開発された仕様で、管理を有効にしたハードウェアのメッセージとシステム インターフェイスを定義します。IPMI には監視と復旧の機能が含まれ、マシンの電源が入っているかどうかや、OS の状態にかかわらず、さまざまな機能にアクセスすることができます。Intel による IPMI の概要については、*IPMI の概要ガイド*を参照してください。

IPMI 監視は、BMC (ベースボード管理コントローラ) にもとづいています。BMC は電源がスタンバイ状態の場合に稼動し、システムのヘルス状態を自動的にポーリングします。BMC で何らかの要素の値が範囲外になったことが検出された場合に IPMI でとる対応を設定することができます。対応には、イベントのログへの記録、アラートの生成、自動復旧アクションの実行 (システムの電源オフ、リセットなど) があります。

システムで BMC を検出するには、**SMBIOS 2.3.1** 以降がインストールされていることが必要です。BMC が検出されない場合、レポートやエクスポートなどで一部の IPMI 情報が欠けていることがあります。

IPMI では、サーバの物理的なヘルス特性 (温度、電圧、ファン、電源、シャーシへの侵入など) を監視するための、ハードウェアへの共通インターフェイスが定義されます。ヘルスの監視に加え、IPMI にはその他のシステム管理機能が含まれています。自動アラート機能、自動システムシャットダウンと再起動、リモートからの再起動と電源制御機能、および資産追跡機能などです。

ISM では、IPMI バージョン 1.5 および 2.0 がサポートされており、2.0 はバージョン 1.5 との後方互換性があります。バージョン 2.0 の新機能には、統合された **Serial Over LAN 管理 (SOL)** とシリアルリダイレクトオーバー LAN、エンハンスド **RMCP+** パケットフォーマット (認証および暗号化アルゴリズム)、新規 **OEM ペイロードタイプ** に対するエンハンスド検出およびサポート、**?ファームウェア ファイアウォール** (特定のインタフェースからの特定コマンドの実行を制限)、および **OEM 付加価値機能の統合** に対する継続的サポートなどが含まれます。

IPMI 対応システムの ISM メニューの内容は、オペレーティング システムの状態によってやや異なる場合があります。

IPMI 対応システムの管理機能

監視機能は、監視するサーバに何がインストールされているかに依存します。ベースボード管理コントローラ (BMC) のある任意の IPMI 対応システムは、管理コンソールで限定的に監視可能です。ISM ブリッジエージェントがインストールされた際に追加の監視機能が追加されます。管理のフル機能は、ISM サーバ コンソールがインストールされた際に利用可能になります。また、サーバ コンソールは、IPMI 対応でないサーバにもインストールすることができます。下記の表でこれらの 4 つのオプションを比較します。

	BMC*	BMC + ブリッジエージェント	BMC + サーバ コンソール	サーバ コンソール (非 IPMI)
アウトオブバンド管理対応	X	X	X	
インバンド管理対応			X	X
サーバは検出可能	X	X	X	X
環境センサーの読み取り	X	X	X	ASIC のみ
リモートでの電源オン/オフ	X	X	X	X
イベント ログの読取りとクリア	X	X	X	
アラートの設定	X	X	X	X
OS 情報の読取り		X	X	X
正常なシャットダウン		X	X	X
SMBIOS 情報の読取り (プロセッサ、スロット、メモリ)		X	X	X
IP 同期 (OS から BMC)		X	X	
ウォッチドッグ タイマ		X	X	
BMC と管理コンソールの通信	X	X	アウトオブバンドのみ	
ローカル ISM コンポーネントと管理コンソールの通信			X	X
ISM 管理の全機能			X	

*標準 BMC。ミニ BMC (mBMC) は、ベースボード管理コントローラの縮小版です。これは、上記の機能を持ちますが、以下のような制限があります。

- LAN (SOL) 経由でのシリアル リダイレクトはサポートしない
- BMC 管理用に 1 つのユーザ名しか持たない
- BMC との通信に 1 チャネルしか使用しない
- システム イベント ログ (SEL) リポジトリが小さい
- ミニ BMC プラットフォームではブリッジエージェントはサポートされない

バージョン情報

[バージョン情報] を使用して、ISM のインストール中にインストールされたファイルのリストや、これらのファイルが使用可能かどうかを表示することができます。

バージョン情報を表示するには

1. ブラウザ ウィンドウの右上で [バージョン情報] をクリックします。
2. [バージョン情報] をクリックします。
3. 元の画面に戻るには、画面の下部で [バージョン情報に戻る] か [閉じる] をクリックします。

摂氏から華氏に変換する

温度をモニタするコンピュータ ハードウェアでは温度が摂氏でレポートされるため、アメリカ国内のユーザはその温度を華氏に変換することがあります。次の表は、ISM により報告される、摂氏温度に対する華氏温度の一覧です。（変換公式は、 $^{\circ}\text{F} = 9/5(^{\circ}\text{C}) + 32$ です。）

°C	°F	°C	°F	°C	°F	°C	°F
0°	32.0°	26°	78.8°	51°	123.8°	76°	168.8°
1°	33.8°	27°	80.6°	52°	125.6°	77°	170.6°
2°	35.6°	28°	82.4°	53°	127.4°	78°	172.4°
3°	37.4°	29°	84.2°	54°	129.2°	79°	174.2°
4°	39.2°	30°	86.0°	55°	131.0°	80°	176.0°
5°	41.0°	31°	87.8°	56°	132.8°	81°	177.8°
6°	42.8°	32°	89.6°	57°	134.6°	82°	179.6°
7°	44.6°	33°	91.4°	58°	136.4°	83°	181.4°
8°	46.4°	34°	93.2°	59°	138.2°	84°	183.2°
9°	48.2°	35°	95.0°	60°	140°	85°	185.0°
10°	50.0°	36°	96.8°	61°	141.8°	86°	186.8°

11°	51.8°	37°	98.6°	62°	143.6°	87°	188.6°
12°	53.6°	38°	100.4°	63°	145.4°	88°	190.4°
13°	55.4°	39°	102.2°	64°	147.2°	89°	192.2°
14°	57.2°	40°	104.0°	65°	149.0°	90°	194.0°
15°	59.0°	41°	105.8°	66°	150.8°	91°	195.8°
16°	60.8°	42°	107.6°	67°	152.6°	92°	197.6°
17°	62.6°	43°	109.4°	68°	154.4°	93°	199.4°
18°	64.4°	44°	111.2°	69°	156.2°	94°	201.2°
19°	66.2°	45°	113.0°	70°	158.0°	95°	203.0°
20°	68.0°	46°	114.8°	71°	159.8°	96°	204.8°
21°	69.8°	47°	116.6°	72°	161.6°	97°	206.6°
22°	71.6°	48°	118.4°	73°	163.4°	98°	208.4°
23°	73.4°	49°	120.2°	74°	165.2°	99°	210.2°
24°	75.2°	50°	122.0°	75°	167.0°	100°	212.0°
25°	77.0°						

用語集

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z

A

AGP

Advanced Graphics Port (アラート グラフィックス ポート)。AGP ビデオカード用の小型の拡張スロットを使う高性能のバス的一种。AGP バスは 3D グラフィックス アプリケーションをターゲットとし、PCI に対する一連の性能拡張をベースとする。

AMS

Alert Management System (アラート管理システム)。呼び出し、インターネット メール、ブロードキャスト等のあらゆるアラート機能を提供するインテル製品のコンポーネント。

ASF

Alert Standard Format (アラート標準フォーマット)。アラートとリモート コントロールのインターフェイスを定義し、ネットワーク上のデバイスを、オペレーティング システムがない場合でも率先して管理することができる基準。

ASIC

Application-Specific Integrated Circuit (アプリケーション特有統合サーキット)。特定のアプリケーション用に設計された、カスタムのマイクロチップ。

B

BIOS

Basic Input/Output System。一連のソフトウェア ルーチンで、通常マザーボードのファームウェア チップに保管されている。BIOS は、キー入力の解釈、マウスのクリック、画像および画面の文字の表示、およびプリンタへのデータ送信等のコンピュータの出入力処理を行う。

blade server (ブレード サーバ)

効率を高めるために電源管理、冷却システム、他の管理機能を共有する複数のサーバを使用して省スペース型で使用するために設計されたサーバ。ブレード サーバは通常、1 つまたは複数のシャーシ管理モジュールを含むブレード シャーシに保存される。

BMC

Baseboard Management Controller (ベースボード管理コントローラ)。システムのヘルス ステータスを自動的にポーリングするマイクロチップ。BMC はスタンバイ電源で動作し、何らかの要素が検出できなくなったときにいくつかのアクションを実行する。

BSA

Bootstrap Agent (ブートストラップ エージェント)。コンピュータにインストールされていて、安全にブートストラッピング (読み込みと実行) とリモートのコンソール アプリケーションから他のソフトウェア パッケージの設定を有効にするモジュールのセット。

C

cache (キャッシュ)

プロセッサが使う次のデータや手順を保持する高速メモリ。プライマリ キャッシュはマイクロプロセッサに搭載されている。セカンダリ キャッシュはマイクロプロセッサの外部に存在し、独自のメモリ チップを使う。メモリ キャッシュの書き込みポリシーは、ライトスルー キャッシュとライトバック キャッシュの 2 つの方法により導入することができる。

chassis (シャーシ)

コンピュータのフレームまたは構造。ブレード シャーシは複数のブレード サーバを保持するフレームで、通常、複数のブレード サーバの統合された管理を有効にするシャーシ管理モジュールを含む。

CIM

Common Information Model (共通情報モデル)。コンピュータのコンポーネントを管理する工業標準。CIM も **Desktop Management Task Force (DMTF)** により後援されている。ISM は CIM を使い、コンピュータのコンポーネントに関する情報を収集する。

CMM

シャーシ管理モジュール。

COM1

第 1 通信ポート (通信 1)。シリアルポートは、コンピュータへの長距離通信デバイス (モデム等) との接続に頻繁に使われるため、コンピュータのシリアルポートは「COM1」(通信 1)および「COM2」(通信 2)と呼ばれる。

CRC

Cyclical Redundancy Check (巡回冗長検査)。パケットを送信する前にその内容のチェックサムを計算し、配達するパケットのトレーラにその結果を保管するネットワークのエラー確認手順。パケットがネットワークの送信先に達すると、データの正当性を確認するためにチェックサムが再計算される。不一致がある場合は、送信元のコンピュータはパケット再送信の要請を受信する。

D

DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol (動的ホスト設定プロトコル)。ネットワーク内での IP アドレスの割り当てを管理する通信プロトコル。ネットワーク上のノードの IP アドレスを静的 (1つのノードに 1つのアドレス) に割り当てることも、動的 (使用できる IP アドレスより多くのコンピュータがある場合など) に割り当てることもできる。

DIMM

Dual In-line Memory Module (デュアルインラインメモリモジュール)。モジュールの両側にメモリチップを含む小型の回路基盤。コンピュータで使用可能な RAM 領域を増やすために、DIMM は SIMM のようにマザーボードのソケットに簡単に挿入できる。DIMM コネクタのタブは、回路基盤の脇に接触する個別の 168 ピンを使う。2 個所の接触により、DIMM から 2 倍のデータを移動することができる。(また DIMM 回路基盤を許容するように設計されたソケットのタイプも DIMM と呼ばれる)

discover (検索)

コンピュータで指定したネットワークの検索。

DMA

Direct Memory Access (ディレクトメモリアクセス)。データをデバイス (例えばハードドライブ等) から直接メモリに移動する手順。この手順はプロセッサが他の作業を重点的に行えるようにその使用領域を減らす。

DMA チャンネル

ハードドライブ等のデバイスから直接データをメモリに移動するために使われる 7 つのチャンネル (0-6 の番号が付いている) の内の 1 つ。

DNS サーバ

Domain Name Service server (ドメイン名サービスサーバ)。ネットワークアドレス (通常 IP アドレス) や「Intel.com」等の意味を持つドメイン名を備えたインターネットにおけるコンピュ

ータの動的データ ベースを維持する。ブラウザでドメイン名を入力してインターネット リソースを検出すると、DNS サーバはそのリソースに関連する IP アドレスを検出する。

E

ECC

Error Correction Code (エラー修正コード)。コンピュータのシステム メモリ用の高度なエラー検出プロトコル。このコードは 1 ビットおよび複数ビットのエラーを検出し、その場で 1 ビットのエラーを修正する。

EDO

Extended Data Output (拡張データ出力)。非 EDO チップに比べ、CPU のメモリのアクセス時間を 10 - 15 パーセント高速化できる一種のメモリ チップ技術。ただし、性能を向上するには、コンピュータは EDO メモリが提供する高速機能を使えるように設計されている必要がある。

EISA

Enhanced Industry Standard Architecture (拡張工業標準アーキテクチャ)。ISA バス標準に引き継ぎ導入された 2 つの標準の内の 1 つ。EISA バスは IBM の MCA バスに対抗するために IBM の競合会社により開発された。

environment variables (環境変数)

コンピュータのセットアップ時に初期化されるユーザ環境に関する変数で、その環境で実行されているオペレーティング システムとアプリケーションによって使用される。

expansion slots (拡張スロット)

マザーボードの細長いソケットは、機能拡張を目的としてコンピュータにカスタム拡張カードをインストールするために使われる。例えば、コンピュータをネットワークに接続するために拡張スロットにネットワーク アダプタを差し込むことができる。その他の拡張カードには、ビデオカード、サウンドカード、およびモデムが含まれる。

F

FAT

File Allocation Table。大部分のオペレーティング システムに対応する一般的なファイル システム。FAT は広く使用され、必要領域もわずかだが、NTFS や FAT32 のようなより高度なファイル システムで使用できる多くの機能を提供しない。

FAT32

File Allocation Table 32-ビット。FAT32 は当初に開発された FAT よりも大きなディスク領域 (最高 2 テラバイト) に対応する。また、使用クラスタ領域も少量で、各クラスタにおける未使用領域を減少する。

file system (ファイル システム)

ハードディスクや他のメディアのファイルを管理、保存、および復元するためのオペレーティング システムの部分。一般的なファイル システムには、FAT、FAT32、NTFS、ext2、ext3、および ReiserFS などがある。

FRU

Field Replaceable Unit (フィールド置換可能ユニット)。IPMI 対応のシステムで、現場サービス修理の際に通常ユニット全体を交換するモジュールまたはコンポーネント。

G

GHz (ギガヘルツ)

1 秒あたり 10 億のサイクル。マイクロプロセッサの速度 (クロック速度) はギガヘルツで測定される。各コンピュータの指示が規定のサイクル数を必要とするため、クロック速度はマイクロプロセッサが 1 秒に実行可能な指示数を決定する。10 GHz で動作するマイクロプロセッサは 1 秒 100 億のサイクルで動作する。

H

hexadecimal (16 進数)

コンピュータ回路系の多側面で使用される、メモリ、IRQ、IRQ、ネットワーク アダプタ アドレスなどのアドレスを数値化し提供するために使われる、16 進数を使ったシステム。16 進数の数値は、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F で表す。これらの数値は、10 進数では、0 から 15 に相当する。16 進数で F まで数え、次に 10 から 1F (10 進数では 16 から 31) まで、および 20 から 2F (10 進数では 32 から 47) まで 2 桁でというように数える。

HTTP サーバ

Hypertext Transfer Protocol サーバ。HTML ウェブ ページ等のファイルを格納し、要請に応じて HTTP クライアント コンピュータにそれらのファイルを提供するサーバ コンピュータ。

I

I/O アドレス

出入力に使われるベース メモリの 16 進数のアドレス。

in-band (インバンド)

ネットワーク要素 (ファイアウォール、ルータ、サーバなど) が広域ネットワークまたはローカル エリア ネットワーク管理ツール(SNMP など) によって管理されると、その要素は「インバンド」と見なされる。アウトオブバンドも参照。

instrumentation (インスツルメンテーション)

特定のコンポーネントに CIM 管理機能を与える実行可能なコード。インスツルメンテーション コードは、コンポーネントの製造元により提供される。

Interrupt Request (IRQ) (割り込み要求)

プロセッサに割り込み処理を要求する、優先順位を持つハードウェア デバイスの割り込み信号。各ハードウェア デバイスには、通常、0 から 15 (16 進数の場合は、0 から F) のそれぞれの IRQ アドレスが必要。

IP アドレス

ネットワークとネットワーク上のローカル コンピュータの場所を識別する数値。127.17.5.12 等の小数点で 4 組に区切られた 8 数値から構成される。IP アドレスは TCP/IP ネットワーク プロトコルのみに使用される。

IPMB

Intelligent Platform Management Bus。アーキテクチャ、プロトコル、ベースボードとシャーシを相互接続し、システムのプラットフォーム管理情報の通信メディアを提供する特殊バスの実装。

IPMI

Intelligent Platform Management Interface。管理対応ハードウェアのメッセージとシステムインタフェースを定義するために開発された仕様。IPMIには監視と復旧の機能が含まれ、マシンの電源が入っているかどうかや、OSの状態にかかわらず、ハードウェアを管理することができる。

ISA

Industry Standard Architecture (工業標準アーキテクチャ)。最初に IBM および対応するコンピュータに採用されたバスの標準。後に、*EISA*、*MCA*、*PCI*、および *SCSI* 等のより技術的に高度なバスが ISA に取って代わった。

J

JBOD

Just a Bunch Of Disks (単なる一連のディスク)。RAID (パフォーマンスとフォールトトレランスを向上するディスクドライブのサブシステム) に準拠して設定されていないハードディスクを指す。

K

なし

L

LIF ソケット

簡易挿入ソケット。プロセッサや他のチップ用に早期のマザーボードに使われた古いタイプのソケット。その後開発されたものと異なり、**ZIF** ソケットは LIF ソケットにチップを挿入する際に強い力を必要とし、その取り外しにも特別な道具やドライバが必要とされる。

LPT1

First parallel printer port (Line Printer 1) (第 1 パラレルポート (ラインプリンタ 1))。パラレルポートは通常コンピュータにプリンタを接続するために使用されるため、パラレルポート名、**LPT 1** と **LPT 2** はそれら (ラインプリンタ 1、ラインプリンタ 2 など) に接続した、初期の「ラインプリンタ」に由来する。

M

MAC アドレス

メディアアクセスコントロールアドレス (ハードウェアアドレスまたはノードアドレスとしても知られる)。ネットワークアダプタに永久にコード化され、ネットワークの特定のコンピュータを識別するために使用される、特有の 6 バイトの 16 進数アドレス (00AA00C778F7 など)。

management module (MM) (管理モジュール)

ブレードシャーシに配置される複数のブレードサーバの管理を容易にするプロセッサ、バス、メモリ、周辺機器を持つ特殊用途のシングルボードコンピュータ。管理モジュールは通常 IPMI コンポーネントを監視し、電源管理と温度管理を提供し、アウトオブバンド管理を可能にする。

ISM では管理モジュールは固有のシステムとして管理され、個別のブレード サーバはそれぞれ別々に管理されるとともに管理モジュール グループの一部にもなる。

MCA

Microchannel Architecture。IBM が ISA バスの次に導入したバス アーキテクチャ。

MHz (メガヘルツ)

1 秒あたり 100 万のサイクル。マイクロプロセッサの速度 (クロック速度) はメガヘルツで測定される。各コンピュータの指示が規定のサイクル数を必要とするため、クロック速度はマイクロプロセッサが 1 秒に実行可能な指示数を決定する。450 MHz で動作するマイクロプロセッサは 1 秒 4.5 億のサイクルで動作する。

MIB ファイル

Management Information Base。コンポーネントを説明するテキスト ファイル。MIB ファイルは、コンポーネント、グループ、属性および属性値の階層構造を持つ。

MM

管理モジュールを参照。

MOF

Managed Object Format。CIM によってコンポーネントを記述するのに使用されるファイル形式。MOF ファイルは、一般的にクラス、インスタンス、特性および値の階層構造を持つテキスト ファイル。

N

NDIS

Network Device Interface Specification。MAC の副層 (OSI モデルで) の様々なプロトコル ドライバとの通信方法を定義する標準。このインターフェースは、同じコンピュータで実行されているさまざまなプロトコル (TCP/IP、IPX *SPX*、および NetBEUI 等) を有効にし、ネットワークアダプタと通信するために使用される。

NTFS

New Technology File System。Microsoft により開発され、Windows NT* で使われる独占的な機能を満載したファイル システム。NTFS が持つ機能として、ロング ファイルネーム、ファイル レベルセキュリティ、およびファイル圧縮等がある。

O

out-of-band (アウトオブバンド)

ネットワークがダウンしたり重大な障害が発生すると、ネットワーク管理ツール (SNMP) が使用できなくなり、ネットワーク要素 (ファイアウォール、ルータ、サーバなど) をツールで管理できなくなる。これらのアウトオブバンド ネットワーク要素は IPMI によって管理できる。インバンドも参照。

P

packets (パケット)

送信側と受信側のコンピュータ間のネットワーク ケーブルを介して転送される、制御情報とアドレス情報を持つ一定のサイズに分割されたデータ。

parallel port (パラレル ポート)

パラレル通信を使いプリンタやその他のデバイスを接続するために使われるハードウェアのポート。「クロス トーク」(あるワイヤの情報が他のワイヤに漏れる)は、長距離の並列のケーブルにおいて問題となるため、パラレル ポートとケーブルは一般に短距離で使用される。

parity errors (パリティ エラー)

メモリ エラー確認手順により、メモリに保存された一部のデータが不良になったことが確認されるとパリティ エラーが生じる。パリティ エラーは通常メモリ チップの物理的な問題により発生する、メモリ チップが不良になったことを示す信号。

PCI

Peripheral Component Interconnect。当初の ISA バスに続きインテルにより開発された広範囲のサポートを提供するバス アーキテクチャ。

PCMCIA

PC カードとしても知られる Personal Computer Memory Card International Association。当初ポータブル コンピュータ市場で開発されたクレジット カードと同じ大きさの拡張カード。

plug and play (プラグ アンド プレイ)

新しいハードウェア コンポーネントを接続した際に、インストールの手続きをおこなわずとも、自動的に検出と設定を行うコンピュータの機能。プラグ アンド プレイでは、周辺機器を接続するだけで使用することができる。

POST

Power-On Self-Test (電源投入時の自己診断)。電源を投入した後にコンピュータの BIOS によって実行される一連の診断テスト。POST はハードウェアが適切に機能しているかどうかを判定する。重要なハードウェアが正しく機能していない場合は、ブートプロセスは続行されない。

primary cache (プライマリ キャッシュ)

マイクロプロセッサに内蔵されたメモリ キャッシュ。マイクロプロセッサの回路へプライマリ キャッシュが隣接すると、プライマリ キャッシュはセカンダリ キャッシュよりも高速化する可能性がある。

primary gateway (プライマリ ゲートウェイ)

TCP/IP ネットワークにおいて、最終的な送信先がローカル ネットワークではない全てのネットワーク パケットが送信されるルータ。

provider (プロバイダ)

CIM コンポーネントからデータを集め管理する CIM インストルメンテーション。

proxy server (プロキシ サーバ)

アプリケーション (ウェブ ブラウザ等) と別のサーバ (HTTP サーバ等) 間に存在するサーバ。プロキシ サーバは、以前にプロキシ サーバによってアクセスされたファイルの要請を受け、実行して性能を改善する。さらにプロキシ サーバはサーバによる要請をフィルタしてネットワークのセキュリティも提供する。

Q

なし

R

RAID

Redundant Array of Independent (または Inexpensive) Disks の略。フォールトトレランスとパフォーマンスのために、2つ以上のドライブを組み合わせて使用するディスクドライブのカテゴリ。RAID ディスクドライブは、サーバで頻繁に使用されるが、一般的にパーソナルコンピュータでは必要はない。

resolution (解像度)

画面表示を構築するために結合する画面の小さな個々のピクチャの要素(「ピクセル」)の数。高解像度(1280 x 1024)は低解像度(640 x 480)よりも多くのピクセルを使用し、より明確な画像を提供する。高解像度は一般的に、大型のモニターを持つユーザが大型画面の表示面積を経済的に利用するために選択される。

S

SCSI

Small Computer Systems Interface。最高7つのSCSIデバイスの連結とバスの共有を可能にするバスタイプ。プロセッサの介入なく、SCSIデバイスは連結におけるどのデバイスがある時間にバスにアクセスできるかを判断する。2つのSCSIデバイス(SCSIハードドライブやSCSIテープドライブ等)は、プロセッサの介入なく相互にデータをリレーすることができる。

SDR

センサーデータレコード。プラットフォーム管理センサータイプ、場所、イベントの作成、アクセス情報を提供するデータレコード。

secondary cache (セカンダリ キャッシュ)

マイクロプロセッサの外部に存在するキャッシュコントローラとメモリチップを使うメモリキャッシュ。セカンダリキャッシュはプライマリキャッシュと同レベルの高速化の可能性を提供しない。ただし、プライマリキャッシュよりもかなり容量が大きいため、より多くの指示とデータを保存する。

serial port (シリアルポート)

ハードウェアポートはシリアルデバイス(モデム、マウス、およびキーボード)をコンピュータに接続するために使われる。シリアルポートはコンピュータの並列のデータを、シリアルケーブル経由で1ビットずつ(あるいは電圧パルス)送ることができる、シリアルデータに変換する。シリアルポートとケーブルは、並列長距離通信で生じる「クロストーク」(あるワイヤの情報が他のワイヤに漏れる)を削除するために使われる。またシリアルポートはマウスとキーボードをコンピュータに接続する際にも使われる。これらのデバイスは多くのデータを送信しないため、パラレルケーブルの余剰帯域幅を必要としない。

Service Provider (サービスプロバイダ)

DMIコンポーネントインストールメンテーションへのアクセスを介し、MIFデータベースを管理するソフトウェアのコード。

SIMM

Single In-line Memory Module。通常 1 つのバンクに 8 または 9 のメモリ チップを含んでいる小型回路基盤。コンピュータで使用可能なメモリを増やすために、SIMM はマザーボードのソケットに簡単に挿入することができる。

Slot 1 (スロット 1)

一部のインテル(R) Pentium(R) プロセッサに使われるプロセッサのソケットのタイプ。スロット 1 は、Single Edge Contact (SEC) カートリッジとしてパッケージされたプロセッサに対応する、242 接触スロットを使用する。マザーボードはスロット 1 を 1 つまたは 2 つ備えている。スロット 1 は、L2 キャッシュとクロック速度の半分の速度で動作するプロセッサの間の通信のみに対応する。

Slot 2 (スロット 2)

インテル(R) Pentium(R) II Xeon(TM) プロセッサに使われるプロセッサのソケットのタイプ。スロット 2 は、Single Edge Contact (SEC) カートリッジとしてパッケージされたプロセッサに対応する、330 接触スロットを使用する。スロット 2 の設計は、L2 キャッシュとクロック最高速度で動作するプロセッサによる通信を可能にする。

slot type (スロット タイプ)

コンピュータのマザーボードで使用可能な拡張スロットのタイプ。ISA、EISA、MCA、PCI、SCSI、または AGP など。(プロセッサのソケット タイプであるスロット 1 およびスロット 2 とは別)

S.M.A.R.T.

Self Monitoring Analysis and Reporting Technology。それ自身のヘルスを監視し、起こりうる問題をレポートで通知するドライブ技術。

SNMP

Simple Network Management Protocol。一連の標準 TCP/IP プロトコルの一部であるネットワーク管理プロトコル。ISM は、ネットワーク デバイスを監視し、ネットワークで生じる異常なイベントや問題を通知するために SNMP トラップを受信および管理する SNMP 管理コンソールを利用することができる。

SNMP 管理コンソール

SNMP トラップを受信し管理するためにインストールされたソフトウェアを持つネットワークのコンピュータ。この目的のために一般に使用される製品の例としては、Microsoft Systems Management Server、HP OpenView Network Node Manager*、CA Unicenter Frameworks*、および Tivoli NetView* などがある。

SNMP トラップ

SNMP が指定した目的地 (通常 SNMP 管理コンソール) へ送信する一部のネットワーク イベントの通知。

SSL

Secure Sockets Layer。インターネット上のセキュアなメッセージ転送に最もよく使用されているプロトコル。SSL セキュリティを必要とする HTTP 接続を確立するときの URL は「https」で始まり、メッセージがセキュア レイヤを通して送信されることを示す。

subnet mask (サブネット マスク)

255.255.255.0 等の小数点で 4 組に区切られた 8 数値から構成される 32 ビットの数値。サブネット マスクは 127.17.5.12 等の IP アドレスと 1 組になり、IP ルータにどの IP アドレスのどの

数値がネットワーク ID でどの数値がノード ID かを通信する。例えば **255.255.255.0** のサブネットマスクは、IP アドレスの最初の 3 組の数値 (**127.17.5** 等) がネットワーク ID で、最後の IP アドレスの数値 (**12** 等) がノード ID であることを示す。(サブネット マスクの中で使用することができる有効な数値は **255、254、252、248、240、224、192、128** および **0**)

T

taskbar (タスクバー)

通常画面の下部分に表示される **Windows** のツールバー (場面の上下左右に移動可能)。タスクバーには **Windows** のスタート メニュー、実行中のアプリケーションを示すボタン、および現在の時間、様々なツールやプログラムのアイコンを含むシステムトレイ (タスクバーの右端) が含まれる。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol。インターネット (とネットワーク) 通信に使用される基本プロトコル。

threshold (しきい値)

通過した場合にアラートアクションを発生する、設定可能な値。使用可能なディスク容量およびメモリ等の一部のシステム イベント用のしきい値を設定することができる。

U

UDP

User Datagram Protocol。TCP/IP プロトコルファミリの中で一般的に使われる非接続型のトランスポート層プロトコル。TCP と異なり、UDP パケットがネットワーク上に送られる場合、UDP はパケットが送信先で無事に受信されたかどうかの確認を行わない。

UNC

Universal Naming Convention または **Uniform Naming Convention**。ネットワークのリソース (コンピュータやプリンタ等) の位置を指定するための形式。UNC の名前は次の形式を使う。

\\コンピュータ名\共有リソース パス名。

例 : \\My computer\My documents\file.txt

V

なし

W

Wake on LAN テクノロジ

スリープ モードや電源がオフの状態にある PC をリモートでウェイクアップする一般的な方法。**Wake on LAN** *テクノロジーは、スリープ状態にあるコンピュータによるネットワークトラフィックの管理および **Wake on LAN** の指示への対応を可能とする **Wake on LAN** ネットワークアダプタを持つコンピュータでのみサポートされている。

write-back cache (ライトバック キャッシュ)

ライトバック キャッシュはキャッシュにデータを書き込み、定期的にキャッシュ データとメモリ データの間の不一致を確認する。(例えば DMA 経由でメモリへデータを直接転送するハードドライブから、不一致が生じることがある)。ライトバック キャッシュはライトスルー キャッシュより速いが、メモリとキャッシュ間の不一致を監視するための容量が高価。

write-through cache (ライトスルー キャッシュ)

ライトスルー キャッシュは 1 度の操作でメモリとキャッシュに同じデータを書き込む。ライトスルー キャッシュはライトバック キャッシュよりも低速だが、キャッシュ データと対応するメモリのデータが常時一致することを保証するため、安全性が高い。

X

なし

Y

なし

Z

ZIF ソケット

簡易挿入 (ZIF) ソケットはプロセッサおよび他のチップ用にマザーボードで使用されるソケットタイプ。LIF ソケットと異なり、ZIF ソケットへチップを固定するために圧力はほとんど必要なく、特別な道具やドライバは ZIF ソケットからチップを外すために必要ない。ZIF ソケットは、ソケットへチップを固定する場合に高価なプロセッサのピン (あるいは一列のピン) を不注意で曲げる危険性を低減するように設計されている。

著作権と商標について

本インテル(R) サーバ マネージャ 8.40 ヘルプおよび記載されているソフトウェアは、ライセンスの元で提供されており、本ライセンスの条項に基づいてのみ使用または複製できるものとします。本マニュアル内の情報は情報目的でのみ提供されており、予告なしに内容を変更することがあります。また、インテル コーポレーションが責任を負う義務があるとは解釈しないものとします。インテル コーポレーションは、本文書、または本文書と関連して提供される任意のソフトウェアにおいて起こりうる、いかなるエラーまたは不正確さについて、その責任を保証したり、義務を負うことはありません。

かようなライセンスにおいて許諾される場合を除き、本文書のいかなる部分も、インテル コーポレーションの書面による明示的な許諾を得ることなく、複製、検索システムへの保存、いかなる形態または手段の送信もできないものとします。

このドキュメントの情報は、インテル (R) 製品に関連して提供されております。このドキュメントによって、すべての知的所有権は禁反言またはその他によって明示的または黙示的に許諾されるものではありません。インテル製品の販売に関する条件および条項の記載事項を除き、インテルは一切の責任を負いかねます。また、インテルは特定目的に対する適合性、商品性、いかなる特許権の侵害、著作権、またはその他の知的所有権に関する責任および保証も含め、インテル製品の販売および (または) 使用に関する明示的または黙示的な保証を負うものではありません。インテル製品は、医療、人命救助、人命維持、重要管理や安全システム、核施設アプリケーションにて使用されるものではありません。

インテルは、予告なしにいつでも仕様および製品の説明を変更することがあります。

Intel、Pentium、Xeon、および Celeron は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の、商標あるいは登録商標です。

* その他の製品名またはブランドは各所有者に帰属します。

Copyright (C) 2004, 2005 Intel Corporation.

Copyright (C) 2004, 2005 LANDesk Software, Ltd. All rights reserved.

(このページは意図的に空白にされています)

キーワード

[L
[ウェイクアップ可能] アイコン..... 17	LAN およびシリアル接続、IPMI 70
[危険] アイコン 17	Linux システムの必要条件..... 4
[警告] アイコン 17	M
[使用不能] アイコン 17	MIDI デバイス 45
[正常] アイコン 17	O
[不明] アイコン 17	OS 47
A	R
Alert Management System 68	routers 4
Alert on LAN 67	S
AMS 68	Serial over LAN (SOL) 接続 22
B	SNMP 68
BIOS 36	T
BIOS をリモートから更新する 25	TCP/IP アドレス 45
BIOS、シリアル番号 36	W
BIOS、バージョン 36	Windows システム モニタの情報 48
BIOS、リモートから更新する 25	Windows のサービス 91
BIOS、製造元 36	WINS サーバ 45
BMC 92	あ
BMC 設定 70	アイコン 17
D	アダプタ情報 38
DHCP サーバ 45	アプリケーション、コンピュータにインス トールされているアプリケーション 41
F	アラート アクション、オペレーティング シ ステム 47
Field Replaceable Unit (フィールド交換可 能ユニット) 40	アラート アクション、センサ 52
FRU 92	アラート アクション、ドライブ 39
I	アラート アクション、パフォーマンス 48
I/O ポート 49	アラート アクション、メモリ 42
Intelligent Platform Management Interface 92	アラート アクション、電圧 55
Internet Explorer 4	い
IPMI 92	イベント、ハードウェア 57
IPMI 設定 70	

インストール、トラブルシューティング..89	さ
インストールされているアプリケーション41	サーバシステムの必要条件..... 4
インストールする.....41	サーバ、検索する..... 12
う	サーバの概要..... 31
ウォッチドッグ タイマー、BMC.....70	サービス、Windows..... 91
ウォッチドッグ タイマー-うおっちどつぐた いまー.....67	サブネット..... 4
お	サブネット マスク..... 45
オーディオ デバイス.....45	し
オペレーティング システム.....47	しきい値、ドライブ容量のしきい値の設定 39
き	しきい値、メモリ..... 42
キーボード/マウス.....41	しきい値を設定する、メモリ..... 42
く	システム必要条件..... 4
クライアントシステムの必要条件.....4	シャーシ、ブレード..... 36
こ	シャーシのファン..... 40
コンソール リダイレクション.....22	シリアル ポート..... 49
コントロール、資産.....34	シリアル番号、オペレーティング システム 47
コンピュータ メモリ.....42	す
コンピュータ、シリアル番号.....31	スロット、ブレードシャーシ..... 36
コンピュータ、リストから削除する.....20	せ
コンピュータ、検索する.....12	セキュリティ..... 7
コンピュータ、資産番号.....31	センサ..... 52
コンピュータにインストールされているプ ログラム.....41	そ
コンピュータのアプリケーションのリスト41	ソフトウェア..... 57
コンピュータのオペレーティング システム31	て
コンピュータのステータス アイコン.....17	ディスプレイ..... 38
コンピュータのマザーボード.....44	データの暗号化..... 7
コンピュータの概要.....31	デスクトップ、検索する..... 12
コンピュータの資産番号.....34	デスクトップの概要..... 31
コンピュータをリストから削除する.....20	デバイス ドライバ..... 38
コンピュータをリモートから再起動する..22	デバイス、マルチメディア..... 45
コンピュータ名.....34	デフォルトのゲートウェイ..... 45
	と
	ドキュメント..... 10

ドライバ	38
ドライブ	39
ドライブのしきい値の設定	39
ドライブ容量、しきい値を設定する	39
トラブルシューティング	89
ね	
ネットワーク	45
ネットワーク アダプタの数	45
は	
バージョン、オペレーティング システム	47
バージョン情報	94
ハードウェア イベント	57
パッケージ、ダウンロードおよびインストールする	25
パッケージをインストールする	25
パッケージをダウンロードする	25
パフォーマンス	48
パラレル ポート	49
ひ	
ビデオ デバイス	45
ふ	
ファン	40
ファンの情報を表示する	40
ブレード サーバ	55
ブレード、シャーシ	36
プロセス	51
プロセスの開始	51
プロセスの停止	51
プロセスの統計を表示する	51
プロセスを中止する	51
プロセッサのファン	40
へ	
ベースボード管理コントローラ	92

ほ	
ポート	49
ポーリング タイマー	69
ポーリングの頻度	69
ま	
マウス/キーボード	41
マザーボード	44
マザーボード情報を表示する	44
マルチメディア	45
み	
ミキサー デバイス	45
め	
メモリ	42
も	
モデル、マザーボード	44
モニタ情報	38
ら	
ラップトップ、検索する	12
ラップトップの概要	31
り	
リストからコンピュータを削除する	20
リモートから BIOS を更新する	25
リモートからコンピュータの電源をオフにする	22
リモートからコンピュータの電源をオンにする	22
リモートからコンピュータの電源を切る	22
リモートからコンピュータの電源を入れる	22
リモートからコンピュータを電源オフ、電源オン、再起動する	22
ろ	
ログ、ハードウェア イベント	57
漢字	
仮想メモリ	42

華氏、摂氏から変換する	94	設定の変更を監視する	57
解像度、サポートされているモニタ	38	設定の変更を表示する	57
環境変数	39	全導入管理費用	3
管理モジュール、ブレード シャーシ	42	著作権について	106
管理者システムの必要条件	4	電圧	55
資産管理	34	電源オプション	22
重要製品データ	55	電源ドメイン、ブレード シャーシ	50
商標について	106	電源モジュール、ブレード シャーシ	50
証明、セキュリティ	7	電源設定、IPMI	70
情報、マザーボード	44	物理メモリ	42
新しいコンピュータ、検索する	12	変数、環境変数	39
新しいコンピュータを検索する	12	用語	95
新機能	2	用語辞典	95
数値センサ	52	用語集	95
摂氏、華氏から変換する	94	離散センサ	52
設定の変更	57	連絡先	34